

# 大久保E遺跡発掘調査概要報告書・I

OKE89-1区・90-1区・90-2区

平成9年 3月

熊取町教育委員会

# 大久保E遺跡発掘調査概要報告書・I

大久保E遺跡89-1区・90-1区・90-2区

平成9年 3月

熊取町教育委員会

## はしがき

近年の発掘調査の成果には驚くべきものがあります。佐賀県吉野ヶ里遺跡や大阪府和泉市池上曾根遺跡での大規模な弥生集落、出雲の銅鐸群の発見、青森では従来の常識を変えるような画期的な発見もありました。また近年は骨董品やその鑑定がもてはやされてたりするなど古いものへの関心が高まっています。埋蔵文化財の緊急発掘調査は代々伝わる名品を珍重するのではなく、土の中から粉々に砕けた状態で検出される土器や、田畠の跡や地震の痕跡などにいたるまでを丹念に検出して記録保存する地道な作業であり、昭和40年代後半から全国で本格化しました。

発掘調査をすることなく工事を行えば、我々祖先が代々築いてきた過去は永遠に失われてしまいます。我々は発掘調査という一度きりのチャンスを最大限に活かし、慎重な発掘調査をすることが必要なのであります。そのため日々多くの労力を払っています。

本町におきましても昭和50年代半ばより発掘調査が行われ、埋蔵文化財包蔵地（遺跡）は38ヶ所を数えました。発掘調査の継続に伴って埋蔵文化財報告書も昨年度までに第26集を刊行し、今後調査結果も益々蓄積していくことと思います。これらの成果を基に、私達の住む熊取町の祖先の姿を偲んだり、過去の熊取町ひいては泉州地域の歴史を解明する様々な研究に活用していきたいと考えております。大久保E遺跡は平成元年から2年間駅前区画整理事業に伴って行った発掘調査によって発見された遺跡であり、実に多くの土器が出土するなどの成果を得ました。出土遺物は破片にしておよそ6500点にも及び、これらを7年間かけて徐々に整理・研究を続けてきた一応の成果を御報告致します。

教育委員会教育長 甲田 太三郎

## 例　　言

1. 本書は平成元年から平成2年度までに熊取町教育委員会が公共事業として実施した大久保E遺跡における発掘調査の概要報告書である。

大久保E遺跡89-1区	区画整理	熊取町駅前整備課
大久保E遺跡90-1区	区画整理	熊取町駅前整備課
大久保E遺跡90-2区	区画整理	熊取町駅前整備課
2. 現地における各調査は井田匡氏（昭和61～平成2年度熊取町教育委員会嘱託職員）が行った。本書の刊行に向けての内業作業は阿部真氏（平成2～5年度熊取町教育委員会考古学技師）と前川淳が指導した。
3. 本書の執筆・編集は前川淳がおこなった。
4. 本書における標高はT.P.（東京湾平均潮位）を用いた。
5. 土色は、小山正忠・竹原秀雄編「新版標準土色帖」第10版（農林水産省農林技術協議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修1990年度版）を採用した。
6. 調査の実施にあたり、本町駅前整備課をはじめ関係者各位から多大なご協力・ご援助を得た。また本書の執筆に際して、阿部真氏（平成2～5年度熊取町教育委員会考古学技師）・池峯竜彦氏（堺市教育委員会）・奥田尚氏（国立橿原考古学研究所）・鈴木陽一氏（泉佐野市教育委員会）・玉谷哲氏・坪之内徹氏（奈良女子大）・西村歩氏（財団法人大阪府埋蔵文化財調査研究センター）・米田敏幸氏（八尾市教育委員会）から有益なご教示を賜った。（五十音順）
7. 遺物の写真撮影に関しては平成7年度に立花正治氏に委託し、平成8年度に（株）阪急写真工業に委託した。
8. 調査・整理にあたっては以下の者の参加を得た。

池辺吉也・石松直・尾上賢一郎・上代憲史・川東士朗・久世公一・桑原良治・後藤久枝・阪口雅美・杉本由貴子・関井澄子・大門由香里・高浜留美・宅野京子・武田徹・田中亜紀子・田中小夜・辻本栄子・富村伊都子・前田公子・木葉希・南谷克実・森下恵子・安福佳代・山本恵子・吉田知秋・義本哲司・和田志穂

# 目 次

## 第1章 地理的・歴史的環境

第1節 熊取町の地理的環境	4
第2節 熊取町の歴史的環境	4
第3節 大久保E遺跡付近の地理的環境	7
第4節 周辺の遺跡	7

## 第2章 調査の概要

第1節 調査の概要	8
第2節 基本層序	9
第3節 遺構	9
第4節 遺物	10
第5節 胎土について	35

## 第3章 まとめ

第1節 大久保E遺跡の土器と特徴	39
第2節 堺市下田遺跡との比較	39
第3節 その他の遺跡との比較	40
第4節 その他	45
参考文献	46
遺物観察表	47

# 挿 図 目 次

第1図 熊取町の位置	第9図 瓢
第2図 熊取町における遺跡分布図	第10図 壺
第3図 調査地点周辺地図	第11図 高杯・器台
第4図 調査区位置図	第12図 高杯・器台
第5図 調査区遺構平面図・壁面土層図	第13図 製塙土器・たこ壺・鉢
第6図 瓢	第14図 堺市下田遺跡との比較図
第7図 瓢	第15図 周辺遺跡
第8図 瓢	

# 図 版 目 次

図版第1 調査区全景	図版第8 遺物	図版第15 遺物	図版第22 遺物
図版第2 遺構	図版第9 遺物	図版第16 遺物	図版第23 遺物
図版第3 遺構	図版第10 遺物	図版第17 遺物	図版第24 遺物
図版第4 遺構	図版第11 遺物	図版第18 遺物	図版第25 遺物
図版第5 遺物	図版第12 遺物	図版第19 遺物	図版第26 遺物
図版第6 遺物	図版第13 遺物	図版第20 遺物	
図版第7 遺物	図版第14 遺物	図版第21 遺物	

# 第1章 地理的歴史的環境

## 第1節 熊取町の地理的環境



第1図 熊取町の位地

熊取町は大阪府泉南地域のはば中央部に位置し、東を貝塚市、他の三方を泉佐野市に囲まれている。町域は東西約4.8km、南北約7.8kmと南北に長い木の葉形を呈し、約17km<sup>2</sup>の町面積を有している。(第1図)

地形についてみると、町南部は泉州地域の基本山地となる和泉山地が大部分を占め、北部は和泉山地から派生する和泉丘陵とその縁辺部に発達する段丘部よりなる。面積比では山地・丘陵部が町面積の3分の2を占めている。第2図のとおり熊取町は樫井川の下流域にひろがる扇状地(泉佐野市)と近木川下流域の扇状地に挟まれるような状況にあり、それぞれとは比較的急峻な丘陵によって隔たっている。いいかえれば熊取町は、丘陵によって周囲から隔たった状況にあり、町の外周に丘陵が存在している状況である。そしてまた町の中央部分(現在の五門・野田地区)にも大きな丘陵があるため、丘陵に囲まれた中にさらに浮島状の丘陵が存在する独特的の景観を呈していたようである。このことが「クマトリ」の語源になったともいわれる。

## 第2節 熊取町の歴史的環境

縄文時代の遺跡とよべるもののは現在のところ存在しない。成合寺遺跡や東円寺跡の調査で有舌尖頭器や石鋸数点を検出しているが、遺構に伴うものではない。

また明確に弥生時代を示す遺構を検出できた遺跡も存在しない。大久保に存在する遺跡群からは稀に弥生式土器片を検出しているが明確な遺構に伴わない。今回の大久保E遺跡の発掘調査で自然流路や溝状の遺構から大量の弥生時代末期~古墳時代初期頃の上器が検出された。弥生時代と古墳時代との境界の年代については今なお様々な研究の焦点となっており不明確で、大久保E遺跡がどちらの時代の範疇に含まれるのかは検討を要するところである。

奈良時代の遺構が住吉川をさらに上がった熊取町役場のある野田付近(東円寺跡)から検出されている。熊取町で発見される埋蔵文化財の大部分は中世期からのものである。このことは僅かに残存する文献・資料とも矛盾しない。平安時代末期頃に野田に建立され、鎌倉時代初期頃から栄えたと考えられる東円寺と大きな関連があると思われる。特に住吉川沿岸部分での開発を中心として拡大していったと思われる。

空町時代では雨山城などの山城が多く築かれたようであるが、目下のところ明確な遺構は検出されていない。大浦中世墓地遺跡からは15世紀代を示す石藏仏をはじめとする遺物を伴う墓地遺構が発見されている。また久保の来迎寺からは戦国期頃の土師器がまとまって出土している。近世に入ってからはさらに開発が盛んとなり、五門の中家住宅(遺跡名)付近や大久保の降井家屋敷跡から遺構が検出されるとともに、溜池なども多く築かれていたことが発掘調査によって確かめられている。

熊取町遺跡分布図



第2図 熊取町における遺跡分布図



第3図 調査地点周辺地図

### 第3節 大久保E遺跡付近の地理的環境

熊取町の西北端では、見出川と和田川が合流した住吉川が泉佐野市に流れ込む際に小さな扇状地状の地形を形成しているが、その扇の要の部分に大久保E遺跡は位置している。第1節で述べたクマドリ状地形の中で唯一丘陵の途切れている部分に相当する。従ってこの地点は大阪湾岸から現在の熊取に入ろうとする際の唯一の玄関口に相当する地域であるため、熊取町で最も古くから発達したようである。大久保E遺跡の調査では、多くの製塙土器が出土していることからも、その地理的環境がこの遺跡の性格を形成していると思われる。

### 第4節 周辺の遺跡

第3図のように大久保E遺跡の周辺の遺跡としてJR熊取駅前には大久保B遺跡がある。大久保B遺跡では昭和63年から平成元年の調査で溝や弥生～古墳時代の土器破片が少量検出されているが以下のところ建物跡等ではなく、大久保E遺跡との直接的な関連は擱めていない。

地形的にこの付近は多くの小河川が存在する氾濫原のような地形を呈していたようである。また大久保E遺跡を含め熊取町内では中世から近世の開発時にそれまでの起伏のある地形を削るなどして平滑な水田としているため、平安時代以前の地形を確認することは非常に稀であり、調査の大きな障害となっている。従って古代時代の遺構として発見されるのは比較的深さのある溝や自然流路に限られているのが現状である。今後の調査で周辺地から新たな遺構が発見される可能性もあるが、大久保E遺跡の北西にひろがる泉佐野市の山出遺跡やその周辺の遺跡のありかたにも注目すべきであろう。

## 第2章 調査の概要



第4図 調査区位置図

### 第1節 調査の概要

本報告書には大久保E遺跡で1990年から1991に行われた3回の公共事業に伴う発掘調査を集録している。調査区の位置関係は第4図のようになる。

熊取町駅前土地区画整備事業における熊取町大久保127-1他4筆の地点では雨水管工事が計画され、その開発面積が500m<sup>2</sup>を超えることから、1989年7月1日から9月30日の間に埋蔵文化財試掘調査を行い、遺構と多くの土器が発見され熊取町第37番目の遺跡である大久保E遺跡となった。(OKE89-1区)

その89-1区の調査は、雨水管が配置される507m<sup>2</sup>に対して第4図のように東区(E区)と西区(W区)の二つの調査区域を設定して機械掘削によって掘り進め、主にその西区の地表下約1.2m付近に古代以前の遺物を含む土層が確認された。また自然流路と思われる遺構の埋土の中からは弥生時代末期～古墳時代初期頃のものと思われる土師質の土器が多数検出された。この調査は本来細長い雨水管工事に伴う調査であったため、その調査区域を拡張することをせず、主に遺物の出土状況の確認とその取り上げ作業が調査の中心となった。

その後1990年8月から1991年3月にかけて駅前土地区画整備事業の宅地造成工事・道路建設工事に伴って、1989年の調査地点を含むより広範な一帯の熊取町大久保474-2、476-1、476-2の約918m<sup>2</sup>で発掘調査を行うこととなり、1989年の調査によって検出した遺構と遺物に連続する成果をあげることになった。(OKE90-1区・OKE90-2区)

## 第2節 基本層序

大久保E遺跡の基本的な層序は、89-1区・90-1区・90-2区の調査区毎に大きな相違はないので89-1区W区西壁を基本層序として第5図に記載した。

近年の開発に伴う大幅な盛土（層厚30～50cm程度土層図では省略）

①灰色砂質土　旧耕作土（15cm程度）

②灰色砂質土　①の床土（6cm程度）

③明黄褐色砂質土　④と同質の土で金属成分が沈着しているもの。（8cm程度）

④浅黄色砂質土　中世の包含層　この層は大久保E遺跡の調査区全体に広がっており、以下の層を削平している。（12cm程度）

⑩暗灰黄色色砂質土　④中世の耕作土を形成する際に整地を行った盛土か、もしくは自然流路SR-1があることによって窪んでいる地形に上の④が落ち込んだもの。古代以前の流路SR-1やSR-3のために水分が染み込んで変色・変質しているものと思われる。（5cm程度）

⑤灰黄褐色粘質土　⑩とはほぼ同質。（最大14cm程度）

⑥明黄褐色粘質土　自然流路SR-1の埋土最上層。中世の遺物は含まない。（最大10cm程度）

⑦褐灰色砂質土　自然流路SR-1埋土。弥生時代末期～古墳時代初期頃の土器がみられる。A層上：器溜A。（最大18cm程度）

⑧明黄褐色粘質土　SR-1埋土。

⑨褐灰色粘質土　SR-1埋土。黒っぽい粘土で多くの土器を含む。B層土器溜B。（最大20cm程度）

⑩黄灰色砂礫、地山。C層土器溜C

焦点となる大量の土器は、流路の底部分、つまり⑩黄灰色砂礫（地山）の上にその多くが落ち込んでいる状況である。また第5図には図示できなかったが、調査区内にはさらに別に黒褐色粘質土が遺構などの凹状地形の上に厚く堆積している場合があり、⑦⑨のような自然流路SR-1埋土よりさらに上層の所産と思われる。

## 第3節 遺構

検出面には大小の溝状の遺構が検出された。調査区の北東には最も大きな規模をもつ流路SR-2がある。SR-1は北→東→南→西と調査区の中を時計回りに蛇行する自然流路である。数度にわたって埋没したものと考えられ、埋土には弥生時代末期～古墳時代初期頃の土器が数多くみられる。またSR-1と合流（もしくは分岐）するような状況で自然流路SR-4が検出されている。SR-4は土器からSR-1の下層とほぼ同時期のものとみられ、SR-1の埋土の上層はSR-4の一部右岸を上から埋没させている。

自然流路SR-1

89-1-W区のトレンチ調査で発見された大量の土器を含む溝状遺構は自然流路（小河川）と考えられる。この自然流路は第5図の平面図のように2段に落ち込んでいるようである。これは数度にわたって徐々に堆積したことを示しているものと考えられる。SR-1の西岸部分は深く、多くの土器がここから検出されるが、この部分は基本層序でも簡単に触れたとおり上層の新しい方からA層B層C層と分層され

ている。但し現段階では層毎に検出された土器を時代毎に識別するには至っていない。

またSR-1は北方向から東→南→西と蛇行しているが、90-2-E拡張区において急激に深さと流路の幅を大きくする部分がある。この部分は黒褐色の粘質土を埋土としており、SR-1の本来の埋土とは大きく相違をみせている。この部分からのみ明らかに庄内式新相と判る土器が検出されていること併せて、SR-1は調査区の南端部分でさらに新しい堆積が生じたものと考えられる。

#### 流路SR-2

調査区の北東端に検出されたより大な溝状の遺構で、幅約6m、深さ約1m程度を測る。また89-1区のE区北側にも連続していることが確認されている。埋土は黒褐色の粘質土を中心とし河川に特有の砂礫はほとんどみられず、遺物が割合少ないことは特徴といえる。断面でみると両肩部は部分的には垂直状になっているところもあるため人工的なものとも考えられるが、目下のところ確定できない。

また切り合いの上では土器を数多く検出するSR-1を完全に切断していることが観察される。

いつ頃どのような目的で新たに掘削された溝か、あるいはSR-1が廃絶した後唐突に生じた自然流路か不明であるが、切り合いの状況などを考えれば人工的に掘削された溝であると思われる。また他の可能性として中世に至って大久保周辺を莊園等で開発する際に用水路の開削や河川改修を目的として整備された水路であったとも考えられるが目下確定できていない。

#### 自然流路SR-4

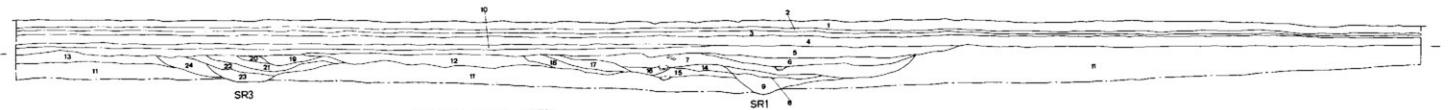
SR-1のすぐ東岸にはSR-1と同方向の流向をもち、SR-1と合流（もしくは分岐）するような状況で流路SR-4が検出された。SR-4はSR-1の旧状であると考えられるが一応SR-4とした。流路の幅は約2.5mで、検出面からの残存する深さは約0.3mである。埋土は黒褐色に見える粘質土であるが、河川に特有の大きな砂礫はなく、川床にシルト・細砂がみられる程度であることから流路内には當時水量がほとんどなかったものと思われる。流路内からはSR-1とほぼ同時期の土器を検出している。

### 第4節 遺物

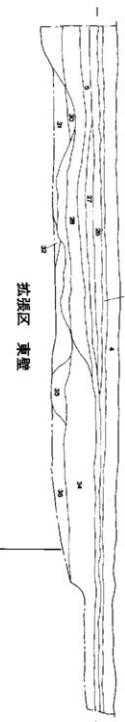
大久保E遺跡で出土した遺物の総数は約 $2 \times 2\text{ cm}$ 以上の大きさの破片を数えた場合約6687点である。このうち弥生時代末期～古墳時代初期頃の土器の破片数は6468点であり、石膏などを加えてほぼ完形に復元できたものは110個体ある。また団化できたものは402点で本報告書にはそのうち351点を図示した。

検出された土器群は概して第V様式の特徴を示すが、個々には一定の特徴を有するものがあり、器種ごとに幾種類かにグループ分けができるようである。しかしこのグループ相互における相違が製作年代の時期差を示すものかは目下のところ確認できない。

また発掘調査当時の報告では、土器群は大久保E遺跡89-1区のトレンチ状調査の際に記録した西壁面土層図（第6図）に観察できるとおり、大別して自然流路SR-1の埋土である3つの土層から出土したと報告されている。この3つの層は発掘調査時に89-1-W区（Eトレンチ）土器溜A（A層）・土器溜B（B層）・土器溜C（C層）と呼称された。A層は褐灰色砂質土（第6図土層番号7 10YR6/1褐灰色砂質土）、B層は褐灰色粘質土（第6図土層番号9 10YR5/1褐灰色粘質土）、C層は地山と考えられる黄灰色砂礫層（第6図土層番号11 2.5Y4/1黄灰色砂礫）であり、いずれも自然流路を示すものである。土器の多くはSR-1の川床であるC層の上面に落ち込んだ状態で検出されるが、SR-1の埋土であるA



1	N	5/	灰色	砂質土(耕作土)
2	5Y	6/1	灰白色	砂質土(旧耕作土)
3	10YR	6/6	明黃褐色	砂質土(底土)
4	2.5Y	7/4	淡黃褐色	砂質土
5	10YR	6/1	明黃褐色	粘質土
6	10YR	6/6	明黃褐色	砂質土
7	10YR	6/1	褐黃褐色	粘質土
8	10YR	6/6	明黃褐色	粘土
9	10YR	5/1	褐灰色	粘質土
10	10YR	4/2	暗灰黃色	砂質土
11	2.5Y	4/1	黃灰褐色	砂(地山)
12	2.5Y	5/1	黃灰色	砂
13	2.5Y	4/1	灰黃褐色	砂
14	5Y	4/1	灰白色	砂
15	5Y	6/1	灰白色	砂壤
16	2.5Y	4/1	黃灰褐色	粘質土
17	2.5Y	5/1	黑褐色	砂壤
18	10YR	4/2	灰黃褐色	砂質土
19	2.5Y	5/4	白い黄褐色	シルト
20	2.5Y	5/6	黄褐色	砂
21	10YR	5/6	黄褐色	砂質土
22	N	7/	灰白色	シルト
23	5Y	4/1	灰白色	砂壤
24	2.5Y	7/2	灰黃色	シルト
25	7.5Y	6/1	褐灰色	粘質土
26	2.5Y	7/4	淡黃褐色	砂質土
27	10YR	7/2	白い黄褐色	粘質土
28	10YR	7/2	白い黄褐色	粘質土
29	7.5YR	3/1	黑褐色	砂質土
30	10YR	6/4	こぶい黄褐色	砂壤土
31	10YR	7/6	明黃褐色	シルト
32	10YR	6/1	褐灰色	シルト
33	7.5YR	6/8	普色	砂壤土(地山)
34	10YR	7/6	明黃褐色	シルト
35	10YR	5/1	褐褐色	粘質土
36	10YR	7/1	灰白色	シルト



第5図 調査区平面図・壁面土層図

層・B層からも多くが検出されている。このA・B層は自然流路SR-1の河岸部における河川堆積土的性格の地層と考えられ、土器はこの三層毎に区別して採取されている。しかしこの三層毎に特徴の異なる土器が出土しているわけではなく、各層相互に特徴の共通する土器が含まれているようであり、A層・B層・C層を時間的に区分するには至っていない。

## 甕

甕は破片数5370点で、このうち図示したものは150点である。

甕はその大きさ・容量や外形・調整方法などは様々であるが、ほぼ総てが庄内併行期におけるいわゆる伝統的第V様式の系譜上にあるものと考えられる。ほぼ総ての甕が割合厚めの器壁からなり、体部を上下に分割して成形した痕跡を残し、外面に粗いタタキ目がみられ、ハケメやケズリはみられない。

但し90-2区からは非常に薄手の庄内式の甕に類似したものや、外面にハケ調整の残る布留系の甕に類似したものを数点検出しており特筆される。

それぞれの甕の口縁部や体部の形状は一定の特徴をもっているため、6種類に分類した。

### I類 長胴甕

#### Ia類 (実測図44点)

10や23に代表できるが、これは今回の出土した甕の中で最も個体数が多いもので、比較的球胴に近いものを含めやや長めの楕円もしくは逆卵形の体部に比較的短い口縁が接続している。下体部は曲線的で球形化が進んでいるともいえる。口縁は外反するものと直線的に聞くものとがあるが、その差異を明確に振りわけるか否か検討を要する。底部は突出した平底であるものが多いが、10や32は突出せず平坦である。

5～6本を1単位とする叩き目は右上上がりであり、口縁部の外面には認められないが、底部外面にまで丁寧に及んでいるものがあり装飾的な感がある。

#### Ib類 (実測図5点)

3や8のように中～小型の法量のものに限られるが、Ia類に比べると下体部が底部にかけてカーブを描かず、上体部から下体部・底部にかけて直線的であることが特徴である。但し小型の土器になるほど外形上の規格が曖昧になる傾向があるために、Ib類がIa類に対して明らかな特殊性があるかどうかは検討を要する。

#### Ic類 (実測図4点)

114や136のようにIa類の甕をさらに上下に扁平にしたような形状で、下体部に比べて上体部が短いものといふことができる。

#### Id類 (実測図1点)

140の1点のみである。大久保E遺跡出土甕中最大で、特に上体部が長胴化している。口縁は端部を欠損しているものの外反していることがわかる。

### II類 球胴甕

体部はほぼ球形で、V様式の甕の中でも球形化が最も進んだものと考えられる。球胴の甕は全体的に器壁が薄く、赤い色調をみせる。同じ大久保周辺地の粘土としても、採取地の違いや粘土採取時期、焼

成状況によって色調に特定の変化があることも考えられるので、さらなる観察が必要である。

#### IIa類（実測図16点）

25や31や121が典型であり出土個体数は決して少なくない。その特徴は球形の体部に小さく突出する底部がある点であり、外反する口縁が付く。叩き目は5～6本1単位の右上がりで底面まで調整されている。

#### IIb類（実測図15点）

77や86のように球形の体部に直線的に開く口縁が付くものである。後の庄内系や布留系の甕へ繋がるものであるのかは慎重な検討をする。

#### IIc類（実測図2点）

52や84のように直線的に開く口縁は非常に長い。体部は球形でIIb類に類似するものである。

#### III類 仮称：有頸甕（実測図4点）

4や46に代表されるが、その特徴は口縁が他の甕と比べて直立しながら先端が僅かに外折気味になっているところで、上体部（肩部）は上方に長くあたかも頭状を呈している感がある。直立気味の口縁基部の外面には叩き目がなく、板状工具によるナデが見られる。口縁の内面には指抑えを残すものもあるが、ナデによって細部に至るまで調整されるものが大部分である。叩きは5～7本を単位とし、上下分割成形のため体部の半分日を境として叩き日の方向が異なっていることが多い。また器壁は比較的厚目で、底部には分厚い平底を突出させている。この甕は一見古相を帯びているようであるが、下体部は極端に球形化が達成されているという印象もある。

#### IV類 庄内系甕（実測図3点）

形状および調整方法などの特徴は上田町II式甕・庄内甕に非常によく似ているが、その胎土は生駒西麓のものではなく、他の伝統的第V様式の甕と同様の大久保E遺跡周辺の在地のものに類似しているよう見える。ただし顕微鏡による胎土の比較研究では129他数点が加賀南部地方の粘土ではないかとの報告がされていることは特筆すべきところであろう。

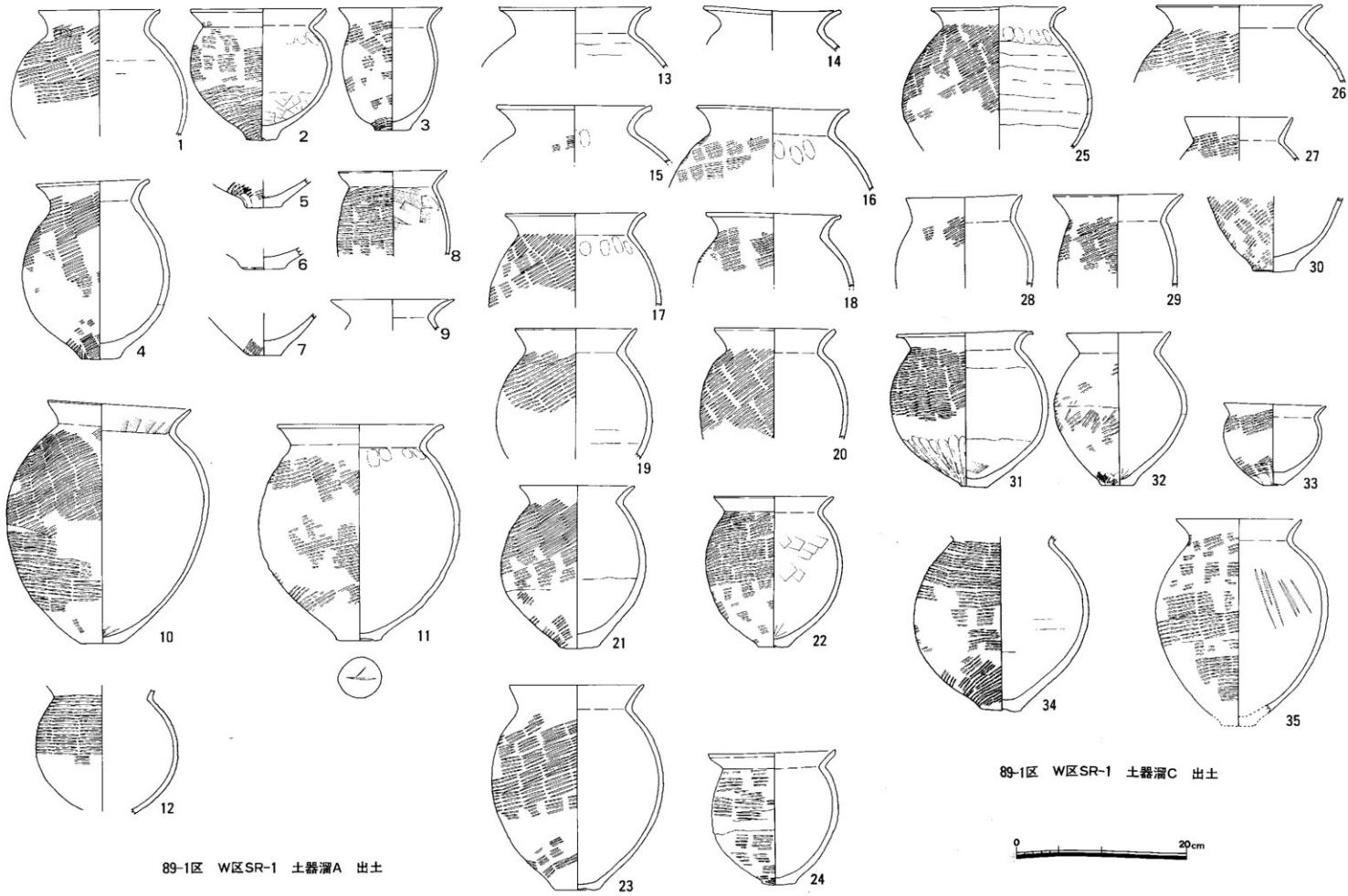
出土点数は復元できたものが129の1点だけではかに口縁部分のみの破片が数点存在するが、それらの出土地点はいずれも90-2区からであり、複雑に切り合う流路のなかで出土している。

129の表面は摩耗して調整は不明瞭であるが、口縁は僅かに内湾して、やや縦長の球形の体部の器壁は極めて薄くヘラ削りがされていると思われる。器高は17.5cm、容量は2.0ℓを測りいわゆる庄内甕よりもやや小さめであると思われる。

#### V類 布留系甕（実測図2点）

出土点数は4点ほどを数えるが口縁部分ばかりの残存で完全に復元できたものはなかった。口縁がやや内湾気味であったり外面にハケメがあるなど布留式の特徴を有していると考えられる。ただし胎土の比較観察ではいずれも大久保E遺跡周辺の在地という結果が出ている。また出土地点はいずれも90-2区からである。

134は相対的に長めの直線状の口縁を有し、ほぼ球形の体部を有する。胎土は在地産と報告され非常に緻密で、器壁は極めて薄い。摩耗で調整は判然としないが、煮沸時の二次焼成痕が残っている。器高は17cmと割合小さく布留甕の標準的なものよりはかなり小さいと思われる。

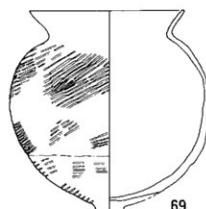
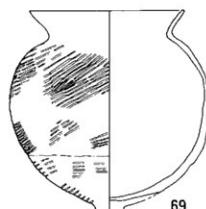
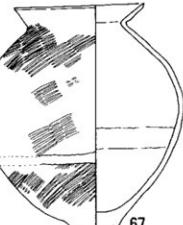
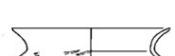
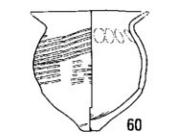
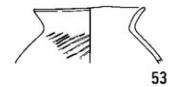
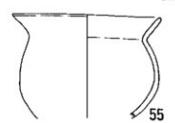
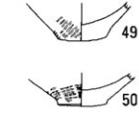
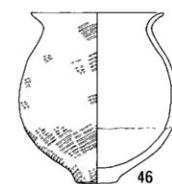
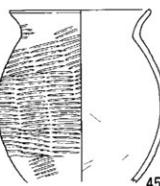
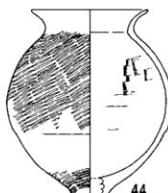
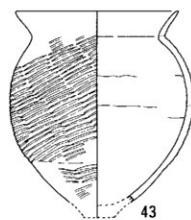
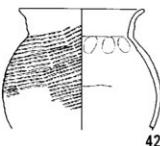
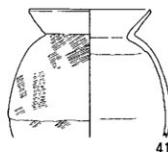
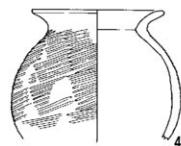
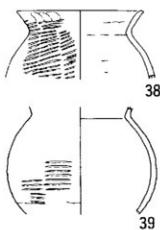
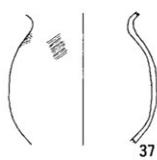
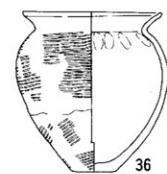


89-1区 W区SR-1 土器溜C 出土



89-1区 W区SR-1 土器溜B 出土

第6図 瓦

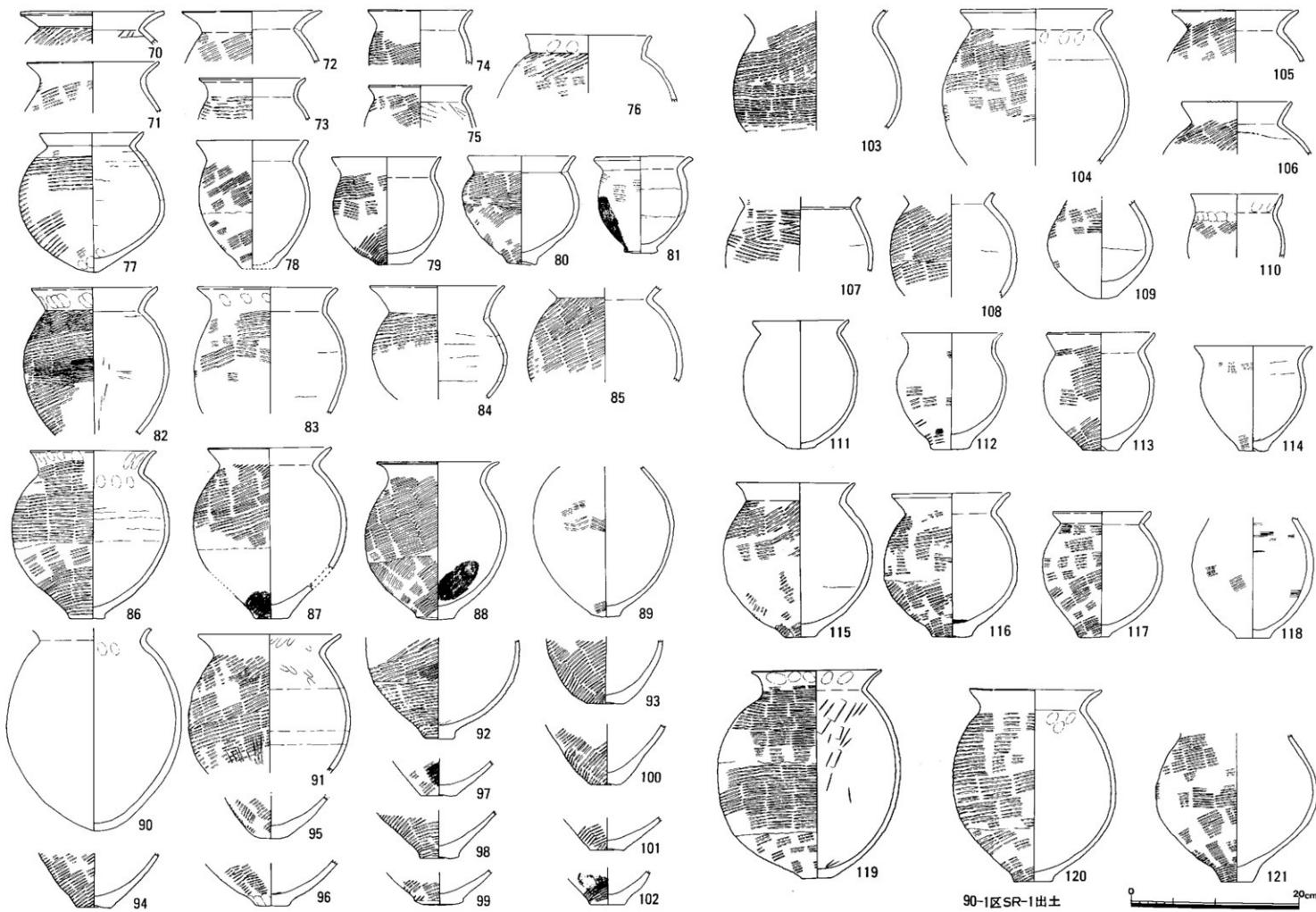


89-1区 W区 出土

0 20cm

第7図 葫

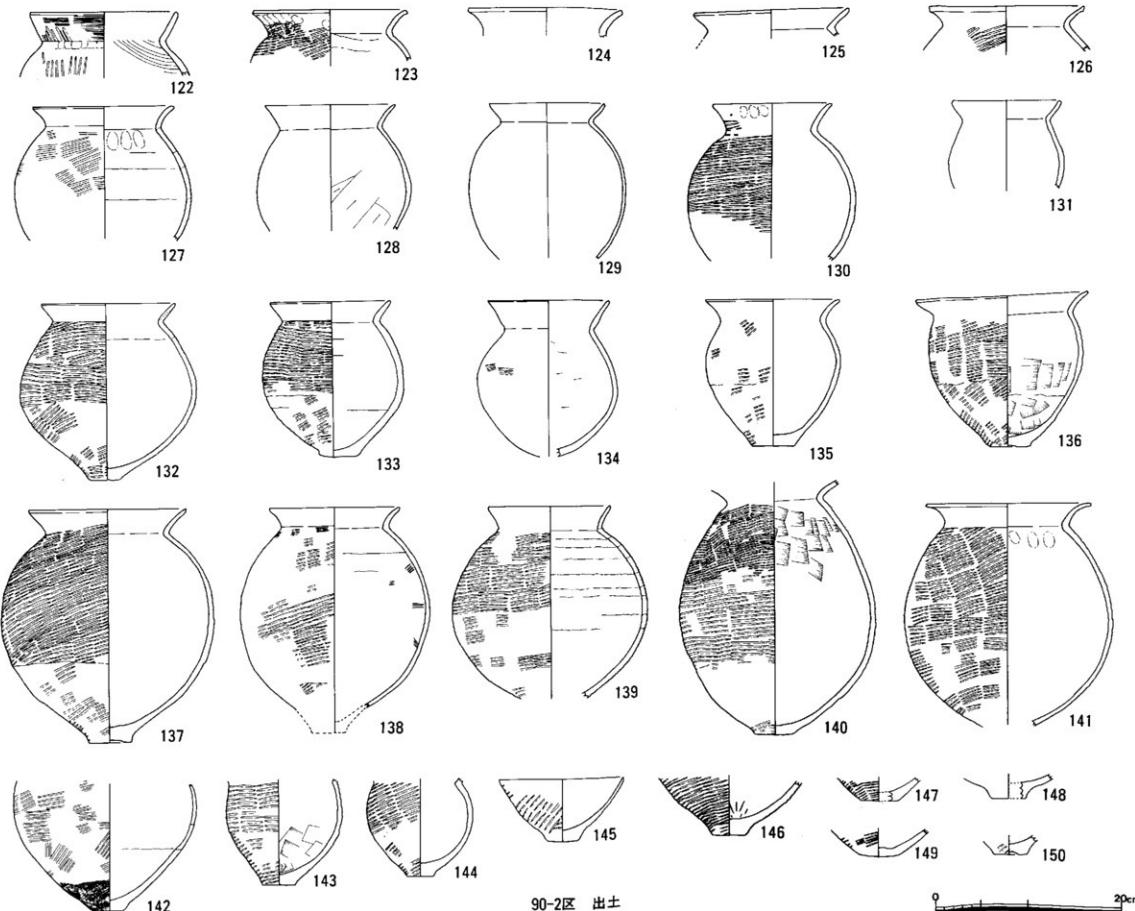
89-1区 E区 出土 17~18



90-1区SR-1出土

0 20cm  
19~20

第8図 壺



90-2区 出土

第9図 繪

122は口縁が僅かに内湾し、胎土は在地産で緻密であり、器壁は比較的厚い。外面には口縁部にまで達する輻方向のハケメと煮沸時の二次焼成痕が観察できる。

IV類・V類は庄内・布留とはしたが、曖昧でどちらともつかず、それぞれが全く異なる特徴を有している状況である。

#### VII類 撤入系甕（実測図1点）

ほぼ完形の90のみの出土ではあったが、色調は独特の黄褐色を呈し、胎土はおそらく徳島産のものであるとされ、外形は長楕円形で丸底であることが大きな特徴である。口縁は非常に短く外反しており、器高は24.8cmと大型である。

### 壺

壺の形狀は非常にバラエティに富む。今回試験的に外形的特徴から5種類に分けてみたが年代を区別することはできない。出土地点も外形によって一定していない。また明らかに新しい部類に入るとされるII類の小型壺も調査区の中では特定の場所に限定して出土していない。

#### I a類（実測図28点）

208に代表されるように二重口縁の壺に類似した口縁を有し、体部はやや横に長めの球胴状を呈し、小さな円形の粘土板を接合して撫で付け底にしている。器高が30cm前後を測る大型のものを中心とするが、173・190・192のような20cm前後のものと容積的に2種類に分けて考えられる。また166のように口縁の内外に波状文を施したものや153のように口縁の接合部に一条の突帯をもつものがあり、さらに185・200など口縁には様々なバリエイションがある。

#### I b類（実測図2点）

152や163のように体部外面にタタキ目があるなど甕のようにも見えるもの。

#### I c類（実測図2点）

160・161のように体部の形狀がI類としての特徴を有するものの口縁が長く直線状に開くものである。

### II類

小型壺と呼べるもので、外形は甕に似ている感がある。

#### II a類（実測図3点）

154のように体部が丸い球胴で直線的に開く長めの口縁が付く平底のものである。

#### II b類（実測図5点）

155や191のように通常小型器台の上に設置されると考えられている。口縁は短くまっすぐ立ち上がる。

#### II c類（実測図2点）

177・209・210のように小型の器台とセットとなるいわゆる小型三種の土器といわれるものであり、いずれも90-216から出土している。

#### III類（実測図4点）

156や197のようにやや棱のある球胴状の体部に長く直線的に開く口縁が付く小型のもので、197には底部に穿孔がある。形状は比較的新しい部類に入ると思われるもので、土師器に連なるものであろう。

#### IV類（実測図3点）

158のように体部に比べて大きな平底を付け、非常に短い口縁を有するものである。体部外面にタタキ目があるものもあるが、概して成形はおおざっぱで器壁が指オサエによってでこぼこしている。

#### V類（実測図3点）

177や178のようにやや縦長ながら球胴の体部に極めて短い口縁があり、底部は指オサエによってつまみ出したものである。口縁は178のように一条の輪状の場合もある。

#### VI類（実測図1点）

167は口径が30cm程度と推定される極めて大きなものである。器壁は薄く、内面に波状櫛描文と口縁端部に刻み目文がある。口縁のみの残存ではあるが、体部はおそらく縦に長い巨大なものであろう。

### 高杯

高杯は破片を含めて出土点数は319点と多い。主に外形容的特徴から5種類に分類してみたが、さらに細分することは可能であろう。

成形上の特徴として共通して見られる点は、脚柱を有する高杯の杯と脚柱の接合方法である。脚柱はもともと中実であったものを棒状の工具で突き出して中空にしたものか、あるいは棒状の道具に粘土を巻き付けて成形したち棒を抜き去ったものは不明であるが、のちに杯部・脚台・脚柱とを接合する際にいわゆる円盤充填法的に脚柱の上と下から粘土を充填している。特に目立つのは杯の接合時に脚柱の穴の下から粘土を棒状の工具で押し込んでいる痕跡を明瞭に残すものが多いことである。

#### Ia類（実測図41点）

237や283を代表例とし出土数が多いタイプである。長い脚柱を有し、器高は13~20cmと大型で、杯底は内湾し、口縁は比較的大きくなめらかに外反する。調整は不明瞭だが杯・脚台・脚柱ともにはナデによるものと思われ、脚柱外面に磨かれた痕跡を見つけることは難しい。また出土地点はSR-1を中心とし、伝統的第V様式の甕群と年代を一致させるものと思われる。

#### 1b類（実測図14点）

222や257などIa類と同様に口縁が外反する杯であるが、法量はやや小さく、脚柱が短くなり、稜も不明瞭である。ほぼ完形に復元できたものは極めて少なく今後の研究課題が多い。

#### 1c類（実測図1点）

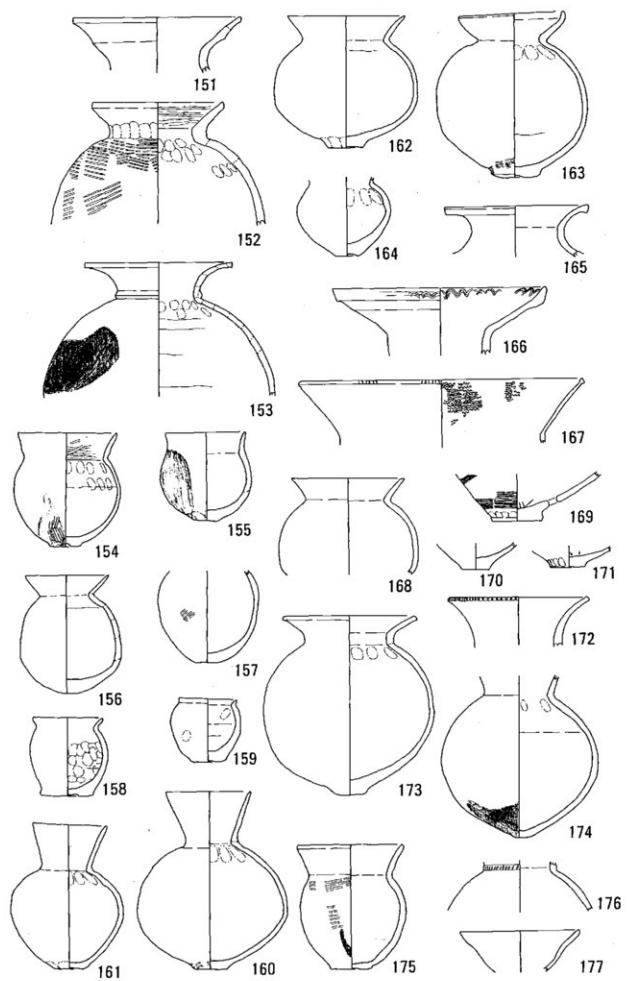
器形法量ともIa類とほぼ同じであるが、228のように脚台が内湾して開く特徴がある。

#### 1d類（実測図3点）

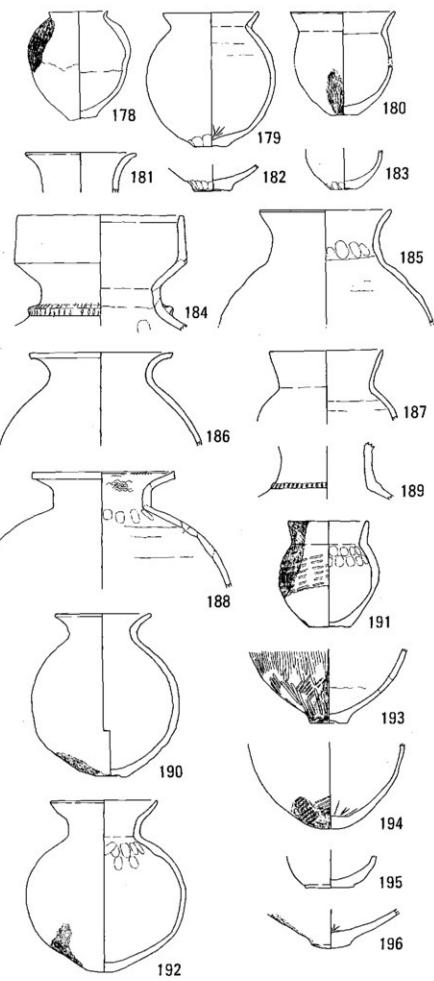
211・301のように口縁の外反が大きく外折気味で口縁端部が一条の突帶状になっているものがある。1d類には211のように杯内外に波状文や口縁外端面に円形浮文がある加飾のものが1点出土している。これは東大阪市馬場川遺跡のものなどと類似しているようである。

#### II類 梗形高杯

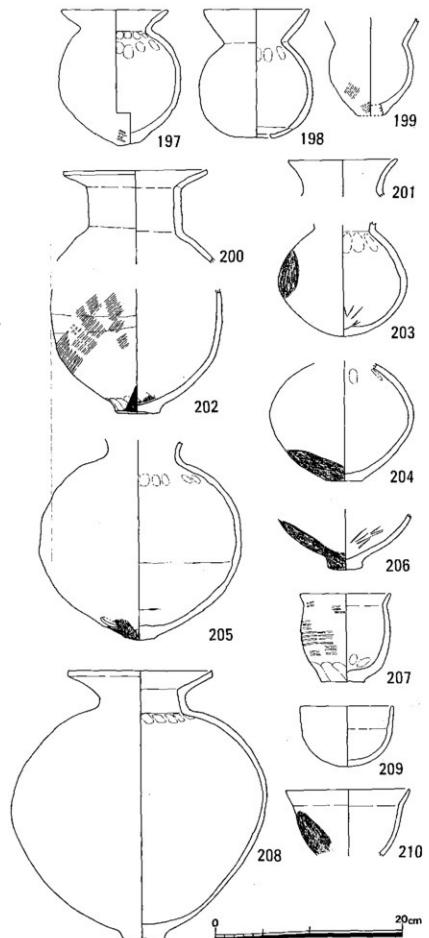
梗形高杯と呼称されるタイプのものである。成形方法はIとはほぼ共通しているものと考えられる。伝統的第V様式の甕や高杯I類と共伴していると考えられる。



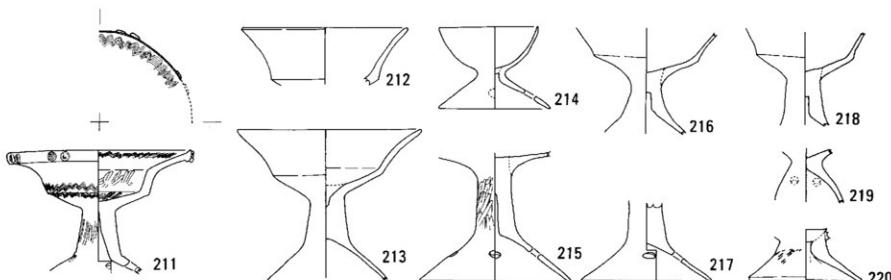
89-1区 出土



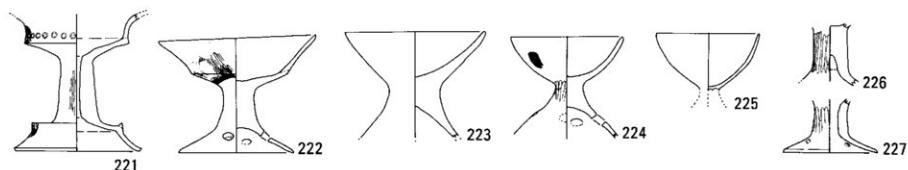
90-1区 出土



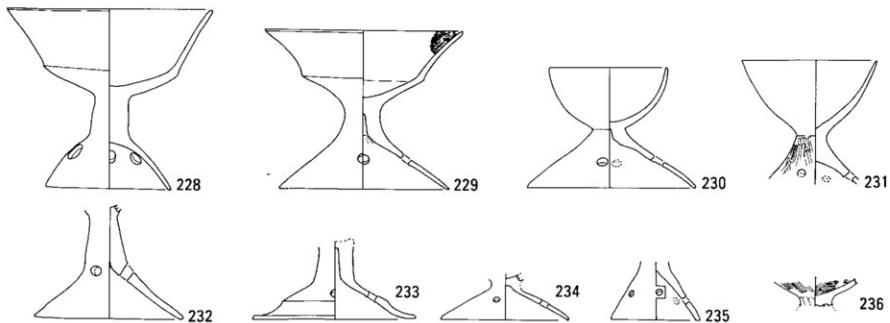
第10図 壺  
90-2区 出土



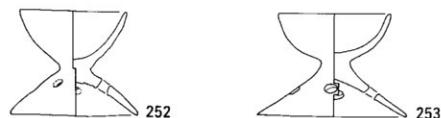
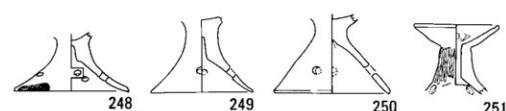
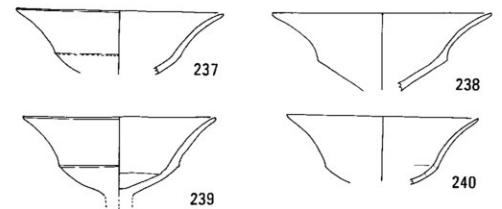
89-1区 W区SR-1 土器溜A 出土



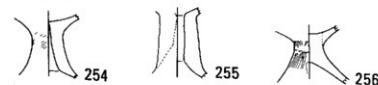
89-1区 W区SR-1 土器溜B 出土



89-1区 W区SR-1 土器溜C 出土



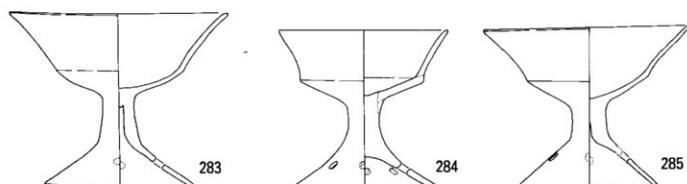
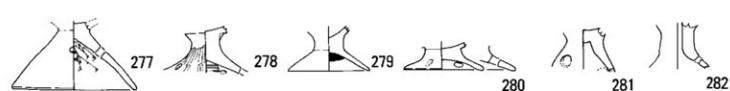
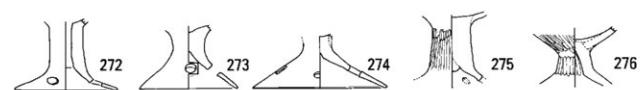
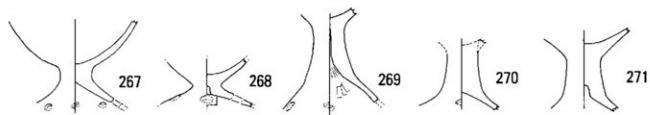
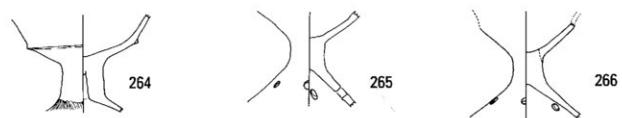
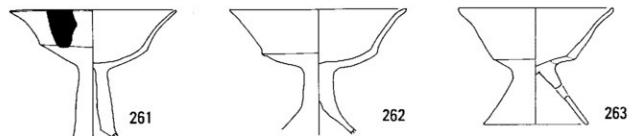
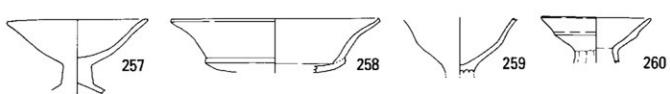
89-1区 E区 出土



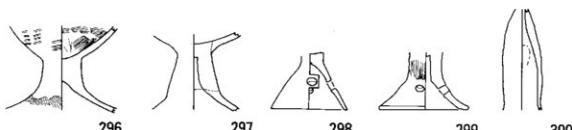
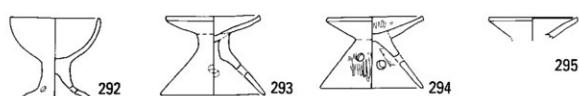
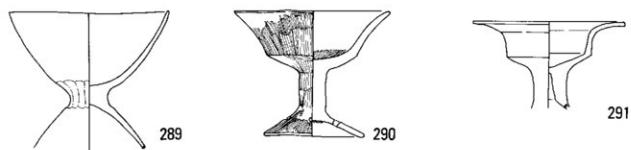
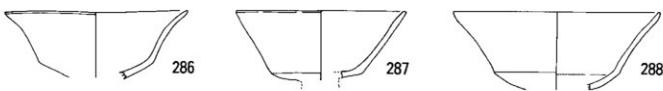
89-1区 W区 出土



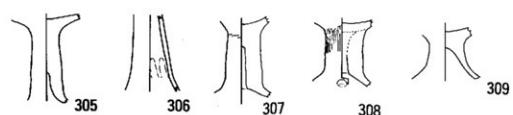
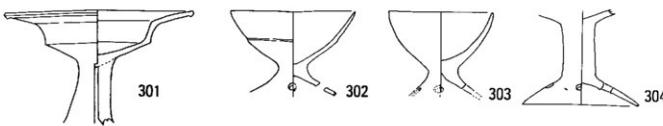
第11図 高杯・器台



90-1区 出土



90-1区 SR-1 出土



90-2区 出土



第12図 高杯・器台

#### IIa類（実測図6点）

224や231のように長い脚柱をもつものであり、次のIIbよりは僅かに古相を帶びている感がある。

#### IIb類（実測図13点）

230や253のように短い脚柱をもち、概して脚台径が杯径を大きく上回る外形的特徴がある。

#### IIc類（実測図2点）

292のような小型の楕形高杯で杯径が脚台径よりも大きく、IIb類よりも新相を示すように思える。

#### III類（実測図2点）

263や287は極めて外形上特異なもので、平底の杯底に直線的に開く口縁が付き、脚柱がなく下方に直線的に開く中空の脚台が杯に直接接合しており、脚台に穿孔もない。復元し実測したものは2点と少ないが大久保E遺跡の高杯の特徴を表すものとしてとらえることができる。杯が平底である点、口縁が外反しないこと、脚柱はないが脚台が薄く中空であることなどから庄内系高杯の特徴に類似しているとも考えられる。黄色味を帯びた粗めの胎土は特徴的であるが、観察によると大久保E遺跡周辺の在地とされる。出土地点はSR1で高杯I、II類と混在する。

#### IV類（実測図3点）

楕ほどまで丸く内湾していない杯は脚台よりも大きく、脚柱がなく脚台が杯に直接付いている。その接合外面には縱方向の強いナデが見られ、脚台に穿孔はないなどの特異な外形を呈する。出土数は223と289の2点でともにSR-1からである。

#### V類（実測図2点）

300と306の2点で脚柱のみの出土であるが、脚柱の成形方法は他とは異質で、完全に中空状で器壁が極めて薄く粘土巻き上げ法によるものであると考えられる。これはおそらく布留傾向にある時期のものと思われ、306の出土地点は90-2区である。

### 器台

器台は全体に対して出土数が少なく実測図では10点となった。また破片の中には高杯の口縁部および充填されていた粘土円盤が脱落したものと紛らわしいものが数点あげられる。今回実測図および遺物観察表では高杯に含めて報告した。

#### I類（実測図1点）

221の一点だけで装饰性が高く、II・III類とは全く性格が異なるものである。

#### II類（実測図4点）

294や295のように概して美しく調整され粗さがなく、杯底部に大きく穿孔し脚台部上端をはめ込む精巧な成形方法を用いている。脚台部側面には穿孔が4つある。

#### III類（実測図2点）

293は短い脚柱部があるため脚上部がくびれて杯につながっているようにみえる。杯底部には粘土板が充填されており器台II類とは相違をみせる。

#### IV類（実測図2点）

251や260は杯中位に口縁接合の稜があり、杯底部から脚柱内面にむかって中空になっているのが特徴

である。

#### V類（実測図2点）

杯部と脚台部が完存する個体がないため、器台か高杯かの判別が難しいが、219や281のように脚台が内湾しながら小さく開き、脚台上部側面に穿孔のある独特の形状をみせる。

#### 鉢

鉢は90・2区を除けばだいたい3種類に分けられると考えられる。I類とII類は基本的にまったく別系統のものであり、その差は年代によるものではなく、用途の違いによるものと考えられる。

##### Ia類

328のように楕状（半球状）の体部にやや厚みのある粘土塊を脚台として接合し、指頭によって強く撫でつけたものである。脚台底面にはくぼみがあり、成形の際親指によって圧迫痕が生じたものと思われる。体部外面には甕と同様の右上がりのタタキが見られる。

##### Ib類

333のようにIa類よりも体部が縱に長いもので、脚台はIaよりも低い。

##### IIa類

341のようにI類とは全く異なった形態をもち、横に長い体部は内湾しながら大きく開き、口縁端部が外折する。また底部は高さのない円形の粘土板をとり付け指によって縱方向にナデている。外面にはタタキが一切見られず、内面には板状工具によるものと思われる横方向のナデがある。

##### IIb類

331の1点だけである。外形はIIa類と似ているが、それよりもかなり大きめで底部にタタキの痕跡が観察されるなど極端に背の低い甕のようにも見える。

##### III類

332・345・347のように外面に明瞭なタタキがあり一見して甕の体部の下半分のように見え甕の未製品や欠損品の可能性もあるが、上端部には欠損したような形跡はなく一応完結しているように見えるため鉢としておく。

#### 製塩土器

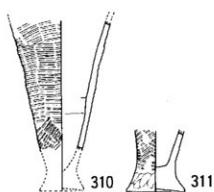
製塩土器はほとんどが経長で上方に向かって開く筒状の体部をもっており、一般に脚台II式や日良式土器B類II B式と呼ばれるものに類似している。観察ではその脚台の部分に2種類の差異をみることができるが、さほど大きな特徴ではない。

##### Ia類

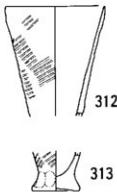
319のように脚台底がほぼ平らで脚台高が比較的高いものである。

##### Ib類

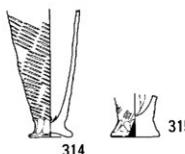
314のように低い脚台はIa類に比べて端部が裾広がり、接合部はよりくびれている。その底面にはくぼみがあり、Ia類とIb類の脚台における差は製作方法に違いがあるためと思われる。なお大久保E遺跡では熊取町の近隣の市町村で出土している製塩土器ほど形状にバリエイションがないことが逆に大き



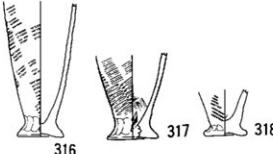
89-1区 W区 出土



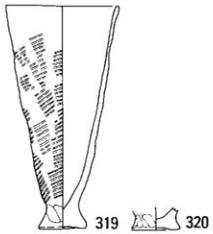
89-1区 E区 出土



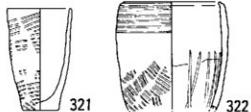
90-1区 SR-1 出土



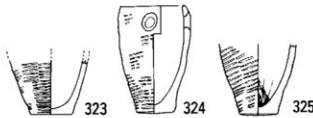
90-1区 出土



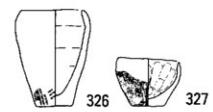
90-2区 出土



89-1区 W区 出土



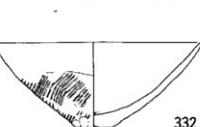
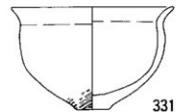
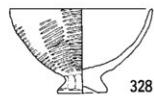
90-1区 出土



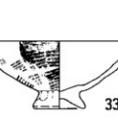
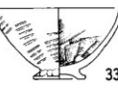
90-2区 出土



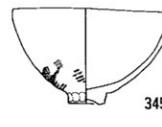
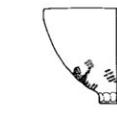
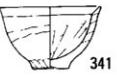
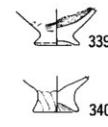
その他の土器



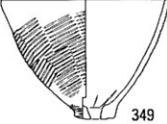
89-1区 出土



90-1区 出土



90-2区 出土



瓶



第13図 製塩土器 蜷壺・鉢・瓶

な特色といえるだろう。

### たこ壺

たこ壺はイイダコ壺の321、324や真蛸壺の322とともに非常に類似したものが貝塚市脇浜遺跡で出土しているようである。ただし詳細に比較検討してはいないのでこれらのたこ壺によって年代を比定するまでには至っていない。

### I類

I類はイイダコ壺で、器高は10cm強程度を測る。外面にタタキ目を残し、体部上端付近に吊紐のための穴がひとつある。底部はすべて平底で、体部は上方に開いたのち端部で急に内湾する。

### II類

II類は322の1点だけであるが、口径は10cm以上あり真蛸壺と思われるものである。体下部は欠損しており不明であるが、タタキ目が残りさらに上端部は真横方向のナデ調整が行われている。

### 胎土について

大久保E遺跡の周辺で採取された砂礫混じりの粘土は、顕微鏡による観察で花崗岩と流紋岩の2種類の岩石からなり、鉱物として石英、長石、角閃石を含んでいるという。このうち大多数の土器の岩石の主体は花崗岩であり、この特徴が大久保E遺跡周辺の粘土を示すといわれる。表1の中では他にIVとして泉州海沿の胎土と推定される土器が数点挙げられており、これは流紋岩質岩起源であるが大久保E遺跡の周辺地と認識してもよいものと考えられる。

従って今回の顕微鏡による観察によっては、実測図として抽出した351点の土器の内349点は在地生産土器と考えられ、残りの約2点の土器の胎土もしくは土器そのものが他の遠隔地から熊取町大久保に搬入されたものと推定される。以下観察の方法や結果を挙げる。

### 大久保E遺跡出土土器の表面に見られる砂礫

奥田 尚

#### 1. はじめに

観察方法は土器の表面に見られる砂礫を肉眼で観察するのみである。土器の表面には大小様々な砂礫が含まれるが、肉眼で観察するのみであるため粒が細かい砂礫や粘土の粗成は識別できない。観察時、砂礫の種類、色、粒形、粒径、量等について配慮した。粒形は角、亜角、円に、粒径は目測により裸眼ではmm単位で鏡下では0.1mm単位で測定した。また量については、非常に多い、多い、中、僅か、ごく僅か、ごくごく僅かの6段階に区分した。砂礫の採取地を推定するために砂礫種構成から源岩を推定し自然界の砂礫と比較した。源岩の推定方法として例えば石英が複六角錐をなす自形であれば流紋岩質岩起源と推定し、石英・長石・黒雲母や石英・長石等と噛み合っていれば花崗岩質岩起源と推定し、粒が円くなっている場合は海岸等の砂と推定した。岩石片が観察できればよいが鉱物片だけでも自形か他形の判断をすることにより、火山岩起源か深成岩起源の砂礫かとおおまかな源岩の推定はできる。源岩を推定し河川の砂礫とを比較することにより砂礫の採取地を推定した。

## 2 土器の表面に見られる砂礫

同定できた砂礫種は岩石片とし、花崗岩、流紋岩、砂岩、チャート、片岩、火山ガラス、鉱物片として石英、長石、角閃石、輝石である。各砂礫種の特徴について述べる。

### 花崗岩

色は灰白色、灰色で、粒形が角、亜角、粒径が最大5mmである。石英・長石が嗜み合っている。

### 流紋岩

色は灰白色、灰色、暗灰色、黒色、赤茶色、褐色と様々で、粒形が角、亜角、亜円、粒径が最大7mmである。石基はガラス質である。溶結しているものもある。本来は溶結していれば溶結凝灰岩となるのであるがガラス質となれば識別が困難なものもあり、流紋岩の中に含めた。

### 砂岩

色は灰白色、褐色で、粒形が亜角、亜円、粒径が最大6mmである。細粒砂からなる。

### チャート

色は灰色、暗灰色、褐色、茶褐色、茶色と様々である。粒形が亜角、亜円で、粒径が最大6mmである。

### 片岩

色は灰色、暗灰色、黒色で、粒形が亜角、亜円、粒径が最大4mmである。泥質片岩、石英質片岩である。

### 火山ガラス

無色透明、褐色透明、黒色透明で、粒径が最大0.3mmである。貝殻状、フジツボ状をなす。

### 石英

無色透明で粒形が角、粒径が最大3mmである。複六角錐あるいはその一部が認められるものがある。

### 長石

灰白色で粒形が角、粒径が最大2mmである。

### 角閃石

黒色で粒形が角、粒径が最大0.2mmである。粒状、柱状をなし結晶面が認められるものや自形をなすものがある。

### 輝石

褐色透明で粒形が角、粒径が最大0.3mmである。柱状で自形をなす。

## 3 類型区分と傾向

砂礫構成をもとに源岩を考慮して区分する。観察した土器の表面に見られる砂礫構成は花崗岩質岩起源と推定される砂礫を主とするI類型、流紋岩質岩起源と推定される砂礫を主とするIV類型、片岩起源と推定される砂礫を主とするVII類型である。細分すればI dn類型、IVa類型、IVe類型、IVg類型、IVgn類型、IVh類型、IVn類型、VIIdg類型となる。各類型の特徴について述べる。

### I dn類型

花崗岩質岩起源と推定される砂礫を主とし、流紋岩質岩起源と推定される砂礫、他形の角閃石の砂礫を含む砂礫からなる。

#### IVa類型

流紋岩質岩起源と推定される砂礫を主とし、花崗岩質岩起源と推定される砂礫を僅かに含む砂礫からなる。

#### IVe類型

流紋岩質岩起源と推定される砂礫を主とし、自形の角閃石や輝石の砂礫を僅かに含む砂礫からなる。

#### IVg類型

流紋岩質岩起源と推定される砂礫を主とし、砂岩やチャートの砂礫を僅かに含む砂礫からなる。

#### IVgn類型

流紋岩質岩起源と推定される砂礫を主とし、砂岩やチャートの砂礫、他形の角閃石の砂礫を僅かに含む砂礫からなる。

#### IVh類型

流紋岩質岩起源と推定される砂礫を主とし、片岩の砂礫を僅かに含む砂礫からなる。

#### IVn類型

流紋岩質岩起源と推定される砂礫を主とし、他形の角閃石の砂礫を僅かに含む砂礫からなる。

#### VIIdg類型

片岩起源と推定される砂礫を主とし、流紋岩質岩起源と推定される砂礫、砂岩やチャートの砂礫を僅かに含む砂礫からなる。

### 4 砂礫の採取推定地

大阪府の南部に位置する和泉山脈には礫岩・砂岩・泥岩からなる和泉層群の地層が分布する。和泉層群の北側には部分的に泉南酸性岩とよばれている流紋岩、流紋岩質溶結凝灰岩が東西に点々と分布し、その北側に領家式花崗岩類が東西に分布する。領家式花崗岩類を基盤として大阪層群が不整合に重なる。熊取町付近は南部に南から北にかけて和泉層群、泉南酸性岩、領家式花崗岩類と分布し、中部から北部にかけては大阪層群が分布する。また北西部では段丘が部分的に見られる。大久保E遺跡の近くをながれる住吉川の上流には領家式花崗岩が分布し、当遺跡付近になると大阪層群が分布する。住吉川の砂礫には花崗岩質岩起源の砂礫が多く含まれる。

花崗岩質岩起源と推定される砂礫が多く、僅かに流紋岩質岩起源の砂礫を含むI dn類型に属する砂礫は大久保E遺跡付近の砂礫と推定される。流紋岩質岩起源と推定される砂礫が多いIVg類型、IVgn類型に属する砂礫は砂礫粒が比較的円いことから佐野川から樋井川にかけての海岸近くの砂礫と推定される。IVe類型やVIIdg類型に属する砂礫は泉南地方以外の砂礫である。砂礫相的にIVe類型に属する砂礫は加賀南部の砂礫と推定される。また片岩を多く含むVIIdg類型の砂礫は紀ノ川右岸の砂礫と推定される。IVa類型、IVh類型、IVn類型に属する砂礫は泉南地方の砂礫と推定されるが場所を限定できない。

# 土器の表面に見られる砂礫

試料番号	器種	岩										石										鉱物										海綿の合計	類型
		花崗岩	閃綠岩	流紋岩	安山岩	矽岩	花崗岩	チャート	片岩	火成ガラス	石英	長石	雲母	角閃石	輝石	斜長石	榍石	榍鐵	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼					
90	甕				L-僅 亞角		L-僅 亞角		L-僅 亞角		M-中	M-中																V Illdg 阿波					
106	甕			M-僅 中角	L-僅 中角				L-僅 亞角		M-僅 中	M-僅															I Vh ?						
126	甕			L-僅 中角	L-僅 中角					M-僅 中	S-僅																I Vn ?						
122	甕	L-極 角			L-僅 亞角					M-極 7	S-微 E-僅	M-僅															I dn 在地						
142	甕			L-僅 亞角	L-僅 亞角			L-僅 亞角	L-僅 亞角	M-極 E-僅	M-極															I Vg 東南沿海							
129	甕			M-僅 亞角	M-僅 亞角					M-僅 E-中	M-僅	M-中	S-微	S-中	I Ve 加賀南部																		
128	甕	L-極 角		L-僅 中角	L-僅 中角					M-僅 M-中	M-僅															I dn 在地							
131	甕	L-極 角	M-極 角		M-極 中角					M-極	L-僅	M-極	M-僅													I dn 在地							
134	甕			L-極 亞角	M-僅 亞角					M-多	S-僅															I dn 在地							
157	小形丸底	L-極 角		L-僅 亞角	S-極 亞角					L-極	L-僅 E-僅	M-僅														I dn 在地							
186	甕	L-極 中角	L-極 角							M-中	M-僅															I dn 在地							
263	高杯			L-僅 中角	L-僅 中角			L-僅 亞角	L-僅 亞角	L-僅 E-僅	M-中	M-僅													I Vn 東南沿海								
277	高杯	L-僅 角				L-僅 角				L-中	M-僅															I dn 在地							
287	高杯			L-僅 亞角	L-僅 亞角			L-僅 亞角	L-僅 亞角	M-僅	M-僅														I Vn 東南沿海								
293	器台	L-極 亞角		L-僅 亞角	L-僅 亞角					M-僅 E-僅																I Va ?							
297	高杯	L-極 角	L-僅 角		L-僅 中角					L-多	M-僅															I dn 在地							
314	製陶土器				M-極 角					M-多	M-中															I dn 在地							
315	製陶土器	L-極 角		M-極 亞角	M-僅 亞角					S-微	S-僅	M-極	S-微													I dn 在地							
319	製陶土器			L-中	L-僅 角			L-僅 亞角	L-極 亞角	L-僅 E-僅	L-僅 E-僅	L-僅 E-僅														I Vgn 東南沿海							
321	輪収	L-僅 角		I-僅 中角	M-極 亞角					M-中	M-僅															I dn 在地							
324	輪収			L-極 亞角	S-極 亞角					M-僅	M-僅															I dn 在地							
334	鉢			S-僅 角					M-極	M-極 只ワ	M-多	E-僅	S-僅													I dn 在地							
345	鉢			L-極 中角	I-僅 中角			L-極 亞角	L-極 亞角	M-僅	S-僅														I Vg 東南沿海								
209	小形丸底	L-極 角		L-極 角	L-僅 角					S-極 只ワ	L-少	L-中	M-僅								S-微				I dn 在地								
210	小形丸底	M-極 角		M-僅 角	M-僅 角					M-中	M-僅										S-微				I dn 在地								

裸眼 = 裸眼観察 裸眼による観察：L = 粒径 2 mm 以上 M = 粒径 2 mm 未満 0.5mm 以上 S = 粒径 0.5mm 未満 非 = 量が非常に多い 多 = 量が多い 中 = 量が中 僅 = 量が僅か 微 = 量がごく僅か 稀 = 量がごくごく僅か 30倍 = 実体鏡の信率が30倍 実体鏡による観察：L = 粒径が 1 mm 以上 M = 1 mm 未満 0.3mm 以上 S = 粒径が 0.3mm 未満 - = 以下の粒径がある E = 白形、E F = 結晶面がある 貝 =貝殻状 フ = フジツボ状 國は報告書等の番号に同じ 類型区分は奥田の区分（1992、「庄内式土器研究II」を参照）

## 第3章 まとめ

### 第1節 大久保E遺跡の土器の特徴

大久保E遺跡出土の土器に見られる事実を列挙しておく。

- ・甕壺の下体部がかなり球形化している。
- ・V様式甕の底部は突出した平底のもの他、丸底に近い中途半端な平底のものがある。
- ・須恵器は一切出土していない。
- ・89-1区と90-1区における自然流路SR-1からは庄内式新相を示す土器は出土していない。
- ・90-2区内の自然流路SR-1から庄内式新相の土器が出土している。
- ・いわゆる高杯Aに比して楕円形高杯の出土数の割合が多い。
- ・製塩上器はいわゆる脚台II式のみ出土しており、脚台III式などはない。
- ・庄内式有段高杯はない。
- ・90-2区内の自然流路SR-1出土の極少数の庄内・布留系の甕には生駒西麓産のものではなく、加賀南部もしくは在地の胎土よりもなる。
- ・搬入土器は日下甕においてのみ確認され、胎土は阿波と加賀南部のものと報告されている。
- ・小型器台は自然流路SR-1に年代の異なる数種類がみられる。

### 第2節 堺市下田遺跡との比較

ここで大久保E遺跡出土土器の相対年代について触れておきたい。

大久保E遺跡のある熊取町と堺市下田遺跡とでは直線距離にして約19km隔たっており、それぞれの遺物を単純に比較してよいものか熟慮を要するとしても、堺市下田遺跡における（財）大阪府埋蔵文化財協会の1993・94年度の調査で出土した土器は非常に精緻な観察によって検出し、西村歩氏が精度の高い土器の様式分類をした上で編年作業をしているため、これを基準として相対的な比較は可能であると考える。

第14図のように単純に実測図で比較すれば、大久保E遺跡の土器群は下田遺跡において平成8年度現在で設定されている4期・5期・6期の範囲にはほとんどの土器が相当し、一部90-2区内の自然流路SR-1から出土した土器は下田8期頃のものがあるようと思われる。

下田4期は庄内式古相に併行する段階とされ、①製塩上器の出現、②高杯Aが最大級になり脚柱が中実化すること、③偏球化した広口甕（下田16）、④甕は器形の短小化と球形化の傾向がありながらも突出する平底への執着があること、⑤小型器台の出現などその他の特徴として挙げられるが、大久保E遺跡では②については285など高杯Ia類が類似し、③については173や192など甕Ia類が、④においては2や115など甕Ia類が、⑤については器台IV類の251や260が類似するものと思える。

下田5期では⑥高杯Aの稜線の下降と口縁の直線化と脚柱の中実化の進行とした上で、（下田18）のように脚台部が膨らんで内湾する独特の高杯を指摘している。また⑦庄内式有段高杯の出現、⑧甕の球形化、⑨庄内式期III相当の庄内式甕などその他が挙げられるが、⑩について大久保E遺跡SR-1出土の高杯Ib類の225は脚台が極端に内湾している。⑪については25や69など甕II類が球形化をみせている。

下田6期では⑩高杯は5期までの大型で口縁が外反するV様式系統のものは終息して口縁の直線的な独特の形状を呈するようになる。⑪甕はV様式が大きく薄れ、球形化が達成され一部底が完全に丸底化し、庄内系とも布留系ともとれるような甕があるが布留式甕はまだない。⑫庄内甕は庄内式期IVに相当し、搬入された庄内甕を模倣した在地の甕も出現する。⑬小型丸底土器や小型器台(下田26)、有段器台(下田27)がある。⑭について高杯では杯が平底を呈する庄内式の高杯が大久保E遺跡での263のような高杯III類に類似しているとも考えられる。⑮については甕IV類の129がこの範疇に入るものと考えた。⑯では小型丸底土器としては209が、器台については器台II類の294などが、また221が有段器台に相当するなど甕や高杯以外の器種に僅かに類似品を指摘することができる。

平成8年度段階で設定されている下田4期は北鳥池下層式に相当し庄内併行期と捉えて庄内式期I・IIであり、5期は上田町1式で庄内式期III、6・7期は上田町2式で庄内式期IVに相当するとされている。

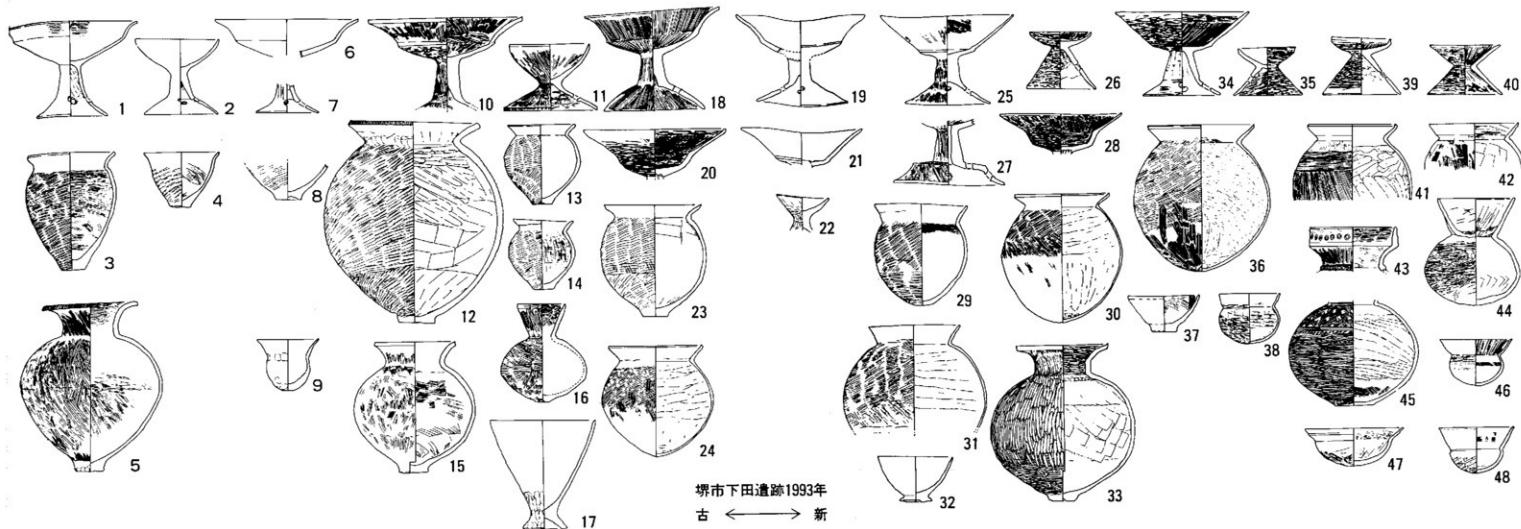
すると大久保E遺跡の上器は、高杯では一般に高杯AとされるIa類と、楕円高杯II類がほぼ対等に存在すること、甕ではIa類・Ib類とも体下部の球形化がみられ、さらに球形化が進んだ甕II類も多いこと、壺については体部の偏球化した例が非常に多いことなどから、大久保E遺跡SR-1出土土器の中心は下田5期・庄内式期IIIを中心としたその前後に併行しているとみることができる。但し同じSR-1にから有段器台や小型器台など下田6期に相当すると思われるものも検出されていることから、土器群の発展はその時期になってから行われたとも考えられる。

また90-2区のSR-1においてのみ前述した様な庄内・布留系の土器に類似した甕が検出されたということから、自然流路SR-1は庄内式期III-IV頃には既に大きく埋没してその周囲に流路を変化させて存在していたのだろう。その後に庄内式期IV以降の土器を含んだものと思われる。

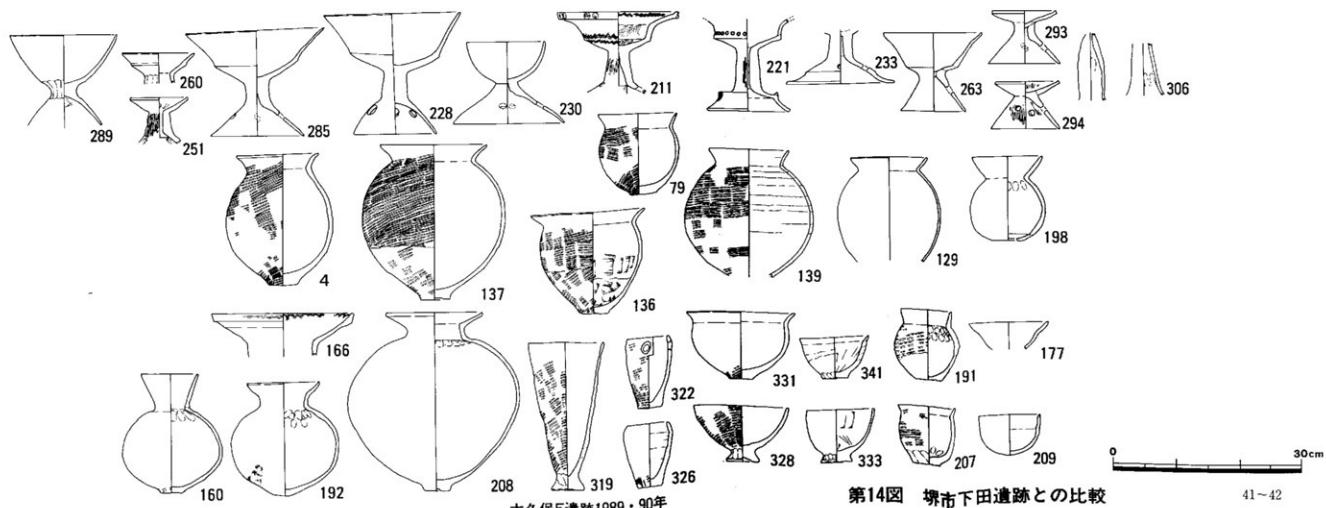
### 第3節 その他の遺跡との比較

柏原市船橋遺跡で同市教委が1993年に行った調査ではその1区からそれぞれ時期の前後する4基の井戸が検出され、個々の井戸で出土した土器について非常に精緻な編年が行われている。最も古い井戸5は庄内式期Iとされ、次の井戸3が庄内式期IIIとされているが、第15図のとおり最も古い井戸5の下層の土器とを比較した場合V様式の甕に類似した土器を散見する。但しV様式の甕にしても船橋遺跡井戸5の方は下部が充満して膨らんでいたり、大久保E遺跡SR-1に比べればかなり庄内式新相の土器が多いことなどから、概して大久保E遺跡SR-1の方が古く庄内式期Iといわれる船橋遺跡井戸5に先行するところができるだろう。となると下田遺跡との比較の結果と若干齟齬をきたすことになる。

また和泉市西大路遺跡533-OX出土遺物、泉佐野市漆遺跡82-1-90-4の谷状落ち込み出土の上器とはほぼ併行関係にあることが窺われる。但し和泉市西大路遺跡533-OXからは庄内式の新相を示すものは出土していない。和泉市府中遺跡77-1区1号住居は甕の形状から僅かに大久保E遺跡に先行するかに思える。また脇浜遺跡91-OR肩部における製塙上器と婧甕には大いに類似性がみられるが、脇浜遺跡の高杯と甕は明らかに大久保E遺跡よりも新相を示す。また西大路遺跡・漆遺跡のいわゆる脚台II式の製塙上器はラッパ状に大きく開く体部を呈するのに対し、大久保E遺跡のものは体部の開きが狭く、また脚台I・III式はないなどの相違をみせる。

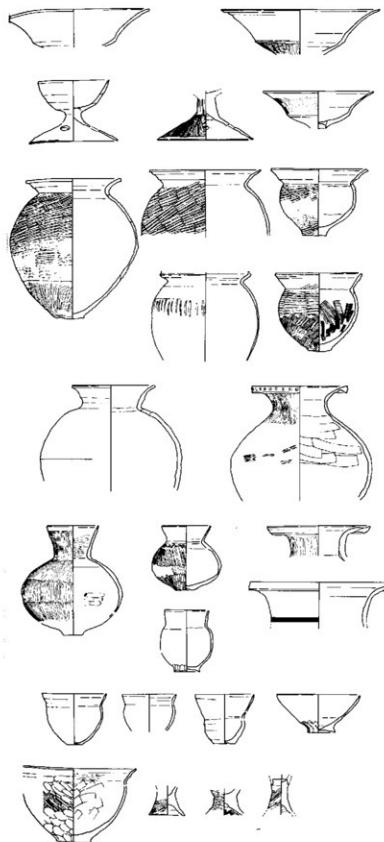


堺市下田遺跡1993年  
古 ← → 新

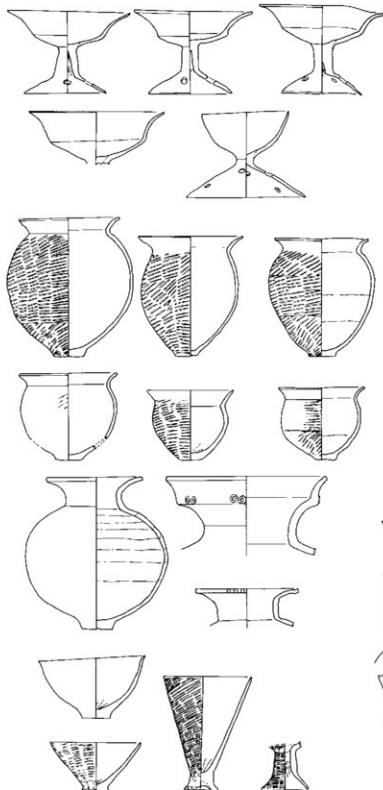


大久保E遺跡1989・90年

第14図 堺市下田遺跡との比較



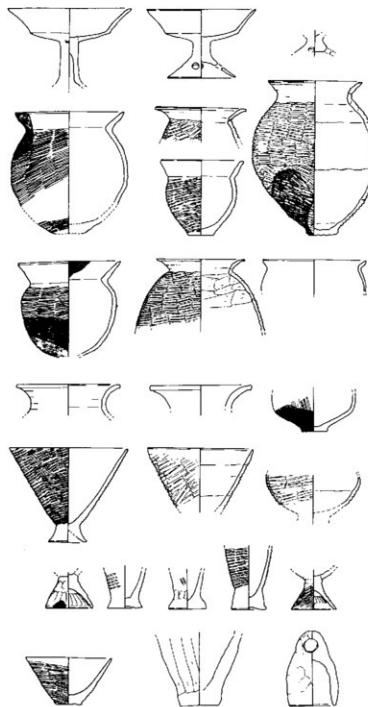
和泉市府中遺跡1977年Ⅰ区Ⅰ号住居跡



和泉市西大路遺跡1986年Ⅰ区 533-OX

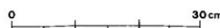


柏原市船橋遺跡1993年Ⅰ区 井戸5



泉佐野市漢遺跡82-1、90-4区 谷状落ち込み

貝塚市臨浜遺跡1985年Ⅲ区91-OR肩部



43~44

また図示できなかったが、高杯は和歌山県有田川流域の田殿・尾中遺跡、野田・藤並地区遺跡出土の高杯群と比べると、それよりも新しい様相を示しており、有田川流域弥生末～古墳時代前期土器編年のII期でも新しい段階に位置づけることができる。鉢も有田川流域土器編年のII期（田殿・尾中遺跡第8号住居跡）に類似した形態のものがある。製塙土器は近藤義郎氏の目良式土器B類に相当するもので、同志社大学による紀淡海塙地帯製塙土器分類のB類（大谷川II式）、小鳥東遺跡出土製塙土器分類の脚台II式と同じである。日良式土器B分類は和歌山県白浜町瀬戸遺跡出土資料でI～III式に細分され、さらに各々A・B式に分けられており、大久保E遺跡出土製塙土器はそのII B式に近い。その時期については和歌山県瀬戸遺跡の土壤の共伴例から目良式土器B類II A式が庄内式第I期とされており、目良式土器B類II B式が和歌山県御坊市尾ノ崎遺跡竪穴2の資料から庄内式第II期とされていると指摘されている。

姫壺は豊中・古池遺跡または岸和田市上生遺跡におけるIIa類に類似していると思われる。貝塚市臨浜遺跡で昭和60年に大阪府埋蔵文化財協会によって行われた調査で91-OR肩部から出土したものの中にはやはりそのIIa類があるが、大久保E遺跡では出土しなかった製塙土器I・III類も共伴しており、さらに共伴する壺には布留甕など多種類あるようなので、大久保E遺跡における製塙土器IIa類との類似性を指摘するにとどめる。321と324は貝塚市臨浜遺跡において昭和62年度に大阪府埋蔵文化財協会が行った調査で出土したたこ壺I b類に類似しているようである。臨浜遺跡ではたこ壺と布留甕が供伴しているようであるが、臨浜遺跡での分類は年代を区別するものではなく、以下のところたこ壺によって年代を類推することは困難のようである。また322は真蛸壺と思われる。真蛸壺は基本的に体部上半に穿孔があるとされるが322では定かではない。

#### 第4節 その他

最後に今回の調査の状況に関するこに触れておく。調査区の地表面（検出面）は全域で中世の耕作土によって全く平滑に削平されていることから、中世に大幅な開墾作業が行われたことがわかる。安定した広範な農地を得るために全体的に平滑な土地を確保する必要があり、田畠起伏のあった土地に対してその高い部分を削って低い部分に土を充當したと思われる。この時点で比較的高い位置に存在していたと推定される古代以前の住居跡などはその地盤ごと削り取られ、逆に自然流路や古い水路、小河川は埋められてしまったものと考えられる。削平された地表面の上に直接存在する一番下位の包含層には13世紀以後の土器破片が含まれないことなどから、この大幅な開墾が行われたのは13世紀代の鎌倉期頃ではなかったかと思われる。これまでの発掘調査で出土した土器から熊取町内で地域によって開発が開始された時期が異なっていることがわかってきており、大久保E遺跡の周辺では土器から弥生から古墳時代になんらかの開発が行われていたはずであり、東の野田地区では奈良時代の土器片が検出されているために古代から開発が始まったのかもしれない。また東南方向にある久保地区では平安時代後期頃からの瓦器が多数検出される地点があり、隣市の泉佐野市の日根野の莊園開発などと同様の開発が行われていたものかとも考えられる。ただしどの地点でも現時点で古代以前の包含層や水田の跡などは確認されておらず、どの地域でも最も下位にある包含層は鎌倉時代野田にあった東円寺の発展と関連があると思われる開発によるものであり、その耕土および整地土は13世紀頃以前の瓦器片と土師器片を含んでい

る。この包含層は野田を中心に今回のように大久保にも広範に存在するらしいことがわかってきてている。野田から大久保を結ぶ現在最も開発の盛んな低地帯が中世に入った時期頃から前述のような大規模な工法によって盛んに水田開発が開始されていったことを今回の包含層と地形からうかがうことができ、この時期を熊取町の歴史の一段落とすることができるかもしれない。

## 参考文献

- 熊取町史紀要第3号 考古学から熊取地域を考える 熊取町教育委員会 1996. 3  
東大阪市埋蔵文化財包蔵地調査概要17 馬場川遺跡発掘調査報告V 1977. 3 東大阪市教育委員会  
池上遺跡発掘調査概要 和泉市池上町泉大津市曾根町所在 1979. 3 大阪府教育委員会  
府中遺跡発掘調査概要II 和泉市府中町所在都市計画街路泉大津阪本線  
上生遺跡 第2次発掘調査概要 1975. 1  
(財) 大阪府埋蔵文化財協会調査報告第17集 都市計画道路貝塚中央線建設に伴う脇浜遺跡II発掘調査  
報告書 1988  
(財) 大阪府埋蔵文化財協会調査報告書第23集 都市計画道路磯之上山直線建設に伴う西大路遺跡発掘  
調査報告書 1988  
船橋遺跡 1994. 3 柏原市文化財概報1993VI  
庄内式土器研究IX－庄内式併行期の土器生産とその動き－「揖河泉における庄内式について」1995. 6.  
10 庄内式土器研究会 和泉地域北部における庄内式併行期の土器様相（予察）一堺市下田遺跡の調査  
成果より－ (財) 大阪府文化財調査研究センター 西村歩

### 遺物観察表について

口縁は直線的に開くものと外反するもの、僅かに内湾するもののおおまかに3種類に分けた。  
体部は球胴と長胴、直線的な胴部の3種類程度に分けた。  
甕の法量については超大型・大型・中型・中小型・小型に分けた。  
備考欄における在地生産土器とは、34頁にあげる奥田氏の顕微鏡による観察の結果、その土器の胎土  
が大久保E遺跡周辺地のものであろうと推定された土器である。

土器番号 および 図版番号	器種	出土地点	法量 (cm)	残存状況	色調 外 内	特 徴	備 考
1	甕	89-1-W区 SR-1 土器窯A	推定高27.0程度 最大径20.3 口径14.0 大型	50% 下半分欠損	10YR8/2 灰色 10YR8/4 浅黄橙	・口縁外反 ・球形の体部 ・口徑が小さい ・二次焼成は不明	・体部内面に軽いひも の巻き上げ跡 ・在地生産土器 ・伝統的第V様式
2	甕	89-1-W区 SR-1 土器窯A	器高15.4 最大径16.4 口径15.6 中型	50%	5YR1 灰色 5YR3/2 浅赤褐	・直線的に開く頗り口縁 ・球形の体部 ・上下分割形成 ・煮沸二次焼成の痕跡	・底部貼付オサエ後タキ ・内面ケツリ後ナギ ・底面に輪廻筋 ・2cm5本右上がりのタキメ
3	甕	89-1-W区 SR-1 土器窯A	器高14.3 最大径11.0 口径12.0 小型	50%	2.5Y8/3 淡黄	・直線的に開く口縁 ・球形の体部 ・底面に輪廻筋 ・上下分割形成	・底部貼付オサエ後タキ ・内面ケツリ後ナギ ・1.5cm5本右上がりのタキメ
4	甕	89-1-W区 SR-1 土器窯A	器高20.9 最大径17.0 口径13.1 中型	復元して完形	2.5Y8/3 淡黄	・口縁湖部外接 ・瓶状の内部(赤状) ・円錐の手袋 ・上下分割形成	・2cm6本右上がりのタ キメ ・在地生産土器 ・伝統的第V様式
5	甕	89-1-W区 SR-1 土器窯A	器高不明 底径4.4 口径不明 中型	底部のみ残存	10YR8/2 灰色 7.5Y7/1 灰色	・体部タキ後底部貼付オサエ ・内面へナラテ底	・在地生産土器 ・伝統的第V様式
6	甕	89-1-W区 SR-1 土器窯A	器高不明 底径5.4 口径不明 大型	底部のみ残存 内外面擦耗	7.5YR7/8 黄橙	・底部貼付オサエ後タキ ・底面延き日	・在地生産土器 ・伝統的第V様式
7	甕	89-1-W区 SR-1 土器窯A	器高不明 底径3.7 口径不明 中型	底部のみ残存 内面擦耗	5YR7/6 稍 2.5Y7/3 淡黄	・底部貼付オサエ後タキ ・煮沸二次焼成の痕跡	・在地生産土器 ・伝統的第V様式
8	甕	89-1-W区 SR-1 土器窯A	推定高16.0程度 最大径不明 口径12.7 小型	50% 下半分欠損	2.5Y8/2 灰色	・直線的に開く口縁 ・瓶具の体部 ・体部内面に板ナヂ ・口縁外側に板ナヂ	・2cm4本水平のタキメ ・在地生産土器 ・伝統的第V様式
9	甕	89-1-W区 SR-1 土器窯A	器高不明 最大径不明 口径14.2	10% 口縁部のみ	10YR8/4 浅黄橙	・口縁や外反	・在地生産土器 ・伝統的第V様式
10	甕	89-1-W区 SR-1 土器窯A	推定高28.0 最大径23.3 口径16.5 超大型	残存40% 復元して完形	2.5YR8/3 淡黄	・直線的に開く口縁 ・瓶具の体部 ・上下分割形成 ・底部に貼付していない	・上体部2cm6本右上 がりのタキメ ・下体部2cm6本左半 タキメ ・在地生産土器 ・伝統的第V様式
11	甕	89-1-W区 SR-1 土器窯A	推定高25.0 最大径23.0 口径18.9 超大型	ほぼ完形	7.5YR8/2 灰色	・口縁や外反 ・瓶具の体部 ・上下分割形成 ・口縁底部の指オサエ	・貼付底面にヘラ刻痕 ・煮沸二次焼成 ・2cm6本右上がりのタ キメ ・在地生産土器 ・伝統的第V様式
12	甕	89-1-W区 SR-1 土器窯A	器高17.0程度 最大径16.5 口径不明 中型	口縁・底部欠損 底部のみ残存	7.5YR7/1 明褐色 10YR8/3 淡黄橙	・口縁外反 ・球形の体部 ・内面擦耗 ・内面板ナヂ	・煮沸二次焼成 ・2cm6本水平のタキ メ ・在地生産土器 ・伝統的第V様式
13	甕	89-1-W区 SR-1 土器窯B	器高不明 最大径不明 口径17.8 大型	20% 口縁部のみ	7.5YR7/6 鐵	・口縁外反 ・口縁底部に擦 ・口縁合時指オサエ ・煮沸二次焼成無し	・在地生産土器 ・伝統的第V様式
14	甕	89-1-W区 SR-1 土器窯B	器高不明 最大径不明 口径16.0 中型	20% 口縁部のみ	2.5YR6/8 鐵 7.5YR8/4 淡黄橙	・口縁外反 ・口縁底部に擦 ・内面擦耗	・口縁外反 ・口縁底部に擦 ・内面擦耗 ・在地生産土器 ・伝統的第V様式
15	甕	89-1-W区 SR-1 土器窯B	器高不明 最大径不明 口径18.1 大型	20% 口縁部のみ	10YR8/3 淡黄橙 2.5YR8/3 淡黄	・口縁外反 ・煮沸二次焼成無し	・在地生産土器 ・伝統的第V様式
16	甕	89-1-W区 SR-1 土器窯B	器高不明 最大径不明 口径17.6	30% 口縁部と胴部	10YR7/3 にじい黃 10YR4/1 鉄	・口縁外反 ・煮沸二次焼成無し	・在地生産土器 ・伝統的第V様式

土器番号 および 図版番号	器種	出土地点	法量 (cm)	残存状況	色調 外 内	特 徴	備 考	
17	廣	89-1-W区 SR-1 土器部C	器高不明 最大径20.0 口径15.8 中型	40% 口縁・体上半部 にぶい黄	7.5YR7/4 にぶい橙	・口縁外反 ・2.5cm本右上がりのタタキメ ・内面に口縁接合オサエ痕 ・薄手の器壁	・在地生土器 ・伝統的第V様式 と推定	
18	甕	89-1-W区 SR-1 土器部B	器高不明 最大径19.0 口径16.0 中型	40% 口縁・体上半部 にぶい黄	5YR8/4 淡黄 10YR7/2 にぶい黄	・口縁外反 ・2.5cm本右上がりのタタキメ ・厚手の器壁	・在地生土器 ・伝統的第V様式 と推定	
19	甕	89-1-W区 SR-1 土器部B	推定高9.0程度 最大径18.2 口径13.8 中型	40% 体下部欠損 反転復元	10YR8/3 灰色 7.5YR8/3 淡黄	・直線的に開く口縁 ・上下分剖成形 ・内面に施土ひも巻上げ痕 ・煮沸二次焼成痕なし	・在地生土器 ・伝統的第V様式 と推定	
20	甕	89-1-W区 SR-1 土器部B	推定高20.0程度 最大径17.0 口径14.3 中型	70% 上半部のみ	10YR8/3 淡黄	・直線的に開く口縁 ・厚手の器壁 ・口縁接合オサエ後タタキ ・煮沸二次焼成痕なし	・在地生土器 ・伝統的第V様式 と推定	
21	甕	89-1-W区 SR-1 土器部B	器高19.3 最大径16.6 口径12.8 中型	95% 口縁1/2欠損	10YR6/2 灰黒 2.5YR8/3 灰黒	・直線的に開く口縁 ・長径の体部 ・上下分剖成形 ・底端部オサエ後タタキ	・口縁接合オサエ後タタキ ・2cm本右上がりのタタキ ・在地生土器 ・伝統的第V様式 と推定	
22	甕	89-1-W区 SR-1 土器部B	器高17.7 最大径16.0 口径14.2 中型	100% ほぼ完形	10YR1.7/1 黑 10YR4/4 褐	・直線的に開く口縁 ・短径の体部 ・上下分剖成形 ・底部貼付	・2cm本右上がりのタタキ ・在地生土器 ・伝統的第V様式 と推定	
23	甕	89-1-W区 SR-1 土器部B	器高24.2 最大径19.6 口径11.6 大型	60%程度 復元して完形	7.5YR7/1 明褐色 10YR8/2 灰黒	・直線的に開く口縁 ・短径の体部 ・上下分剖成形 ・分剖接合部にナゲ	・2cm本右上がりのタタキ ・在地生土器 ・伝統的第V様式 と推定	
24	甕	89-1-W区 SR-1 土器部B	器高15.8 最大径14.9 口径11.6 中小型	残存80% 復元して完形	10YR4/6 褐 10YR7/2 にぶい黄	・直線的に開く口縁 ・長径の体部 ・上下分剖成形 ・厚手の器壁	・煮沸二次焼成痕 ・2cm本水平タタキ ・在地生土器 ・伝統的第V様式 と推定	
25	甕	89-1-W区 SR-1 土器部C	推定高22.0程度 最大径22.3 口径15.7 大型	70%残存 下部欠損	7.5YR7/3 にぶい橙 5YR8/2 灰白	・口縁外反 ・球頭 ・薄手の器壁	・上下分剖成形 ・11横模合オサエ後タタキ ・2cm本右上がりのタタキ ・1.5-1.8mmのちぢみH.F	・在地生土器 ・伝統的第V様式 と推定
26	甕	89-1-W区 SR-1 土器部C	器高不明 最大径16.0程度 口径18.4 超大型	25% 口縁 体上半部のみ	2.5YR8/4 淡黄 2.5YR8/3 淡黄	・口縁外反 ・薄手の器壁 ・口縁接合オサエ後タタキ	・煮沸二次焼成痕なし ・2cm本右上がりのタタキ ・在地生土器 ・伝統的第V様式 と推定	
27	甕	89-1-W区 SR-1 土器部C	器高不明 最大径不明 口径12.6	10%以下 口縁5/1のみ	2.5YI4/1 灰黒 2.5Y2/8 (灰白)	・直線的に開く長い口縁部 ・11横模合オサエ成形 ・薄手の器壁	・煮沸二次焼成痕なし ・1.5cm本右上がりのタタキ ・在地生土器 ・伝統的第V様式 と推定	
28	甕	89-1-W区 SR-1 土器部C	器高不明 最大径14.4 口径13.6 中型	30% 体下半部を欠損	7.5YR8/6 淡黄	・直線的で直立気味の口縁 ・薄手の器壁	・1.5cm本右上がりのタタキ ・在地生土器 ・伝統的第V様式 と推定	
29	甕	89-1-W区 SR-1 土器部C	推定高17.5程度 最大径11.0 口径15.0 中型	40% 体下半部を欠損	10YR7/2 にぶい黄	・直線的に開く長い口縁部 ・短径の体部 ・上下分剖成形 ・2cm本右上がりのタタキ	・在地生土器 ・伝統的第V様式 と推定	
30	甕	89-1-W区 SR-1 土器部C	推定高不明 最大径18.6 口径15.7 中型	40% 下部のみ	10YR7/2 にぶい黄	・下部に彫りがない ・厚手の器壁 ・底部貼付オサエ後タタキ ・2cm本右上がりのタタキ	・在地生土器 ・伝統的第V様式 と推定	
31	甕	89-1-W区 SR-1 土器部C	器高18.3 最大径18.6 口径15.7 中型	100% ほぼ完形	10YR7/2 にぶい黄 2.5Y7/1 灰白	・外反する短い口縁 ・球頭 ・上下分剖成形 ・下部外縁はケズリ	・3cm8本水平のタタキ ・タタキは体側上半の み ・在地生土器 ・伝統的第V様式 と推定	
32	甕	89-1-W区 SR-1 土器部C	器高17.9 最大径15.4 口径12.1	85% 復元して完形	10YR3/1 黑褐 10YR5/1 灰黒	・直線的に開く長い口縁 ・短径の体部 ・上下分剖成形	・1.5cm本右上がりの タタキ ・煮沸二次焼成痕 ・在地生土器 ・伝統的第V様式 と推定	

土器番号 および 図版番号	器種	出土地点	法量 (cm)	残存状況	色調 外 内	特 徴	備 考	
33	甕	89-1-W区 SR 1 +器部C	器高9.6 最大径11.4 口径11.9 小型	60% 復元して完形	5YR5/2 灰褐 5Y7/1 灰白	・直線的に開く口縁 ・上体部が弱い ・上下分剖成形 ・タクタク後底部貼付オサエ	・蒸沸二次焼成痕 ・1.5cm5本右上がりのタクタク	・在地生産土器 ・伝統的第V様式と推定
34	甕	89-1-W区 SR 1 +器部C	推定高22.0程度 最大径20.9 口径不明 大型	70% 口縁を欠損	10YR4/1 灰褐 7.5YR5/6 明褐	・球脚 ・底部貼付後タクタク ・厚手の器壁 ・蒸沸二次焼成痕		・在地生産土器 ・伝統的第V様式と推定
35	甕	89-1-W区 SR 1 +器部C	推定高25.0程度 最大径19.9 口径14.5 大型	80% 復元して完形	10YR8/4 浅黄褐	・直線的に開く口縁 ・底長の体部 ・上下分剖成形 ・内面にシラダテン痕	・2.5cm6本水平のタクタク	・在地生産土器 ・伝統的第V様式と推定
36	甕	89-1-E区 I c	器高17.1 最大径16.0 口径14.6 中型	100% ほぼ完形	2.5Y6/2 灰褐 2.5Y8/1 灰白	・直線的に開く口縁 ・口縁全体貼付オサエ成形 ・底長の体部 ・上下分剖成形	・蒸沸二次焼成痕 ・1.5cm接合オサエ後タクタク ・2cm6本水平のタクタク ・底部は貼付ではない	・在地生産土器 ・伝統的第V様式と推定
37	甕	89-1-W区 III	推定高17.5程度 最大径15.6 口径不明 中型	60% 口縁・底部欠損	10YR7/4 にほい黄褐 10YR8/3 浅黄褐	・直線的に開く口縁 ・底長の体部 ・上下分剖成形 ・2cm5本右上がりタクタク		・在地生産土器 ・伝統的第V様式と推定
38	甕	89-1-W区 I a	器高不明 最大径不明 口径13.2 中型	10% 下体部は少欠損	2.5Y7/2 灰黄 2.5Y8/2 灰白	・直線的に開く口縁 ・口縁全体貼付オサエ成形 ・口縁接合オサエ後タクタク	・内面に粘土も巻上げ ・2cm5本右上がりのタクタク	・在地生産土器 ・伝統的第V様式と推定
39	甕	89-1-W区 II b	推定高16.5程度 最大径15.8 口径不明 中型	60% 下体部欠損	7.5YR2/1 黑 7.5YR8/2 灰白	・直線的に開く口縁 ・球脚 ・厚手の器壁 ・2cm5本水平のタクタク		・在地生産土器 ・伝統的第V様式と推定
40	甕	89-1-W区 II a	推定高19.0程度 最大径18.0 口径14.0 中型	25% 下体部欠損	7.5YR8/2 灰白	・外反する底口縁 ・球脚 ・厚手の器壁	・2cm5本右上がりのタクタク ・1.5cm接合指オサエ後タクタク	・在地生産土器 ・伝統的第V様式と推定
41	甕	89-1-W区 I a	器高不明 最大径17.7 口径13.1	25% 底部は少欠損	2.5Y6/2 灰褐 5Y8/2 灰白	・直線的に開く口縁 ・上下分剖成形 ・薄手の器壁 ・1.5cm5本の右上がりのタクタク		・在地生産土器 ・伝統的第V様式と推定
42	甕	89-1-W区 II a	推定高18.0程度 最大径17.0 口径12.8 中型	50% 底部欠損	10YR6/1 灰褐 7.5YR7/1 明褐	・口縁端部外側 ・口縁部はオサエ成形 ・上下分剖成形 ・蒸沸二次焼成痕	・1.5cm接合指オサエ後タクタク ・2cm5本右上がりのタクタク	・在地生産土器 ・伝統的第V様式と推定
43	甕	89-1-W区 I d	推定高22.0程度 最大径19.3 口径17.2 大型	70% 底部欠損	10YR1.7/1 黑 10YR8/4 浅黄	・直線的に開く口縁 ・底長の体部 ・内面粘土も巻上げ	・上下分剖成形 ・2.5cm5本右上がりのタクタク	・在地生産土器 ・伝統的第V様式と推定
44	甕	89-1-W区 I a	推定高19.8 最大径17.6 口径12.2 中型	50% 復元して完形	7.5YR8/2 灰白 5YR8/3 灰白	・口縁外反 ・底長の体部 ・内面粘土も巻上げ	・上下分剖成形 ・底長は貼付後タクタク ・2.5cm6本右上がりのタクタク	・在地生産土器 ・伝統的第V様式と推定
45	甕	89-1-W区 I a	推定高22.0程度 最大径18.0 口径14.7 大型	20% 底部は少欠損	10YR8/2 灰白 10YR8/3 浅黄褐	・直線的に開く口縁 ・底長の体部 ・上下分剖成形 ・口縁部はタクタク	・2.5cm6本水平のタクタク ・蒸沸二次焼成痕	・在地生産土器 ・伝統的第V様式と推定
46	甕	89-1-W区 III	器高18.2 最大径16.7 口径14 中型	100% ほぼ完形	10YR7/3 にほい黄褐 7.5YR8/2 灰白	・11棘外反 ・上体部は類似に立上がる ・球脚	・上下分剖成形 ・蒸沸二次焼成痕なし ・2.5cm7本右上がりのタクタク	・在地生産土器 ・伝統的第V様式と推定
47	甕	89-1-W区 I a	器高不明 最大径16.0程度 口径不明 中型	30% 上体部は少欠損	7.5YR6/1 灰褐 10YR7/2 にほい黄褐	・直線的の体部 ・厚手の器壁 ・底部は貼付タクタク	・2.5cm6本右上がりのタクタク	・在地生産土器 ・伝統的第V様式と推定
48	甕	89-1-W区 I a	器高不明 最大径不明 口径不明	25% 上体部欠損	10YR8/2 灰白 2.5Y8/2 灰白	・底長の体部 ・内面にヘナデ ・底部貼付後タクタク ・底面に柔軟	・2cm6本右上がりのタクタク	・在地生産土器 ・伝統的第V様式と推定

土器番号 および 國版番号	器種	出土地点	法量 (cm)	残存状況	色 調 外 内	特 徵	備 考	
49	甕	89-1-W区 SR-1	器高不明 底径5.3 口径不明	10% 底部のみ	7.5YR5/4 に赤い斑	・瓶形の体部 ・底部斜付後タタキ ・1.5cm5本右上がりのタタキ	・在地生産土器 ・伝統的第V様式 と推定	
50	甕	89-1-W区 SR-1	器高不明 底径5.4 口径不明 大型か?	10% 底部のみ	2.5Y7/2 灰黄 2.5Y8/2 灰白	・瓶形の体部 ・底部斜付後タタキ ・底面にフワ質 ・内底面に有翼物底	・孟溝二次焼成痕 ・1.5cm6本右上がり痕 ・在地生産土器 ・伝統的第V様式 と推定	
51	甕	89-1-W区 SR-1	器高不明 底径4.8 口径不明 小型	10% 底部のみ	2.5Y8/2 灰白	・球形 ・内面へラナゲ	・在地生産土器 ・伝統的第V様式 と推定	
52	甕	89-1-E区	器高不明 底径不明 口径16.6 大	10% 口縁部のみ	5YR8/3 淡黄 7.5YR8/2 灰白	・直線的に開く長い口縁 ・薄手の器壁 ・2cm5本右上がりのタタキ	・在地生産土器 ・伝統的第V様式 と推定	
53	甕	89-1-E区 Ia	器高不明 最大径17.5程度 口径11.8 中小型	10%以下 口縁のみ	2.5Y7/1 灰白	・直線的に開く口縁 ・薄手の器壁 ・2cm5本右上がりのタタキ	・在地生産土器 ・伝統的第V様式 と推定	
54	甕	89-1-E区 Ia	器高不明 底径不明 口径17.7	20% 口縁のみ	7.5YR6/6 橙	・口縁外反 ・右上がりのタタキ	・在地生産土器 ・伝統的第V様式 と推定	
55	甕	89-1-E区 IIb	器高14.0程度 最大径14.8 口径16.0 中小型	60% 底部欠損	5YR2/1 黑 5YR8/3 淡黄	・直線的に開く口縁 ・偏平な器形 ・球形 ・上下分離成形	・体部タタキ後ナナギ ・口縁接合後タタキを後 ナナギ	・在地生産土器 ・伝統的第V様式 と推定
56	甕	89-1-E区 Ia	器高13.5程度 最大径15.8 口径不明 中小型	55% 口縁・底部欠損	2.5Y8/3 淡黄	・瓶長の体部 ・内面粘付跡も巻上げ痕 ・孟溝二次焼成痕 ・2cm6本右上がりのタタキ	・在地生産土器 ・伝統的第V様式 と推定	
57	甕	89-1-E区 Ia	推定高14.5程度 最大径14.0 口径13.0 中小型	20% 口縁から 上部体部のみ	7.5YR8/4 浅黄橙	・直線的に開く口縁 ・瓶長の体部	・在地生産土器 ・伝統的第V様式 と推定	
58	甕	89-1-E区 Ia	器高不明 底径4.5 口径不明	10% 底部のみ	2.5Y8/3 淡黄 2.5Y7/1 灰白			・在地生産土器 ・伝統的第V様式 と推定
59	甕	89-1-E区 Ib	推定高14.2 最大径12.4 口径13.8	50% 復元して完形	7.5YR8/1 灰白 2.5Y8/3 淡黄	・直線的に開く口縁 ・瓶状の体部 ・上下分離成形 ・薄手の器壁	・底面にくぼみ ・2cm6本右上がり・水平のタタキ	・在地生産土器 ・伝統的第V様式 と推定
60	甕	89-1-E区 Ia	推定高13.0 最大径12.2 口径12.7 小型	100% ほぼ完形	2.5Y8/2 灰白 N7/ 灰白	・直線的に開く口縁 ・瓶長の体部 ・上下分離成形 ・底面に2cmの穴あり	・内面に口縁接合時の オサエ ・2cm6本右上がりのタ タキ	・在地生産土器 ・伝統的第V様式 と推定
61	甕	89-1-E区 Ia	推定高 最大径13.8 口径13.4	70%	10YR8/4	・口縁外反 ・瓶長の体部		・在地生産土器 ・伝統的第V様式 と推定
62	甕	89-1-E区 Ia	推定高19.0程度 最大径16.6 口径13.2	25% 底部欠損	10YR3/1 黑 10YR1.7/1 黑	・直線的に開く口縁 ・瓶長の体部 ・口縁接合オサエ後タタキ ・2cm6本右上がりのタタキ		・在地生産土器 ・伝統的第V様式 と推定
63	甕	89-1-E区 Ia	推定高19.0程度 最大径16.6 口径不明 中型	40% 口縁部欠損	2.5Y8/3 淡黄	・瓶長の体部 ・上下分離成形 ・薄手の器壁 ・孟溝二次焼成痕	・2cm5本右上がりタタキ ・底部粘付痕なし	・在地生産土器 ・伝統的第V様式 と推定
64	甕	89-1-E区 IIb	器高不明 最大径25.0程度 口径16.4	50% 下体部欠損	7.5YR8/4 浅黄橙	・直線的に開く口縁 ・体部に比して小さな口縁 ・薄手の器壁 ・2.5cm7本右上がりのタタキ		・在地生産土器 ・伝統的第V様式 と推定

土器番号 および 図版番号	器種	出土地点	法量 (cm)	残存状況	色 調 外 内	特 徴	備 考
65	甕	89-1-E区	器高不明 最大径14.3程度 口径17.2 超大型	30% 下体部欠損	10YR7/6 明黄褐	<ul style="list-style-type: none"> <li>・口縁外反</li> <li>・薄手の器壁</li> <li>・口縁無合口サエ後タタキ</li> <li>・2cm6本石上がりのタタキ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在地生産土器</li> <li>・伝統的第V様式と推定</li> </ul>
66	甕	89-1-E区	腹径4-5.5程度 最大径21.0 口径16.2 大型	25% 底部欠損	10YR1.7/1 黒 2.5Y7/1 灰白	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直線的に開く口縁</li> <li>・瓶形の体部</li> <li>・1.5下分剖成形</li> <li>・1.5接合オサエ後タタキ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・煮沸・二次焼成痕</li> <li>・2.5cm6本石上がりのタタキ</li> <li>・在地生産土器</li> <li>・伝統的第V様式と推定</li> </ul>
67	甕	89-1-E区	底定高24.6 最大径21.0 口径13.7 大型	60% 復元より完形	10YR7/2 にじむ黄褐	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直線的に開く口縁</li> <li>・瓶形の体部</li> <li>・薄手の休部</li> <li>・薄手の器壁</li> <li>・上下下分剖成形</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内面粘土ひち巻上げ痕</li> <li>・2.5cm6本石上がりのタタキ</li> <li>・在地生産土器</li> <li>・伝統的第V様式と推定</li> </ul>
68	甕	89-1-E区	器高26.0 最大径22.5 口径17.1 超大型	100% ほぼ完形	2.5Y8/3 淡黄 2.5Y8/1 灰白	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直線的に開く口縁</li> <li>・瓶形の体部</li> <li>・薄手の器壁</li> <li>・上下下分剖成形</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・叩き後底部貼付指オサエ</li> <li>・在地生産土器</li> <li>・伝統的第V様式と推定</li> </ul>
69	甕	89-1-E区	推定高21.8 最大径21.0 口径17.0	100% 復元により完形	2.5Y5/1 灰灰 10YR8/2 灰色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直線的に開く口縁</li> <li>・瓶形の体部</li> <li>・珠網</li> <li>・上下下分剖成形</li> <li>・煮沸・二次焼成痕</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2cm6本石上がりのタタキ</li> <li>・在地生産土器</li> <li>・伝統的第V様式と推定</li> </ul>
70	甕	89-1-E区	腹高3.8-2.0程度 最大径10.0程度 口径17.2 大型	10% 口縁部のみ	10YR7/2 にじむ黄褐	<ul style="list-style-type: none"> <li>・口縁は直線的に開く邊部外反</li> <li>・1.5cm5本石水平のタタキ</li> <li>・内面板ナナ</li> <li>・右上がりのタタキ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・口縫外側は板状(へう等)工具による模ナナと考える</li> </ul>
71	甕	90-1区	器高不明 最大径不明 口径15.6	20% 口縁部のみ	10YR8/4 淡黄褐		<ul style="list-style-type: none"> <li>・在地生産土器</li> <li>・伝統的第V様式</li> </ul>
72	甕	90-1区	腹高約4.5程度 最大径17.0程度 口径16.8 中型	10% 口縁部のみ	10YR7/3 にじむ黄褐 2.5Y7/2 灰灰	<ul style="list-style-type: none"> <li>・口縫外反</li> <li>・2cm6本石上がりのタタキ</li> <li>・薄手の器壁</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在地生産土器</li> <li>・伝統的第V様式</li> </ul>
73	甕	90-1区	底定高4.0程度 最大径13.5程度 口径12.4 中小型	10% 口縁部のみ	10YR5/1 灰灰 10YR6/2 淡黄褐	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1.5cm5本石水平のタタキ</li> <li>・1.5cm5本石上がりのタタキ</li> <li>・珠網</li> <li>・薄手の器壁</li> <li>・煮沸・二次焼成痕</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在地生産土器</li> <li>・伝統的第V様式</li> </ul>
74	甕	90-1区	器高不明 最大径不明 口径12.4	25% にじむ	7.5YR6/4 にじむ		<ul style="list-style-type: none"> <li>・在地生産土器</li> <li>・伝統的第V様式</li> </ul>
75	甕	90-1区	推定高14.0程度 最大径13.3程度 口径12.3 中小型	20% 口縁部のみ	2.5Y7/2 灰灰	<ul style="list-style-type: none"> <li>・口縫外反</li> <li>・瓶形の体部</li> <li>・1.5cm5本石上がりのタタキ</li> <li>・1.5cm5本石外縫におよぶタタキ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・口縫外側の横ナナ</li> <li>・軸部は狭く女性か子供のものと考えられる</li> </ul>
76	甕	90-1区	推定高不明 最大径21.0程度 口径14.6 超大型	20% 口縫部から 上体部のみ	2.5Y8/3 淡黄 2.5Y8/2 灰白	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1.5cm5本石直線的に立ち上がる</li> <li>・珠網外反</li> <li>・薄手の器壁</li> <li>・1.5cm5本石上がりのタタキ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・厚手の器壁</li> <li>・2cm5本石上がりのタタキ</li> <li>・在地生産土器</li> <li>・伝統的第V様式</li> </ul>
77	甕	90-1区	底定高16.9 最大径17.2 口径12.4	90% 復元により完形	7.5YR2/1 黒 10YR7/2 にじむ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直線的に開く口縁</li> <li>・瓶形の体部</li> <li>・珠網</li> <li>・薄手の休部</li> <li>・底部貼付指オサエ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上下下分割成形か不明</li> <li>・2cm5本石上がりのタタキ</li> <li>・在地生産土器</li> <li>・伝統的第V様式</li> </ul>
78	甕	90-1区	底定高15.4 最大径13.0 口径12.4 中小型	70% ほぼ完形	10YR5/1 灰灰 10YR8/2 灰白	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直線的に開く口縁</li> <li>・瓶形の体部</li> <li>・珠網</li> <li>・上下下分割成形</li> <li>・煮沸・二次焼成痕</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1.5cm6本石上がりのタタキ</li> <li>・底部貼付痕なし</li> <li>・在地生産土器</li> <li>・伝統的第V様式</li> </ul>
79	甕	90-1区	器高13.0 最大径13.2 口径12.9 小型	95% ほぼ完形	N2/ 黒 2.5Y8/2 灰白	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直線的に開く口縁</li> <li>・瓶形の体部</li> <li>・珠網</li> <li>・上下下分割成形</li> <li>・煮沸・二次焼成痕</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体下部タタキは表面的</li> <li>・在地生産土器</li> <li>・伝統的第V様式</li> </ul>
80	甕	90-1区	器高13.0 最大径13.6 口径12.8	95% ほぼ完形	5YR2/1 黒 7.5YR7/1 明褐灰	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直線的に開く口縁</li> <li>・珠網</li> <li>・上下下分割成形</li> <li>・底部貼付オサエ後タタキ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在地生産土器</li> <li>・伝統的第V様式</li> </ul>

土器番号 および 図版番号	器種	出土地点	法量 (cm)	残存状況	色 調 外 内	特 徴	備 考
81	甕	90-1区	高11.5 最大径10.8 口径11.3 小型	ほぼ完形	外向下2.5Y8/2 底白 外面下2.5Y8/1 底白 2.5Y7/1底白	・直線的に開く口縁 ・楕円形の体部 ・内面粘土じも巻上げ底	・底部割り付け ・煮沸二次焼成痕なし ・在地牛産土器 ・伝統的第V様式
82	甕	90-1区	推定高20.5程度 最大径17.3 口径14.8 中型	80% 底部欠損	2.5Y8/1 底白	・側面に外反する口縁 ・口縁付オサエ成形 ・口縫付オサエ後タキ ・楕長の体部 ・上下の割成形	・上下分割成形 ・唐手の器壁 ・内面粘土じも巻上げ底 ・2.5cm本右上がりのタク ・煮沸二次焼成痕 ・在地牛産土器 ・伝統的第V様式
83	甕	90-1区	推定20.0程度 最大径18.0 口径16.8 大型	70% 底部欠損	7.5YR8/2 底白	・側面に外反する口縁 ・口縫付オサエ成形 ・楕長の体部 ・上下の割成形	・唐手の器壁 ・内面粘土じも巻上げ底 ・2.5cm本右上がりのタク ・煮沸二次焼成痕 ・在地牛産土器 ・伝統的第V様式
84	甕	90-1区	推定高16.0程度 最大径16.2 口径16.2 中型	50% 底部欠損	10YR5/1 底灰 10YR6/1 底灰	・側面に外反する長い口縁 ・球形 ・上下分割成形 ・煮沸二次焼成痕	・内面粘土じも巻上げ底 ・唐手の器壁 ・1.5cm本右上がりのタク ・在地牛産土器 ・伝統的第V様式
85	甕	90-1区	器高不明 最大径18.3 口径不明	60% 上体部のみ	10YR8/2 底白 10YR8/3 底黄	・球形 ・上下分割成形 ・2.5cm本右上がりのタク	・在地牛産土器 ・伝統的第V様式
86	甕	90-1区	器高20.5 最大径18.5 口径14.4 中型	ほぼ完形	10YR7/1 底灰 10YR8/1 底灰	・直線的に開く口縁 ・口縫付オサエ成形 ・楕長の体部 ・上下分割成形	・口縫成形後タク ・2.5cm本右上がりのタク ・煮沸二次焼成痕 ・在地牛産土器 ・伝統的第V様式
87	甕	90-1区	推定高20.0程度 最大径18.1 口径14.6 中型	60% 復元により完形	2.5YR8/2 底白 10YR8/3 底黄	・直線的に開く口縁 ・楕長の体部 ・底部貼付オサエ後タク ・1.5cm5本右上がりのタク	・在地牛産土器 ・伝統的第V様式
88	甕	90-1区 SR-1	器高19.2 最大径16.6 口径14.2	完形	2.5Y8/4 底黄 2.5Y8/2 底白	・口縫外反 ・楕長の体部 ・上下分割成形 ・煮沸二次焼成痕なし	・底部貼付オサエ後タ ・楕長の体部 ・体下部内面へラミガ ・在地牛産土器 ・伝統的第V様式
89	甕	90-1区	推定高20.0程度 最大径16.8 口径不明 中型	60% 口縫部欠損	10YR7/3 にぶい黄 2.5Y8/3 底黄	・楕長の体部 ・上下分割成形 ・底部貼付オサエ後タク	・唐手の器壁 ・1.5cm本程度水平のタ ・在地牛産土器 ・伝統的第V様式
90	甕	90-1区	推定高25.0程度 最大径20.8 口径不明 大型	95% 口縫部欠損	2.5Y8/3 底黄	・楕長の体部(奇形) ・分割成形後 ・底部は丸足 ・外面タクは見えない	・搬入された上器 と辨別される (徳島・阿波か?)
91	甕	90-1区	器高不明 最大径19.4 口径16.6	50% 底部のみ	5YR2/1 底灰 2.5Y6/1 底灰	・直線的に開く口縁 ・上下分割成形 ・2.5cm本右上がりのタク	・在地牛産土器 ・伝統的第V様式
92	甕	90-1区	推定高20.5程度 最大径18.5 口径不明 中型	30% 口縫部から 上体部にかけて 欠損	5YR7/1 明灰 7.5YR6/1 底灰	・楕長の体部 ・上下分割成形 ・底部貼付後タク ・煮沸二次焼成痕	・2.5cm本右上がりのタ ・在地牛産土器 ・伝統的第V様式
93	甕	90-1区	器高不明 最大径4.5 口径不明	20% 底部のみ	2.5Y6/3 にぶい黄	・楕長の体部 ・底部貼付痕なし	・在地牛産土器 ・伝統的第V様式
94	甕	90-1区	推定高20.0程度 底径4.1 口径不明 中型	10% 底部のみ	2.5Y7/2 底灰 5Y 底黄	・楕長の体部 ・底部貼付後タク ・2.5cm本右上がりのタ ・底面に指痕痕 ・煮沸二次焼成痕	・在地牛産土器 ・伝統的第V様式
95	甕	90-1区	推定高18.5程度 底径3.6 口径不明 中型	10% 底部のみ	10YR7/4 にぶい黄	・楕長の体部 ・煮沸二次焼成痕なし ・タク跡詳細不明	・在地牛産土器 ・伝統的第V様式
96	甕	90-1区	推定高18.5程度 底径4.2 口径不明	10% 底部のみ	2.5Y8/3 底黄 2.5Y8/2 底白	・楕長の体部 ・体部タク跡底部貼付 ・煮沸二次焼成痕 ・タク跡詳細不明	・在地牛産土器 ・伝統的第V様式

土器番号 および 図版番号	器種	出土地点	法量 (cm)	残存状況	色調 外 内	特 徴	備 考		
97	甕	—	90.1	器高不明 底径4.2 口径不明 中型	10% 底部のみ	7.5YR8/4 淡黄褐色 10YR6/2 灰白	・底部附付後タタキ ・タタキ詳細不明 ・底部からトボ形のカーブは丸い	・在地生土器 ・伝統的第V様式	
98	甕	—	90.1	器高不明 底径4.7 口径不明 中型	10% 底部のみ	2.8YR8/2 灰白	・底部に對して最大径が大きい ・底部や突出気味 ・底部附付後タタキ ・タタキ詳細不明	・在地生土器 ・伝統的第V様式	
99	甕	—	90.1	器高不明 底径5.8 口径不明 大型	10% 底部のみ	2.5YR7/4 淡黄褐色 10YR6/1 褐灰	・2cm本右上がりのタタキ	・在地生土器 ・伝統的第V様式	
100	甕	—	90.1	軽高15.5-17.5 底径4.0 口径不明 中型	20% 底部のみ	7.5YR8/3 淡黄褐色	・艇長の体部 ・下部体は尖り氣味 ・底部附付後タタキ ・2cm本右上がりのタタキ	・在地生土器 ・伝統的第V様式	
101	甕	—	90.1	推定高20.0程度 底径4.2 口径不明 中型	10% 底部のみ	2.5YR8/2 灰白	・艇長の体部 ・底部附付後タタキ ・2.5cm本右上がりのタタキ	・在地生土器 ・伝統的第V様式	
102	甕	—	90.1	推定高17.0程度 底径4.5 口径不明 中型	10% 底部のみ	10YR8/4 淡黄褐色 10YR8/1 灰白	・艇長の体部 ・底部附付後タタキ ・2.5cm本右上がりのタタキ	・在地生土器 ・伝統的第V様式	
103	甕	IIa	90.1 SR-1	器高不明 最大幅20.0 口径不明	70%	5YR8/1 褐灰 5YR8/1 灰白	・球形 ・1.5cm本水平 ・右上りのタタキ ・上下分割成形	・在地生土器 ・伝統的第V様式	
104	甕	Ia	90.1 SR-1	軽高15.5-17.5 底径20.3 口径16.3 大型	70%	7.5YR7/3 に上い縦 底部にかけて 欠損	・直線的に開く口縫 ・上下分割成形 ・厚手の器壁	・内面に粘土ひも巻上げ痕 ・2cm本水平タタキ	・在地生土器 ・伝統的第V様式
105	甕	—	90.1 SK-1	推定高15.5-17.5 底径16.5-17.5 口径不明 中型	10% 口縫部のみ	3YR7/3 に上い縦 2.5YR7/3 淡黄	・直線的に開く口縫 ・艇長の体部 ・口縫成形後タタキ ・2.5cm本右上がりのタタキ	・在地生土器 ・伝統的第V様式	
106	甕	—	90.1 SR-1	推定高15.5-17.5 底径16.5-17.5 口径12.4 大型	10% 口縫部のみ	2.5YR7/3 淡黄	・最大径に對し口縫が 小さい ・各かに内凸気味の凹 縫	・口縫に刻み目 ・内面粘土ひも左上か り巻上げ ・タタキ詳細不明	・口縫形状から和 歌山県地方の甕 と類似か?
107	甕	Ia	90.1 SR-1	推定高18.0程度 底径17.3 口径不明 中型	40% 上体部のみ	7.5YR7/6 縦 7.5YR8/3 淡黄褐色	・艇長の体部 ・2.5cm本水平のタタキ ・内面粘土ひも巻上げ痕	・在地生土器 ・伝統的第V様式	
108	甕	Ia	90.1 SR-1	器高不明 最大径15 口径不明	40% 上体部のみ	2.5YR7/1 灰白 10YR5/1 褐灰	・球形 ・2.5cm本右上がりのタタキ ・上下分割成形	・在地生土器 ・伝統的第V様式	
109	甕	—	90.1 SR-1	軽高15.5-17.5 底径20.3 口径16.3 小型	70% 口縫部欠損	2.5YR8/2 灰白 10YR4/1 褐灰	・艇長の体部 ・上下分割成形 ・厚手の器壁 ・煮沸一次焼成物	・在地生土器 ・伝統的第V様式	
110	甕	—	90.1 SR-1	器高不明 最大径11.6 口径10.6	60% 底部欠損	10YR8/3 淡黄褐色	・直線的に開く口縫 ・2.5cm右上がりのタタキ ・タタキ後口縫接合オサエ	・在地生土器 ・伝統的第V様式	
111	甕	Ia	90.1 SK-1	推定高15.5程度 最大径13.5 口径11.5 中小型	40% 復元して完形	10YR7/6 明黄褐色	・直線的に開く口縫 ・艇長の体部 ・タタキ不明	・在地生土器 ・伝統的第V様式	
112	甕	Ia	90.1 SR-1	推定高17.7程度 最大径13.2 口径12.2	60% 復元して完形	10YR7/1 灰白 10YR8/3 淡黄褐色	・直線的に開く口縫 ・艇長の体部 ・上下分割成形 ・底部附付後タタキ	・在地生土器 ・伝統的第V様式	

土器番号 および 団版番号	器種	出土地点	法量 (cm)	残存状況	色 調 外 内	特 徴	備 考
113	甕	90-1 SR-1	器高14.2 最大径13.1 口径12.6 小型	75% 復元して完形	7.5YR7/6 灰	・直線的に開く口縁 ・縦長の体部 ・上下分割成形 ・底部貼付後タキ	・在地生産土器 ・伝統的第V様式
114	甕	90-1 SR-1	器高12.5 最大径12.5 口径14.0	70%	10YR5/1 褐灰 10YR8/2 灰白	・直線的に開く口縁 ・縦長の体部 ・内面粘土ひも巻上げ ・底面部貼付後タキ	・底面部貼付後タキ ・底面に大きな凹み ・煮沸二次焼成痕 ・1.5cm5本水平タタキ
115	甕	90-1 SR-1	器高19.05 最大径17.6 口径14.2	50% 復元して完形	10YR4/2 灰黄褐 2.5YR8/2 灰白	・縦向外に反する口縁 ・味跡 ・上下分割成形 ・底部貼付後タキ	・2.5cm5本右上がりの タタキ
116	甕	90-1 SR-1	器高17.7 最大径15.8 口径13.9 中型	90% 復元して完形	5YR5/1 褐灰 10YR8/2 灰白	・直線的に開く口縁 ・味跡 ・上下分割成形 ・底面部突出気味	・底面部貼付後タキ ・内面不定方向のナデ ・煮沸二次焼成痕 ・2cm5本水平のタタキ
117	甕	90-1 SR-1	器高15.4 最大径14.2 口径11.7 中小型	85% 復元して完形	10YR1.7/1 黒 10YR7/6 明黃褐	・直線的に開く窓口縁 ・縦長の体部 ・上下分割成形 ・底面部貼付後タキ	・2cm5本右上がりのタタキ
118	甕	90-1 SR-1	器高16.5 最大径14.5 口径不明 中型	50% 口縁部欠損	2.5Y7/2 灰黄	・縦長の体部 ・上下分割成形 ・厚いの漆塗	・1.5cm5本右上がりの タタキ ・煮沸二次焼成痕なし
119	甕	90-1 SR-1	器高15.7 最大径21.6 口径15.4 追大型	95% ほぼ完形	10YR1.7/1 黒 10YR7/2 にほい黄褐	・直線的に開く口縁 ・縦長の体部 ・分割成形(体部は三分割)	・口縁は指オサエで成形 ・2cm6本水平のタタキ ・煮沸二次焼成痕
120	甕	90-1 SR-1	器高23.6 最大径19.4 口径16.0 大型	75% 口縁部完形	5YR5/1 褐灰 5YR7/1 明褐灰	・縦向外に反する口縁 ・縦長の体部 ・分割成形 ・底部貼付後タキ	・2.5cm5本水平のタタキ
121	甕	90-1 SR-1	器高17.5 最大径18.9 口径不明 大型	90% 口縁部欠損	10YR7/3 にほい黄褐	・味跡 ・底部突出 ・上下分割成形 ・煮沸二次焼成痕なし	・底面部貼付後タキ ・2.5cm5本水平、右上 がりのタタキ
122	甕	90-2 V	器高不明 最大径不明 口径15.2	25% 口縁部のみ	2.5YR8/2 灰白	・内汚氣味の口縁 ・器歎はやく厚手 ・内外面にハケ跡	・在地生産土器 ・布留系土器
123	甕	90-2 SR-1	器高17.5 最大径16.5 口径16.4 中型	20% 口縁部のみ	10YR8/4 浅黄褐 10YR8/2 灰白	・内面粘土ひも左上 がり巻上げ痕 ・2cm5本右上がりのタタキ	・在地生産土器 ・伝統的第V様式
124	甕	90-2 SR-1	器高不明 最大径不明 口径16.4 中型	10% 口縁部のみ	5YR7/1 明褐灰 5YR4/3 浅褐	・外反する分岐窓口縁 ・体部は不明	・在地生産土器 ・伝統的第V様式
125	甕	90-2 西土器類	器高不明 最大径不明 口径16.2	10% 口縁部のみ	7.5YR7/4 にほい黄褐 10YR7/4 にほい黄褐	・直線的に開く口縁 ・口縁基部外端オサエ	・在地生産土器 ・伝統的第V様式
126	甕	90-2 S松原区	器高不明 最大径不明 口径16.6	20% 口縁部のみ	10YR7/2 にほい黄褐 5Y4/1 灰	・外反する口縁 ・2cm5本右上がりのタタキ	・在地生産土器 ・伝統的第V様式
127	甕	90-2 IIa	器高17.5 最大径18.6 口径15.0 小型	60% 底部欠損	7.5YR7/2 明褐灰 7.5YR7/4 にほい黄褐	・外反する口縁 ・味跡 ・内面粘土ひも巻上げ ・底面部	・傷手の苔跡 ・煮沸二次焼成痕あり ・2.5cm5本右上がりの タタキ
128	甕	90-2 IV	器高15.0 最大径16.3 口径13.6 小型	80% 底部欠損	N2/ 黒 2.5Y5/1 灰黄	・直線的に開く口縁 ・口縁は指オサエで成形 ・縦長の体部	・内面粘土ひも右上 がり巻上げ痕 ・体内面ケズリ痕 ・庄内布留系か?

土器番号 および 図版番号	器種	出土地点	法量 (cm)	残存状況	色調 外 内	特 徴	備 考
129	甕	90-2 E柱張区 SR-1	幅約19-19.5cm 最大径17.9 口徑12.6 容量2.0ℓ	80% 底部欠損	10YR8/3 淡黄褐色 10YR8/4 淡黄褐色	・僅かに内汚する口縁 ・底子の肥厚 ・抹削(やや輕拭) ・内外面調整小明	・生土系土器か? ・粘土に加算南部 底の可能性
130	甕	90-2 E柱張区 SR-1	幅約19-19.5cm 最大径18.0 口徑12.8 中型	80% 底部欠損	10YR7/3 に近い灰褐色 2.5Y8/3 淡黄	・直線底直線的に開き端部外反 ・球形 ・上下分割成形 ・2cm6本水平のタキ	・在地生土器 ・伝統的第V様式
131	甕	90-2 E柱張区 SR-1	器高不明 最大径12.2 口徑11.4	40%	10YR7/2 に近い黄褐色	・内汚する口縁 ・瓶底の体部 ・体部外面調整は不明	・在地牛產土器
132	甕	90-2 E柱張区 SR-1	器高18.7 最大径19.0 口徑14.8 中型	60%	10YR2/2 に近い黄褐色 5Y2/2 オリーブ黒	・直線的に開く口縁 ・球形 ・上下分割成形 ・直薄・二次焼成痕	・在地生土器 ・伝統的第V様式
133	甕	90-2 E柱張区 SR-4	器高16.7 最大径14.9 11径12.0	90% ほぼ完形	10YR5/2 底黄褐色 10YR4/3 に近い黄褐色	・直線的に開く口縁 ・瓶底の体部 ・上下分割成形 ・底部外輪成形	・在地生土器 ・伝統的第V様式
134	甕	90-2 西上器窯	推定高16.8程度 最大径15.0 口徑12.9	80% 復元して完形	7.5YR1.7/1 黒 7.5YR7/4 に近い黄褐色	・直線的に開く口縁 ・底子の肥厚 ・内面ケズリ痕 ・茎薄・二次焼成痕	・在地生土器 ・窯内・窑荷系か?
135	甕	90-2 E柱張区 SK-4	器高15.5 最大径14.3 11径14.4	70% 復元して完形	5YR3/4 に近い灰褐色 10YR4/1 褐黄	・僅かに外反する口縁 ・瓶底の体部 ・上下分割成形 ・底部貼付後タキ	・1.5cm5本右上がりの タキ ・在地生土器 ・伝統的第V様式
136	甕	90-2 S柱張区 SR-1	器高16.5 最大径16.8 口徑18.5	90% 復元により完形	2.5YR6/1 灰 5Y2/2 オリーブ黒	・直線的に開く口縁 ・瓶底の体部 ・上下分割成形 ・直薄・二次焼成痕	・内面へシ状工具によ るケズリ ・女性・子供番による口 縁成形オサエ ・在地生土器 ・伝統的第V様式
137	甕	90-2 S柱張区 SR-1	器高25 最大径22.4 口徑16.6	50%	7.5YR8/3 淡黄褐色 5YR8/3 淡黄	・直線的に開く口縁 ・2.5cm5本右上がりのタキ ・上下分割成形 ・球刺	・在地生土器 ・伝統的第V様式
138	甕	90-2 S柱張区 SK-1	推定高23.5程度 最大径20.0 口徑14.0 人型	70% 底部欠損 復元により完形	10YR8/1 底白 2.5YR8/1 底白	・僅かに外反する口縁 ・瓶底の体部 ・2.5cm5本右上がりのタキ ・直薄・二次焼成痕なし	・在地生土器 ・伝統的第V様式
139	甕	90-2 S柱張区 SR-1	推定高22.0程度 最大径20.9 口徑13.7 大型	95% 復元により完形	5Y4/1 灰 5Y4/1 灰	・直線的に開く口縁 ・底子の肥厚 ・底子に対して狭い 口縁	・上下分割成形 ・0.9-1.1mm粘土ひ も巻上げ痕 ・2.5m7本水平のタキ ・在地生土器 ・伝統的第V様式
140	甕	90-2 E柱張区 SR-1	推定高25.5程度 最大径20.8 口徑不明 超大型	95% I練端部欠損 復元により完形	2.5Y5/3 淡黄褐色 2.5Y7/1 底白	・直線的に開く口縁 ・瓶底の体部 ・分割成形(体部2段分割) ・直薄・二次焼成痕	・内面へシ状工具によ るナヂ ・2cm7本・3cm7本水平 のタキ ・在地生土器 ・伝統的第V様式
141	甕	90-2 E柱張区 SR-1	推定高23.5程度 最大径22.3 口徑17.8 超大型	95% 底部欠損 復元して完形	10YR1.7/1 黒 2.5Y8/2 底白	・口縁外反 ・瓶底の体部 ・口縁基部内面指オサ エ	・2cm6本水平のタキ ・在地生土器 ・伝統的第V様式
142	甕	90-2 E柱張区 SR-4	器高不明 最大径19.4 口徑不明 大型	50% 口縁部と 上体部欠損	2.5Y3/1 黒褐色 2.5Y6/3 に近い黄	・瓶底の体部 ・上下分割成形 ・2.5cm7本水平 ・右上がりのタキ	・在地生土器 ・伝統的第V様式
143	甕	90-2 西上器窯	器高不明 最大径12.3 口徑不明	50% 口縁部欠損	10YR4/2 底黄褐色 10YR7/3 青褐色	・瓶底の体部 ・2.5cm5本水平のタキ	・在地生土器 ・伝統的第V様式
144	甕	90-2 E柱張区 SR-4	器高不明 最大径11.3 口徑不明	70% 口縁部欠損	2.5YR7/2 底黄褐色 2.5YR8/2 底白	・瓶底の体部 ・上下分割成形 ・内面粘土ひも巻上げ 痕	・在地生土器 ・伝統的第V様式

土器番号 および 図版番号	器種	出土地點	法量 (cm)	残存状況	色調 外 内	特徴	備考
145	甕	90-2 E18裏 SR-4	推定高18.5程度 底径4.1 口径不明 中型	20% 底部のみ	5YR6/6 5YR7/2 明褐色	・長脚(攝承的) ・上下分削成形 ・体部タタキ後底部貼付 ・2.5cm本右上がりのタタキ	・鉢の可能性あり
146	甕	- 90-2	推定高17.5程度 底径4.5 口径不明 大型	10% 底部のみ	2.5Y7/1 灰白	・長脚か球脚か不明 ・上下分削成形 ・底部貼付後タタキ ・底部突出	・在地生産土器 ・伝統的第V様式
147	甕	- 90-2	推定高17.5以下 底径3.8 口径不明 中型	10% 底部のみ	7.5YR8/1 10YR7/1 灰白	・底部貼付痕なし ・タタキ詳細不明	・在地生産土器 ・伝統的第V様式
148	甕	- 90-2 西土器塙	器高不明 底径3.8 口径不明 大型	10% 底部のみ	5YR7/6 7.5YR7/6 橙	・右上がりのタタキ	・在地生産土器 ・伝統的第V様式
149	甕	- 90-2	器高不明 底径4.3 口径不明	10% 底部のみ	10YR8/2 灰白 10YR7/1 灰白	・底部貼付痕なし ・壺沸二次焼成痕 ・タタキ詳細不明	・在地生産土器 ・伝統的第V様式
150	甕	- 90-2 西土器塙	器高不明 底径3.4 口径不明	10% 底部のみ	10YR6/4 に付いた黄色 5YR5/3 に付いた赤褐色	・右上がりのタタキ ・底面に蓬生	・在地生産土器 ・伝統的第V様式
151	壺	89-1-W区 SR-1 土器塙A	器高不明 最大径不明 口径17.9 底径不明	20% 口縁部のみ	10YR7/2 に付いた黄褐色 7.5Y6/4 に付いた橙	・口縁は上下二段成形 ・口縁基部は完結しており ・休部とは分割成形である ・内面粘土ひもを右上げ痕	・在地生産土器
152	壺	89-1 I b 土器塙A	器高9.5程度 最大径22.7 口径13.9 底径不明	20% 口縁部のみ	2.5Y8/1 灰白	・口縁基部には頸部状の瘤がある ・口縁後合時の内外指 オサエ	・在地生産土器
153	壺	89-1-W区 SR-1 II a 土器塙A	器高8.5程度 最大径25.0 口径15.6 底径不明	40% 口縁部及び 上体部のみ	10YR7/8 黄褐色 10YR7/4 に付いた黄褐色	・外反する口縁 ・口縁基部外側に貼付突起・条 ・体部内面に粘土ひもを右上げ痕	・粘付突起は接着力の強化とともに装飾性を帯びる ・在地生産土器
154	壺	89-1-W区 II a	器高12.1 最大径11.7 口径10.8 底径3.0	完形	2.5Y7/3 浅黄	・直線的に開く長い口縁 ・体部はは円錐形 ・底部に貼付 ・上下分削成形	・体部外側にミガキ ・口縁内面にミガキ ・底面に径1cmの僅み ・在地生産土器
155	壺	89-1-W区 II b	器高9.5 最大径9.7 口径8.4 底径2.4	75% 復元して完形	7.5YR7/4 に付いた橙 2.5Y8/1 灰白	・直線的に立上がる口縁 ・体部は球形上天下に 扁平 ・底部に貼付	・上下分削成形 ・内外にナデ ・在地生産土器
156	壺	89-1-W区 III SR-1 土器塙A	器高12.6 最大径11.6 口径9.1	50% 復元して完形	7.5YR7/4 に付いた橙 2.5Y8/2 灰白	・直線的に開く口縁 ・休部は球形(やや下凹)れ ・丸底 ・上下分削成形	・在地生産土器
157	壺	89-1-W区 II b SR-1 土器塙A	器高不明 最大径10.7 (11件不明) 底径2.8	70% 口縁部欠損	10YR8/3 (透黄橙) 7.5YR8/4 浅黄橙	・体部は球形やや丸 右に斜面 ・上下分削成形 ・タタキ後ナデ	・内面に朱の痕跡 ・丸底 ・在地生産土器
158	壺	89-1-W区 IV SR-1 土器塙B	器高8.3 最大径7.4 口径6.2 底径5.6	95% 口縁部以外完形	10YR7/3 に付いた黄褐色	・直線的に開く長い口縁 ・体部は中央で膨らむが 底部に向かって尖らず 広V底部が接続する	・体部内面には無数の 指サエによる成形 痕がある ・在地生産土器
159	壺	89-1-W区 V SR-1 土器塙B	器高6.8 最大径7.3 口径6.2 底径3.6	ほぼ完形	2.5Y8/1 灰白	・短く斜角する口縁 ・体部内面に1.2cm右上 ひも巻き口縁 ・外形は長軸の楕円形	・底面に数条の擦痕 ・在地生産土器
160	壺	89-1-W区 I c SR-1 土器塙B	器高19.05 最大径16.1 口径9.1 底径3.11	80% 復元して完形	7.5YR8/3 透黄橙 N/A 灰	・直線的に開く長い口縁 ・体部は上下二層平な 椭円形 ・上下分削成形	・調整不明 ・底部は半底 ・在地生産土器

上器番号 および 図版番号	器種	出土地点	法量 (cm)	残存状況	色調 外 内	特 徴	備 考
161	壺		器高15.4 最大径12.1 口径8.2 底径3.1	89-1 90% 復元して完形	2.5Y8/2 灰白 10YR8/1 灰白	・直線的に開く長い口縁 ・体部は球形、下部尖り気味 ・底部點付オサエ	・在地生産土器
162	壺		器高14.0 最大径15.4 口径12.4 底径3.6	89-1 40% 復元して完形	2.5Y6/6 帶 10YR7/2 にい黄橙	・直線的に開く口縁 ・体部上下に扁平な情 ・内面 ・底部點付オサエ	・在地生産土器 ・焼成の可能性
163	壺		器高17.5 最大径9.0 口径11.0 底径5.1	89-1 60% 復元して完形	5YR8/3 淡青 10YR8/2 灰白	・口縁部内凹つまみ上げ ・体部は上下に扁平な楕円形 ・底部點付木板貼付ソブン ・タクシ底あり	・在地生産土器
164	壺	89-1-W区 SR-1 上器皿C	器高不明 最大径10.0 口径不明 底径2.3	89-1 80% 口縁部欠損	2.5Y8/2 灰白 2.5YK7/4 淡赤橙	・体部は上下に扁平な 球形 ・底部點付平底 ・上部分割成形	・底面に指痕有 ・非常に厚手の器壁 ・在地生産土器
165	壺	89-1-W区 SK-1 上器皿C	器高不明 最大径不明 口径15.6 底径不明	1 a 10% 口縁部のみ	2.5Y8/1 灰白	・外反の大さい口縁 ・口縁は上と2段に分割成形 ・口縁端部僅かに下垂	・在地生産土器
166	壺	89-1 W区 I a	器高不明 最大径小判 口径22.2 底径不明	10% 口縁部のみ	10YR8/4 浅黄橙	・口縁は3段に分割成形 ・分割成形接合部にナ ・口縁端部僅かに下垂 ・口縁は模合口縁形態	・口縁端部は幾やかに内凹 ・口縁端部外側4ヶ所に ・口縁端部後合時約1mm ・内面に指痕有 ・在地生産土器
167	壺	89-1-W区 VI	器高不明 最大径小判 口径30.0 底径不明	10%以下 口縁部のみ	10YR8/2 灰白 10YR1.7/1 黒	・口縁は直線的に開く ・外反 ・内面に約3mm本單位の ・ハケによる被状文	・口縁端部外側に約5 ・内面に約3mm本單位の ・非常に書い器壁 ・在地生産か不明
168	壺	89-1-W区 —	器高18.4 最大径14.8 口径11.9 底径不明	20% 底部欠損	10YR8/4 浅黄橙 10YR6/1 褐灰	・直線的に開く口縁 ・体部は上下に扁平な 球形 ・底部点成形はない	・内面に粘土ひも巻上 げ無 ・体部内面は黒変色 ・在地生産土器 ・内面黒変色は有 機物か?
169	壺	89-1-W区 SK-1 上器皿A	器高不明 最大径不明 口径小判 底径5.3	15% 底部のみ	10YR8/4 浅黄橙	・球形体部の底 ・底部點付オサエ ・底部上方に焼成後の穿孔1ヶ所 ・下部外側に不定方向のハケメ	・在地生産土器
170	壺	89-1 W区 SR-1 上器皿A	器高不明 最大径小判 口径不明 底径2.9	10% 底部のみ	7.5YR8/4 浅黄橙		・在地生産土器
171	壺	89-1-E区 —	器高不明 最大径不明 口径不明 底径3.8	10%以下 底部のみ	7.5YR7/4 にい黄橙	・体部は上下扁平の球形 ・底部點付時の小さな粘土突起 ・下部内面にハラミガキ	・在地生産土器
172	壺	89-1 E区 I a	器高不明 最大径不明 口径15cm 底径不明	10% 口縁部のみ	7.5YR8/3 浅黄橙	・外反する長い口縁 ・口縁端部外面にヘラ状工具による經線削磨 ・口縁外側に縦方向のヘラミガキ	・在地生産土器 ・庄内I期頃
173	壺	89-1-E区 I a	器高18.1 最大径13.0 口径13.6 底径3.6	90% 復元して完形	7.5YR7/8 灰白 10YR7/4 にい黄橙	・口縁端部球形状 ・体部は上下扁平の球形 ・体部上下分割成形 ・底部點付オサエ	・体部外側粘土ひも巻上 げ無 ・口縁2段分割成形 ・底部内面黒変色 ・在地生産土器 ・庄内I期頃
174	壺	89-1-E区 I a	器高17.3 最大径16.8 口径11.6 底径3.4	95% 口縁部完形	7.5YR8/2 灰白 10YR4/1 褐灰	・体部は上下扁平の球 ・内面 ・底部點付痕 ・体部上下分割成形	・下体部外側にタクシ底 ・体部外側に粘土ひも ・内面 ・体部内面は黒変色 ・在地生産土器 ・庄内I期頃
175	壺	89-1 E区 IIa	器高13.1 最大径11.5 口径11.6 底径4.3	90% 復元して完形	10YR8/1 灰白	・直線的に開く長い口縁 ・長脚気味の体部 ・体部は上下分割成形 ・底部點付粘土貼付	・小さな點付による複数合せ ・体部外側にタクシ底ナナ ・厚手の器壁 ・下体部外側に黒變色 ・在地生産土器
176	壺	89-1-E区 I a	器高不明 最大径不明 口径不明 底径不明	10% 上体部のみ	2.5Y7/4 浅青 2.5Y8/3 淡黄	・口縁部(頸部)にヘラ状工具による刺文書一束	・在地生産土器

土器番号 および 図版番号	器種	出土地点	法量 (cm)	残存状況	色調 外 内	特 徴	備 考
177	Ⅱc	89-1-W区 SR-1	地窓高5.4-5.8 最大径13.0 口径11.4 底径9.1-13.5	20% 底部体部欠損	7.5YR8/4 浅黄褐色	<ul style="list-style-type: none"> <li>器壁は内溝して立上りが一度外方へ屈曲した後口縁へ向かって内溝する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>口縁基部外面に指すサエ</li> <li>粘土が粗</li> </ul>
178	Ⅴ	90-1 SR-1	器高11.6 最大径10.9 口径8.2 底径7.3	20% 復元して完形	10YR8/1 灰白	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均線の器形</li> <li>口縁は体部端つまみ上げ</li> <li>体部上下分割成形</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>底部貼付沿オサエ</li> <li>厚みの不均一な器壁</li> </ul>
179	Ⅴ	99-1 SR-1	器高14.3 最大径13.7 口径8.8 底径12.6	80% 復元して完形	7.5YR8/8 明褐色 10YR8/3 浅黄褐色	<ul style="list-style-type: none"> <li>直線的に開く長い口縁</li> <li>体部内面はケズリ</li> <li>底部貼付沿オサエ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体部内面高さひも巻き</li> <li>二次焼成はない</li> </ul>
180	Ⅱa	90-1 SR-1	器高10.9 最大径10.5 口径10.9 底径8.2	95% 側部中央部を欠く復元して完形	10YR8/4 浅黄褐色	<ul style="list-style-type: none"> <li>背線的に開く口縁</li> <li>長脚の体部</li> <li>体部内面はケズリ</li> <li>底部貼付沿虎形</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>二次焼成はない</li> </ul>
181	Ⅰa	90-1 SR-1	器高8.4 最大径不明 口径11.7 底径不明	10% 口縁部のみ	10YR8/3 浅黄褐色 10YR8/1 灰白	<ul style="list-style-type: none"> <li>外反する長い口縁</li> <li>口縁内面に縱方向のヘラミガキ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>在生産土器</li> </ul>
182	-	90-1 SR-1	器高不明 最大径不明 口径不明 底径4.0	10% 底部のみ	2.5YR8/2 暗灰黃 2.5Y7/3 浅黃	<ul style="list-style-type: none"> <li>底部貼付沿オサエ</li> <li>体部上下に扁平な球形</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>在地生産土器</li> </ul>
183	Ⅱb	90-1	器高不明 最大径不明 口径不明 底径7.8	30% 底部の約1/2のみ	10YR8/4 浅黄褐色	<ul style="list-style-type: none"> <li>体部は球形</li> <li>体部上下分割成形</li> <li>底部貼付沿オサエは非常に小さな指腹による</li> <li>体部外面上にハケノ痕</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>在地生産土器</li> </ul>
184	Ⅰa	90-1	器高不明 最大径不明 口径17.0 底径不明	20% 口縁部のみ	2.5YR5/4 にぼい赤褐色	<ul style="list-style-type: none"> <li>複合口縁状</li> <li>口縁部は頸部を含め3段分割成形</li> <li>胎土は緻密</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>口縁後合部外面に上下2段にヘラ状工具による刺突文突起があり</li> <li>在地生産土器</li> </ul>
185	Ⅰa	90-1 SR-1	器高不明 最大径不明 口径14.0 広口壺形	20% 口縁部のみ	2.5YR8/2 灰白 5Y6/1 灰	<ul style="list-style-type: none"> <li>外反する長い口縁</li> <li>体部内面に粘土ひも巻上げ痕</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>口縁基部内面に接合時オサエ</li> <li>在地生産土器</li> </ul>
186	Ⅰa	90-1	器高不明 最大径不明 口径15.4 底径不明	20% 口縁部のみ	10YR8/1 灰白	<ul style="list-style-type: none"> <li>大きく外反する口縁</li> <li>厚手の器壁</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>在地生産土器</li> </ul>
187	Ⅲ	90-1	器高不明 最大径不明 口径11.6 底径不明	25% 口縁部のみ	2.5Y8/2 灰白 2.5Y7/3 浅黃	<ul style="list-style-type: none"> <li>直線的に開く長い口縁</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>在地生産土器</li> </ul>
188	Ⅰa	90-1	器高不明 最大径15.6度 口径不明 底径	10% 底部上半1/4のみ	7.5YR6/6 橙 5Y8/2 灰白	<ul style="list-style-type: none"> <li>口縁基部内面に接合時の指オサエ</li> <li>体部内面に粘土ひも巻上げ痕</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>在地生産土器</li> </ul>
189	Ⅰa	90-1 SR-1	器高不明 最大径不明 口径不明 底径不明	10% 底部のみ	7.5YR5/6 明褐色	<ul style="list-style-type: none"> <li>複合口縁状</li> <li>口縁複合部外面にヘラ状工具による縱方向の刺突文突起があり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>在地生産土器</li> </ul>
190	Ⅰa	90-1 上器窓A	器高17.5 最大径15.6 口径10.2 底径5.3	114I完形	5YR7/4 にぼい橙 5Y8/2 灰白	<ul style="list-style-type: none"> <li>外反する口縁</li> <li>体部は球形</li> <li>口縁は上2段分離形成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体部は上下分割成形</li> <li>底部は輪状粘土貼付</li> </ul>
191	Ⅱb	90-1 SR-1	器高11.3 最大径10.7 口径8.4 底径4.3	完形	2.5Y7/1 灰白	<ul style="list-style-type: none"> <li>直線的に立上がる短い口縁</li> <li>体部は長脚気味</li> <li>体部上下分割成形</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>上体部外面に粗いタタキ</li> <li>底部輪状粘土貼付</li> <li>口縁基部内面粗</li> </ul>
192	Ⅰa	90-1	器高18.5 最大径16.8 口径11.2 底径2.8	80% 復元して完形	7.5Y8/2 灰白 2.5Y7/1 灰白	<ul style="list-style-type: none"> <li>複合口縁氣味に外反する口縁</li> <li>体部は球形</li> <li>底部貼付</li> <li>体部外面に接合指オサエ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>在地生産土器</li> </ul>

土器番号 および 図版番号	器種	出土地点	法量 (cm)	残存状況	色調 外 内	特 徴	備 考	
193	壺	90-1	器高不明 最大径不明 口径不明 底径4.0	40% 底部のみ	2.5YR/2 灰白	・体部外間に縱方向のハケメ ・底面に斑み	・在地生土器	
194	壺	90-1 SR-1	器高不明 最大径不明 口径不明 底径2.6	40% 底部のみ	2.5YR/4 淡黄 2.5YR/2 灰白	・下体部に右上がりのタキ ・丸底	・在地生土器	
195	壺	90-1 IV	器高不明 最大径不明 口径不明 底径5.3	20% 底部のみ	2.5YR/2 灰白	・底部粘土板貼付 ・底面に平行線条痕	・在地生土器 ・171と類似か	
196	壺	90-1 SR-1	器高不明 最大径不明 口径不明 底径4.2	20% 底部のみ	2.5YR/2 灰白 N5/ 灰白	・体部は上下扁平球形 ・底部貼付オサエ ・内底面ヘラケズリ痕 ・内底面黒色化	・在地生土器	
197	壺	90-2 E粘張区	器高14.4 最大径12.9 口径11.3 底径7.4	ほぼ完形	10YR8/3 浅黄 2.5YI/7 灰白	・外反気味の口縁 ・体部は長脚気味の球形 ・下体部外側タキ後ナナ ・底部貼付	・体部は上下分離成形 ・が粘土は上下体部で異なる ・在地生土器	
198	壺	90-2 III	器高13.6 最大径12.1 口径11.3 底径7.8	80% 復元して完形	2.5Y7/1 灰白 2.5Y2/1 黑	・直線的に聞く長い口縁 ・体部上下扁平球形 ・底面に径3.8cmの穿孔	・在地生土器	
199	壺	90-2 III	器高不明 最大径9.0 口径不明 底径5.0	20% 復元して完形	2.5YR/3 淡黄 10YR6/3 ない黄緑	・直線的に聞く口縁 ・体部は下部へ尖り気味の長脚 ・体部外側タキ後ナナ ・体部内面は赤色化	・在地生土器 ・内面の赤色は朱か?	
200	壺	90-2 I a	器高不明 最大径不明 口径不明 底径不明	30% 口縁部のみ	10YR5/3 浅黄	・口縁は2段分割成形だが接合面に液状(粘性)粘土を充填した痕 ・口縁部内面に指オサエがあるが指頭は小さい	・在地生土器	
201	壺	90-2 西土器塗	器高不明 最大径不明 口径11.3 底径不明	10% 口縁部のみ	2.5Y8/4 淡黄 2.5Y6/2 灰黄	・僅かに外反するながら口縁 ・厚手の器壁	・在地生土器	
202	壺	90-2 I a	器高不明 最大径18.0 口径不明 底径5.0	40% 胴体部のみ	2.5YR/2 灰白 N3/ 暗褐	・体部は球形 ・底部貼付オサエ ・焼成良好のため瓦質 状態	・体部外面1.5cm5本右上かりのタキ ・体部外間に右上がり 粘土ひも巻上げ痕	・在地生土器
203	壺	90-2 I a	器高不明 最大径13.8 口径不明	70% 口縁部欠損	2.5Y8/5 淡黄	・体部は上下扁平球形 ・体部下部分割成形 ・口縁部内面オサエ ・上体部の基盤は厚目	・内面ヘラナナ ・丸底状	・在地生土器
204	壺	90-2 I a	器高不明 最大径14.8 口径不明 底径3.9	35% 口縁部欠損	2.5YR/3 淡黄 N3/ 暗褐	・体部は上下扁平球形 ・体部下部分割成形 ・底部貼付 ・体部内面横ナナ	・底面や上方に径1. 8cmの穿孔1ヶ所	・在地生土器
205	壺	90-2 I a	器高不明 最大径21.8 口径不明 底径3.2	95% 口縁部欠損	5YR6/6 焦 2.5Y5/1 黄灰	・体部は上下扁平球形 ・体部下部分割成形 ・内面は黒紫色 ・底部円形粘土板貼付	・在地生土器	
206	壺	90-2 I a	器高不明 推定最大径 16.5~17.0cm 口径不明 底径3.8	20% 底部のみ	10YR8/3 淡黄 3Y4/1 灰	・体部は上下扁平球形 ・突出した底部は貼付オサエ ・内面はヘラナナ	・在地生土器	
207	壺	90-2 IV	器高9.2 推定最大径 9.6 口径10.6 小型壺	2.5Y8/2 灰白 2.5Y8/3 淡黄	・直線的に聞く長い口縁 ・1本部は方形気味の円柱状 ・底部貼付オサエ ・体部外間に水平タキ	・在地生土器		
208	壺	90-2 I a	器高29.0 最大径27.5 口径15.3 底径42	ほぼ完形	7.5YR8/3 浅黄	・口縁は2段分割成形 ・口縁端部は上方に傾 ・体部は上下扁平球形 ・体部下部分割成形	・底部円形粘土板貼付 ・在地生土器	

土器番号 および 図版番号	器種	出土地点	法量 (cm)	残存状況	色調 外 内	特 徴	備 考
209	壺 IIc	90-2 E部区 SR-1	器高6.5 最大径9.6 口径10.0 底径	12.2は完形 40%	7.5YR8/2 灰白 10YR8/2 灰白	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大きめ内溝する体部</li> <li>・特に口縁を作り出していない。</li> <li>・体部段階成形</li> <li>・丸底</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在地生産土器</li> </ul>
210	壺 IIc	90-2 E部東区 SR-4	器高不明 最大径13.2 口径13.2 底径不明	40%	10YR8/2 灰白	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体部は内溝して立上がるが縫部を外反させている。</li> <li>・蓋子の器壁</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・胎土が異質な感がある</li> </ul>
211	高环 I d	89-1	器高約9.5-10.0 口径19.6 脚柱径3.5 脚台径不明	80% 復元により完形	2.5Y8/2 灰白	<ul style="list-style-type: none"> <li>・环は4段階成形</li> <li>・脚柱間に粘土充填</li> <li>・縫合部に5mm間隔で一対の内溝文(付背輪突)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・縫合部内外に5mm4本ハケによる波状文。</li> <li>・軽度外縁に5mm間隔で一対の内溝文(付背輪突)</li> <li>・脚台4孔</li> </ul>
212	高环 I a	89-1 SR-1 土器部A	器高6.5 口径17.7 脚柱径不明 脚台径不明	20%	10YR8/2 灰白	<ul style="list-style-type: none"> <li>・环は一段階成形</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在地生産土器</li> <li>・大久保E遺跡では出土数の多いタイプ</li> </ul>
213	高环 I a	89-1-W区 SR-1 土器部A	器高6.5-7.0 口径19.8 脚柱径3.7 脚台径不明	25% 復元により完形	7.5YR8/1 灰白	<ul style="list-style-type: none"> <li>・环は二段階成形</li> <li>・环、脚柱に粘土充填</li> <li>・内溝後外反して開く曲線状</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・孔数不明</li> <li>・縫合接合部は曲線状</li> <li>・縫合は内溝気味に開く</li> </ul>
214	圆形高环 IIb	89-1-W区	器高8.8 口径10.5 脚柱径3.0 脚台径12.0	40% 脚部と脚部の 部欠損	7.5YR8/4 浅黄褐	<ul style="list-style-type: none"> <li>・环状の环</li> <li>・4.5cm程度の短い脚柱</li> <li>・脚柱接合部は曲線状</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脚台は直線的に開く</li> <li>・底縁・脚柱粘土充填</li> <li>・脚台4孔</li> </ul>
215	高环 I a	89-1-W区	器高6.5-8.0 口径不明 脚柱径3.5 脚台径16.0	45% 環部と脚部の 一部欠損	10YR6/1 灰白 10YR8/2 灰白	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脚柱は竹管刺突成形</li> <li>・环部は竹管刺突充填</li> <li>・縫合接合部は曲線状</li> <li>・脚柱は直線的に開く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脚柱外縁ミガキ</li> <li>・脚台4孔</li> </ul>
216	高环 I a	89-1-W区	器高6.5-15.0 口径17.0-17.5 脚柱径3.5 脚台径16.0	30% 環部と 脚部のみ	2.5Y8/2 灰白 5YR8/4 浅褐	<ul style="list-style-type: none"> <li>・环は一段階成形</li> <li>・环部は竹管刺突成形</li> <li>・环底・脚柱に粘土充填</li> <li>・孔数不明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在地生産土器</li> </ul>
217	高环 I a	89-1 土器部A	器高不明 口径不明 脚柱径3.5 脚台径14.0	20% 脚部のみ	5YR2/3 浅褐	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脚柱は竹管刺突成形</li> <li>・环底・脚柱に粘土充填</li> <li>・縫合接合部は曲線状</li> <li>・脚柱は直線的に開く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脚台4孔</li> </ul>
218	高环 I a	89-1-W区	器高6.5-15.0 口径17.0-17.5 脚柱径3.6 脚台径不明	40% 環部約1/3と 脚柱部	10YR7/6 明黄褐 10YR6/6 明黄褐	<ul style="list-style-type: none"> <li>・环は一段階成形</li> <li>・环部は竹管刺突充填</li> <li>・脚柱は竹管刺突成形</li> <li>・縫合接合部は曲線状</li> <li>・孔数不明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内溝後外反して開く</li> <li>・环柱は竹管刺突充填</li> <li>・縫合は内溝気味に開く</li> <li>・孔数不明</li> </ul>
219	器台 V	89-1-W区 SR-1 土器部A	器高不明 口径不明 脚柱径3.4 脚台径不明	30% 環部と 脚部 1/2欠損	7.5YR8/1 灰白	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脚柱は竹管刺突成形</li> <li>・2.5cm程度の短い脚柱</li> <li>・縫合接合部は曲線状</li> <li>・脚柱は直線的に開く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在地生産土器</li> </ul>
220	圆形高环 I b	89-1-W区 SK-1 土器部A	器高不明 口径不明 脚柱径5.0 脚台径12.5	35% 環部と 脚部 1/2欠損	2.5Y8/1 灰白	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脚柱は竹管刺突成形</li> <li>・2.5cm程度の短い脚柱</li> <li>・縫合接合部は曲線状</li> <li>・脚柱は直線的に開く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在地生産土器</li> </ul>
221	器台 I	89-1-W区 SK-1 土器部B	器高不明 口径不明 脚柱径3.4 脚台径13.2	65% 復元により完形	7.5Y8/3 浅黄褐	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脚柱は竹管刺突成形</li> <li>・3cm程度の脚柱</li> <li>・脚柱は直線的に開く</li> <li>・縫合接合部は直線状</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外縁に5mm幅の5mmの粒状文(押型)が一列にめぐる</li> <li>・脚台4孔</li> </ul>
222	高环 I a	89-1-W区 SR-1 土器部B	器高12.5 口径16.2 脚柱径3.7 脚台径12.0	75% 復元により完形	2.5YR7/4 浅黄褐 5YR8/4 浅褐	<ul style="list-style-type: none"> <li>・环は一段階成形</li> <li>・环は直線的に内折</li> <li>・脚柱新実成形粘土充填</li> <li>・縫合接合部は曲線状</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脚柱は直線的か?</li> <li>・胎土が若干異質か?</li> </ul>
223	高环 IV	89-1-W区 土器部B	器高12.0-13.0 口径15.0-16.0 脚柱径3.6 脚台径12.0	50% 環部と 脚部が 欠損	10YR7/6 明黄褐 2.5Y8/4 浅褐	<ul style="list-style-type: none"> <li>・环は内溝気味に開く</li> <li>・3cm程度の脚柱</li> <li>・环・脚・台の接合部は曲線状</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・縫合孔なし</li> </ul>
224	圆形高环 IIa	89-1 土器部B	器高11.0-11.5 口径11.8 脚柱径3.0 脚台径不明	75% 脚部を欠損	2.5Y8/2 灰白	<ul style="list-style-type: none"> <li>・底縁の环</li> <li>・3cm程度の脚柱</li> <li>・环・脚・台の接合部は曲線状</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脚柱は内溝して開く</li> <li>・脚台4孔</li> </ul>

土器番号 および 図版番号	器種	出土地点	法量 (cm)	残存状況	色調 外 内	特 徴	備 考
225	丸形壺环	OKERI I W区 IIa	器高不明 SR-1 土器部B	口径11.0 推定口径22.1 脚古径不明	40% 脚柱部と 脚部が欠損	5YR7/6 暗	・楕円形の环 ・环外底面に脚柱接合痕 ・在地生産土器
226	高环	89-1-W区 I a	器高11.0 口径不明 脚柱径3.7 脚古径不明		20% 脚柱部のみ	10YR7/1 灰白	・脚柱芯剥離成形後粘土充填 ・脚柱外縁に縱方向のミガキ ・脚柱接合部は曲線状 ・脚合孔数不明
227	高环	89-1-W区 I b	器高10.0 程度 口径不明 脚柱径3.8 推定脚合径10.2		30% 环部と脚部欠損	2.5Y8/3 淡黄	・脚柱芯剥離成形後粘 土充填 ・4.0cm前後の脚柱 ・脚合接合部は曲線状
228	高环	89-1-W区 I c	器高19.1 推定口径22.0 脚柱径3.8 推定脚合径13.3		95% ほぼ完形	7.5YR7/1 明褐灰	・内湾底外反氣味に開く ・直線状の环 ・脚合接合部は曲線状
229	高环	89-1-W区 II a	器高17.0 推定口径21.2 脚柱径4.3 推定脚合径18.7		95% ほぼ完形	5YR8/3 淡橙	・内湾底外反氣味に開く ・直線状の环 ・环外縁に二段階成形 ・脚合オサエ
230	丸形壺环	89-1-W区 IIb	器高13.0 口径12.6 脚柱径3.5 脚合径17.4		95% ほぼ完形	7.5YR7/6 暗	・椭円形の环 ・2.5cm前後の脚柱 ・脚柱接合部は直線状 ・脚合は直線的に開く
231	丸形壺环	89-1-W区 IIa	器高14.5 口径14.5 脚柱径3.2 脚古径不明		70% 环部1/2と 脚部の端部を 欠損	5YR8/3 淡橙 5YR8/2 灰白	・脚柱は内湾気味に開く ・2cm前後の脚柱 ・脚合接合部は直線的 ・脚合は直線的に開く
232	高环	89-1-W区 I a	器高11.0 口径不明 脚柱径2.8 脚合径16.9		50% 环部を欠損	7.5YR8/3 淡黄褐 7.5YR8/2 灰白	・脚柱芯剥離成形後粘 土充填 ・脚合接合部は曲線状 ・脚合は直線的に開く
233	高环	89-1-W区 I e	器高11.0 口径不明 脚柱径3.6 脚古径17.4		25% 环部と脚部 1/2欠損	10YR8/2 灰白	・脚柱芯剥離成形後粘土充填 ・脚合は二段階に成形 ・脚柱部は外反 ・脚合基部に大小二組の孔
234	丸形壺环	89-1-W区 IIb	器高11.0 口径不明 脚柱径3.0 脚合径13.6		40% 环部と 脚部一部欠損	10YR6/4 にじむ黄棕	・直線状の环 ・1.5cm程度の短脚柱 ・脚合接合部は曲線状 ・脚合は直線的に開く
235	器台	89-1-W区 II	器高4.0 口径不明 脚柱径2.9 脚合径9.0		60% 脚部のみ	2.5Y8/3 淡黄 10YR6/1 褐灰	・脚柱は中央ではない ・脚合は直線的に開く ・脚合孔
236	丸形壺环	89-1-W区 IIb	器高4.0 口径不明 脚柱径3.4 脚古径不明		20% 脚柱部のみ	2.5Y8/2 灰白	・椭円形の环 ・1cm程度の短脚柱 ・脚合底面から粘土充填
237	高环	89-1-E 区 I a	器高4.0 口径不明 脚柱径2.2 脚古径不明		20% 环部のみ	7.5YR8/4 淡黄褐 2.5YR7/1 灰白	・内湾底外反氣味に開く直線状の环 ・环部、段階成形 ・环外に成形時指オサエ
238	高环	89-1-E 区 I a	器高4.0 口径不明 脚柱径23.4 脚古径不明 脚合径不明		20% 环部のみ	7.5YR8/4 淡黄褐	・直線的に開く环底部から枝をもって接合し外反して開く环の接合
239	高环	89-1-E 区 I a	器高4.0 口径20.8 脚柱径3.0 脚合径不明		30% 环部のみ	5YR8/4 淡橙	・内湾底外反に開く直線状の环 ・环外に成形時の指オサエ
240	高环	89-1 E 区 I a	推定器高18.5 推定口径20.6 脚柱径不明 脚古径不明		10% 环部のみ	10YR8/1 灰白	・内湾底外反して開く直線的な环 ・环は二段階成形 ・环外に接合時指オサエ

土器番号 および 開版番号	器種	出土地点	法量 (cm)	残存状況	色調 外 内	特 徴	備 考
241	高环	89-1-E 区 I a	推定高8.0~20.0 口径不明 脚柱径4.2 脚台径不明	20% 脚柱部のみ	10YR7/6 浅黄褐色 10YR8/4 浅黄褐色	・3.5cm程度脚柱 ・脚柱芯部貫通成形 ・环底・脚柱粘土充填	・在地生産土器
242	高环		推定高8.0~20.0 口径不明 脚柱径5.0 脚台径不明		20% 脚柱部のみ	7.5YR4/4 褐	・5.5cm程度脚柱 ・脚柱芯部貫通成形 ・环底・脚柱粘土充填
243	高环	89-1-E 区 I a	小直径8.0~18.0 口径不明 脚柱径3.5 脚台径不明	20% 脚柱部のみ	7.5YR8/3 浅黄褐色	・6.0cm程度の脚柱 ・脚柱芯部貫通 ・环底・脚柱粘土充填 ・脚柱合体部は曲線状	・在地生産土器
244	彫形高环		推定高7.0~8.5 口径8.0~10.5 脚柱径5.3 脚台径3.0~11.0		20% 脚柱部	7.5YR8/3 (浅黄褐色) 10YR8/2 灰白	・彫形の环 ・1.5~1.8cm程度の短い脚柱 ・脚柱芯部貫通成形 ・环底・脚柱粘土充填
245	彫形高环	89-1-E 区 II b	推定高8.0~9.0 口径8.0~10.3 脚柱径3.8 脚台径3.5~11.5	20% 脚柱部のみ	10YR8/2 灰白	・2cm程度の脚柱 ・脚柱芯部貫通成形 ・环底・脚柱粘土充填	・脚柱は内溝気味に開く ・脚柱孔數不明
246	高环		器高不明 口径不明 脚柱径3.5 脚台径3.0~11.5		20% 脚柱部のみ	7.5YR8/3 浅黄褐色	
247	彫形高环	89-1-E 区 II b	推定高6.5~10.0 口径8.0~11.0 脚柱径6.6 脚台径5.0~10.0	20% 脚柱部のみ	2.5Y8/3 浅黄	・1cm程度の短い脚柱 ・脚柱芯部貫通成形 ・环底粘土充填	・在地生産土器
248	高环		推定高5.5~12.0 口径8.0~11.0 脚柱径3.4 脚台径12.2		40% 环部は欠損	2.5Y8/1 灰白	・2.5cm程度の脚柱 ・脚柱芯部貫通成形 ・环底粘土充填 ・脚柱合体部は曲線状
249	高环	89-1-E 区 I a	推定高11.5~14.5 口径10.0~16.0 脚柱径5.5 脚台径11.2	25% 脚柱部のみ	7.5YR8/4 (浅黄褐色)	・4.5cm程度の脚柱 ・脚柱芯部貫通 ・环底・脚柱粘土充填 ・脚柱接合部は曲線状	・脚柱は直線的に開く ・脚柱4孔
250	高环		推定高14.0~14.5 口径12.0~15.0 脚柱径3.4 脚台径12.5		15% 脚柱部のみ	2.5Y7/1 灰白	・3cmの脚柱 ・脚柱芯部貫通 ・环底・脚柱粘土充填 ・脚柱合体部は曲線状
251	器台	89-1-E 区 IV	器高不明 口径9.2 脚柱径3.2 脚台径不明	40% 脚柱部と环部	2.5Y7/1 灰白 N3 暗灰	・3.5cmの脚柱 ・脚柱芯部貫通 ・脚柱孔数ない? ・脚柱外側ミカキ	・环内面にハラケズ リ ・脚柱に大小二種4孔 ・脚柱の可能性
252	彫形高环		器高11.5 口径11.7 脚柱径3.3 脚台径13.5		90% 復元により完形	2.5Y8/2 灰白	・彫形状の环 ・2.5cmの脚柱 ・厚手の器壁 ・脚柱合体部は曲線状
253	彫形高环	89-1-E 区 II b	25高10.9 口径11.9 脚柱径3.0 脚台径16.0	90% 復元により完形	环部5YR6/8 褐 脚部7.5YR8/3 浅黄褐色	・彫形状の环 ・2.7cmの脚柱 ・脚柱芯部貫通 ・环底・脚柱粘土充填	・脚柱接合部は曲線状 ・脚柱4孔
254	高环		器高11.0~15.5 口径12.0~15.5 脚柱径3.5 脚台径11.0~14.0		20% 脚柱部のみ	10YR8/1 灰白 10YR8/2 灰白	・3.5cm程度の脚柱 ・脚柱芯部貫通成形 ・环底粘土充填
255	高环	89-1 W 区 SR-1 I a	推定高11.0~16.0 口径10.0~17.0 脚柱径4.0 脚台径11.0~15.0	20% 脚柱部のみ	10YR8/2 灰白 10YR8/4 (浅黄褐色)	・6.7cm程度の脚柱 ・脚柱芯部貫通成形 ・环底粘土充填	・在地生産土器
256	彫形高环		推定高9.5~10.0 口径8.0~11.0 脚柱径3.0		25% 脚柱部	10YR8/3 (浅黄褐色)	・3cmの脚柱 ・彫形状の环 ・脚柱芯部貫通成形 ・环底・脚柱粘土充填

土器番号 および 図版番号	器種	出土地点	法量 (cm)	残存状況	色 調 外 内	特 徴	備 考
257	高环	90-1	推定高9.5~10.0 推定口径15.3 脚柱径3.0 脚台径15~15.5	35% 脚部欠損	5YR7/6 5YR6/1 褐灰	・内湾する环底に曲線的に接合し外反して聞く环 ・脚柱高3cm ・脚台接合部は曲線状	・在地生産土器
258	高环	90-1	推定高11.5以上 推定口径22.3~32度 脚柱径4.0 脚台径不明	10% 环部のみ	2.5Y7/3 浅黄	・内湾する环底に外反して聞く环底が曲線的に接合	・在地生産土器
259	高环	90-1	推定高11.0~13.0 推定口径12.0~18.0 脚柱径3.0 脚台径不明	10%以下 环部のみ	7.5YR8/3 浅黄橙	・内湾する环底に外反して聞く环底が曲線的に接合 ・环底内部は大きく述む	・在地生産土器
260	器台	90-1	器高不明 口径11.9 脚柱径4.6 脚台径不明	40% 脚部欠損	10YR8/3 浅黄 10YR5/6 黄褐	・环は二段階成形 ・脚柱径大きい ・脚柱中空 ・脚柱外面指子	・在地生産土器
261	高环	90-1	推定高17.5~19.0 推定口径17.0~20.0 脚柱径3.1 脚台径不明	65% 脚部欠損	10YR8/3 浅黄橙	・环は一段階成形 ・内湾する环底に外反して聞く环底が曲線的に接合 ・脚柱高7cm ・脚柱芯部貫通成形	・在地生産土器
262	高环	90-1	推定高15.5~15.9 推定口径18.0~8.8度 脚柱径3.2 脚台径10.0~11.0	70% 口縁脚部の 端部欠く	10YR7/3 に近い 浅黄	・环は二段階成形 ・内湾する环底に外反して聞く环底が曲線的に接合 ・脚柱高5cm ・脚柱芯部貫通成形	・在地生産土器
263	高环	90-1	器高12.5 口径16.2 脚柱径4.5 脚台径10.0	70% 环部の口縁部 及び脚部の 端部を欠く	2.5Y7/1 灰白 2.5Y7/1 灰白	・环底内面は丸底状で环底外縁は外反して聞く ・环底は直線的に聞いて端部外反 ・脚台は直線的に聞く ・脚台孔	・在地生産土器 ・特殊形状の高环と も云々べき器形
264	高环	90-1	推定高13.5~14.0 推定口径8.0~19.0 脚柱径3.4 脚台径10.0~11.0	50% 环底の口縁部 及び脚部の 口縁部を欠く	10YR8/2 灰白	・直する环底に外反して聞く ・环底は直線的に聞いて端部外反 ・脚柱芯部貫通成形 ・环底・脚柱粘土充填 ・脚台接合部は曲線状 ・脚台基部外面ミガキ	・在地生産土器
265	高环	90-1	推定高10~15.0 推定口径12~15.0 脚柱径3.0 脚台径12.0	20% 环底の口縁部 及び脚部の 端部を欠く	2.5YR8/4 淡黄	・大きく内湾する环底 ・脚柱高3.5cm ・脚台接合部は曲線状 ・脚台は直線的に聞く	・在地生産土器 ・环形状は椭形 か?
266	高环	90-1	器高不明 口径不明 脚柱径3.0 脚台径5~10.0	20% 脚部のみ ただし、 端部欠損	7.5YR8/4 浅黄橙	・大きく述む内湾する环底 ・脚柱高3.5cm ・脚台接合部は曲線状 ・脚台は直線的に聞く	・在地生産土器 ・环形状は椭形 か?
267	筒形高环	90-1	器高不明 口径不明 脚柱径3.4 脚台径不明	40% 环底の口縁部 及び脚部の 端部を欠く	10YR8/3 浅黄 7.5YR7/6 灰	・筒形状の环 ・脚柱高2cm ・脚台接合部は曲線状 ・脚台孔	・在地生産土器
268	筒形高环	90-1	推定高7.5~10.0 推定口径5~11.0 脚柱径3.0 脚台径不明	30% 脚部の环部の 一部のみ	10YR8/3 浅黄橙	・筒形状の环 ・脚柱高2cm ・脚柱芯部貫通成形 ・环底・脚柱粘土充填	・在地生産土器
269	高环	90-1	推定高8.5~19.0 推定口径8.0~18.0 脚柱径3.6 脚台径5~10.0	50% 脚部のみ ただし、 端部は 欠損	10YR8/1 灰白	・脚柱高6.3cm ・脚柱芯部貫通成形 ・环底・脚柱粘土充填 ・脚台接合部は曲線状	・在地生産土器
270	高环	90-1	器高不明 口径不明 脚柱径3.2 脚台径不明	20% 脚部のみ	10YR8/3 浅黄橙	・脚柱高5.5cm ・脚柱芯部貫通成形 ・环底・脚柱粘土充填 ・脚台接合部は直線的	・在地生産土器
271	高环	90-1	推定高10.0~15.0 推定口径6.0~15.5 脚柱径3.6 脚台径4.0~10.5	20% 脚柱部及び 环底环部欠損	10YR7/6 明黄褐 10YR8/3 浅黄褐	・脚柱高6.0cm ・内湾する环底部 ・脚柱芯部貫通成形 ・环底・脚柱粘土充填	・在地生産土器
272	高环	90-1	器高不明 口径不明 脚柱径3.5 脚台径10.5	40% 脚部のみ	7.5YR7/3 に近い 7.5YR8/2 灰白	・脚柱高5.8cm ・脚柱芯部貫通成形 ・脚台接合部は曲線状 ・脚台孔3孔	・在地生産土器 ・脚台形状が特異

土器番号 および 図版番号	器種	出土地点	法量 (cm)	残存状況	色調 外 内	特 徴	備 考
273	丸形高环	90-1	基定高10.5~11.0 直径10.5~11.5 脚柱径3.7 脚台径10.4	50% 脚部及び 底部約2/5のみ	7.5YR8/3 淡黄橙	・脚柱高3.5cm ・环底・脚柱粘土充填 ・脚柱芯部貫通成形 ・直線的に聞く脚台	・脚台接合部は曲線的 ・径12mm4孔
274	丸形高环	90-1	基定高10.6~10.9 直径10.6~11.0 脚柱径3.0 脚台径14.4	30% 脚部約1/2のみ	10YR8/4 淡黄 10YR8/3 淡黄橙	・脚柱高2.5cm ・脚柱芯部貫通成形 ・环底・脚柱粘土充填 ・脚台接合部は墨線状	・直線的に聞く脚台 ・径13mm4孔
275	高环	90-1	基定高不明 口径20.4 脚柱径4.0 脚台径不明	20% 脚柱部のみ	2.5Y8/2 灰白	・脚柱高5.5cm ・脚柱芯部貫通成形 ・环底・脚柱粘土充填 ・脚柱外側にガキ	・脚台接合部は直線状 ・脚台5孔
276	高环	90-1	基定高8.9~10.5 直径10.5~12.0 脚柱径3.5 脚台径11.8	20% 脚柱部のみ	2.5Y8/2 灰白	・脚柱高3.5cm ・脚柱芯部貫通成形 ・环底・脚柱粘土充填 ・环底脚柱外側にガキ	・非常に厚手の脚台 ・在地生産土器 ・脚形状の坏か?
277	高环	90-1	基定高不明 口径11.5~16.5 脚柱径3.4 脚台径13.1	20% 脚部1/4のみ	10YR5/1 褐灰	・直線的に聞く長い脚台 ・脚台内面へラグゼリ ・径8mm4孔	・在地生産土器 ・278と同様の台 底環坏か?
278	高环	90-1	基定高8.5~9.5 直径10.5~16.5 脚柱径4.0 脚台径不明	20% 脚部のみ ただし端部は 欠損	10YR8/2 灰白	・脚柱・脚柱外側にガキ ・脚台接合部は墨線状 ・径8mm4孔 ・脚柱高3.1cm	・在地生産土器 ・脚柱は中実か ・脚形状の坏か?
279	丸形高环	90-1	基定高7.6~8.3 口径7.5~7.8 脚柱径3.2 脚台径8.6	30% 底部約1/2 及び脚柱部のみ	10Y6/8 赤褐	・脚柱外側にガキ ・脚台接合部は曲線状 ・脚柱なし ・脚柱高1.3cm	・在地生産土器 ・脚柱は中実か ・脚形状の坏か?
280	丸形高环	90-1	基定高5.0~5.5 直径10.0~9.0 脚柱径3.8 脚台径8.4	40% 脚部1/2のみ	2.5YS8/2 灰白	・脚柱高1.3cm ・扁平に内溝する脚台 ・径9mm5孔 ・薄手の环部	・在地生産土器 ・脚柱は中実か ・脚形状の坏か?
281	环台	90-1	基定高不明 口径不明 脚柱径4.0 脚台径不明	30% 脚部の 上半部のみ	2.5Y8/3 淡黄		・在地生産土器
282	高环	90-1	基定高不明 口径不明 脚柱径3.8 脚台径不明	30% 脚柱部のみ	2.5Y8/3		・在地生産土器
283	高环	90-1	基定高18.5 口径23.6 脚柱径3.5 脚台径16.2	70% 復元により完形	2.5Y8/2 灰白	・内溝する环底に外反する环縁が曲線状に接合 ・脚柱高6cm ・脚柱芯部貫通成形	・环台・脚柱粘土充填 ・脚台接合部は墨線状 ・直線的に聞く脚台 ・径11mm4孔
284	高环	90-1	基定高16.7 口径18.0 脚柱径3.7 脚台径15.0	80% 復元により完形	10YR6/1 褐灰	・直線的に聞く环底に 外反する环縁が曲線状に接合して接合 ・脚柱高5.5cm	・脚台接合部は曲線状 ・直線的に聞く脚台 ・径10mm4孔 ・环底接合指オサエ
285	高环	90-1	基定高17.1 口径22.3 脚柱径3.8 脚台径15.0	42%完形	10YR8/3 淡黄橙	・内溝する环底に外反する环縁が曲線状に接合 ・脚柱高6cm ・脚柱芯部貫通成形	・环底・脚柱粘土充填 ・脚台接合部は墨線状 ・直線的に聞く脚台 ・径10mm4孔
286	高环	90-1 SR-1	基定高不明 口径22.2 脚柱径不明 脚台径不明	10% 环底2/5のみ	5YR8/3 淡黄	・内溝する环底に外反する环縁が曲線状に接合 ・内外に环縁接合時指オサエ	・在地生産土器
287	高环	90-1 SR-1	基定高不明 口径18.0 脚柱径不明 脚台径不明	50% 环部のみ	10YR8/2灰白	・ほぼ水平の环底に直線的に聞く环縁が内折する ように接合	・在地生産土器 ・庄内式高环の特 徴をもつ
288	高环	90-1 SR-1	基定高不明 口径19.5 脚柱径不明 脚台径不明	15% 脚部約1/4のみ	10YR8/6黄褐	・内溝する环底に外反する环縁が曲線状に接合 ・内外に环縁接合時の指オサエ	

土器番号 および 図版番号	器種	出土地点	法量 (cm)	残存状況	色 調 外 内	特 徴	備 考
289	高環 IV	90-1 SR-1	推定高14.5~16.0 口径17.2 脚柱径4.0 脚台径不明	70% 环部の口縁部 3/4及び脚部 の断面のみ	10YR に近い黄褐色	・瓶形状の环に逆瀬形 状の脚台を直接結合 させたもの ・脚台なし	・脚台内面にヘラナギ ・在地牛産土器 ・形状は分鏡型高 环ともいべきもの
290	高環 I a	90-1 SR-1	器高13.3 口径16.4 脚柱径2.9 脚台径10.9	100% 完全	2.5YR8/2 灰白 10YR8/1 灰白	・内溝する环底に外反す る环底が曲線状に接合 ・11x11柱状の脚柱 ・脚台接合部は曲線状	・脚部は低く直線的に聞く ・全面にヘラミガキ ・径5mm4孔 ・かなり厚手の器壁 ・久保E 遺跡 の高环の中では 特異な例である
291	高環 I d	90-1 SR-1	器高13.0 口径16.0 脚柱径4.2 脚台径不明	50% 脚部と 脚柱部のみ	10YR8/3 浅黄褐色	・环は三段階成形 ・脚柱と芯部貫通成形 ・底底付土光磨 ・脚柱高4.3cm	・直線的に聞く环底か ら直線的な环底が立 上りきらんに口縁が 外反して接合 ・久保E 遺跡 の高环の中では 特異な例である
292	瓶形高环 II c	90-1 SR-1	器高9.0 口径9.0 脚柱径3.0 脚台径7.6	60% 復元して完形	10YR7/1 灰白	・瓶形状の环 ・脚柱高2.5cm ・脚柱芯部貫通成形 ・底底付土光磨 ・脚柱粘土充填	・脚外側ミガキ ・径7mm3孔 ・脚台接合部は曲線状 ・久保E 遺跡 の高环の中では 特異な例である
293	器台 III	90-1 SR-1	器高8.5(13.0) 口径16.0~17.0 脚柱径3.5 脚台径11.4	40% 復元して完形	10YR8/3 浅黄褐色	・环底は内溝し底付 ・脚柱高3.3cm ・脚柱芯部貫通成形 ・脚台接合部は曲線状	・直線的に聞く脚台 ・脚柱高11mm4孔 ・脚柱は中空ではない ・高环未成品・环 脚欠損の可能性 もある ・在地牛産土器
294	器台 II	90-1 SR-1	器高9.0(11.5~12.0) 口径9.0(11.5~12.0) (11.5~12.0) 脚柱径3.9 脚台径10.9	完全	7.5YR7/3 に近い褐色 7.5YR4/1 灰灰	・环底は内溝し底付 ・脚柱高なく环と脚台が接合 ・脚台外側・环底内面ミガキ ・径8mm4孔	・在地牛産土器
295	器台 II	90-1 SR-1	器高不明 口径9.4 脚柱径4.3 脚台径不明	10% 环部のみ	10YR8/4 浅黄褐色 10YR6/6 に近い黄褐色	・直線的に聞く环底	・高环未成品・环 脚欠損の可能性 もある ・在地牛産土器
296	高環 I b	90-1 SR-1	推定高12.0~13.5 口径11.5 脚柱径4.0 脚台径不明	50% 脚柱部及び 环部1/4のみ	7.5YR8/2/灰白 7.5YR8/1/灰白 7.5YR8/4 浅黄褐色	・瓶形状の环 ・脚柱高4cm ・脚柱芯部貫通成形 ・底底付・脚柱粘土充填	・脚台接合部は曲線状 ・环内面・脚外側ミ ガキ ・在地牛産土器
297	高環 I a	90-1 SR-1	推定高15.0~17.0 口径 脚柱径3.5 脚台径不明	30% 脚柱部のみ	7.5YR8/4/灰 浅黄褐色	・内溝する环底 ・脚柱芯部貫通成形 ・环底・脚柱粘土充填 ・脚台接合部は曲線状	・脚台接合部外表面オ ザエ ・在地牛産土器
298	器台 III	90-1 SR-1	器高不明 口径不明 脚柱径2.3 脚柱高8.2	50% 脚部のみ	5YR8/2 所 N4 灰		・在地牛産土器
299	高環 I b	90-1 SR-1	器高不明 口径不明 脚柱径3.4 脚台径2.4	50% 脚部のみ	7.5YR5/2 灰灰 7.5YR7/2 明灰灰	・脚台接合部は曲線状 ・脚柱芯部貫通成形 ・脚台は外反気味に聞 く	・脚外側ミガキ ・径9mm4孔 ・在地牛産土器
300	高環 V	90-1 SR-1	器高不明 口径不明 脚柱径 脚台径不明	40% 脚柱のみ	10YR8/1 灰白	・脚柱は中空 ・廣い基盤 ・胎土は真質	・久保E 遺跡 の高环の中では 特異な例である
301	高環 I d	90-2 西土器類	推定高8.5~10.0 推定11.5~13.0 脚柱径3.3 脚台径11.0	30% 脚柱部残存	10YR8/2 灰白 2.5YR8/2 灰白	・环は三段階成形 ・内溝する环底に外折 して聞く环底が屈曲 して機合	・脚柱高7cm ・脚柱芯部貫通成形 ・环底・脚柱粘土充填 ・脚外側ミガキ ・在地牛産土器
302	瓶形高环 II b	90-2 西土器類	推定高8.5~10.0 推定11.5~13.0 脚柱径3.3 脚台径11.0	40% 底底から 环部にかけて 約1/2のみ	10YR8/4 浅黄褐色	・环は二段階成形 ・内溝する环底に内折して聞く环底が接合 ・脚柱高1.8cm ・径8mm4孔	・在地牛産土器
303	瓶形高环 II b	90-2 西土器類	推定高9.5~10.5 口径11.1 脚柱径3.1 脚台径9.1	40% 环部1/2のみ	7.5YR8/3 浅黄褐色 2.5YR8/2 灰白	・瓶形状の环 ・脚柱高2.2cm ・脚柱芯部貫通成形 ・环底・脚柱粘土充填 ・脚外側ミガキ	・脚外側接合部は曲線状 ・径11mm4孔 ・在地牛産土器
304	高環 I a	90-2 西土器類	推定高13.5~16.0 推定15.5~16.5 脚柱径3.1 脚台径12.5	50% 脚部のみ	7.5YR8/3 浅黄褐色	・直線的に聞く环底 ・脚台接合部は曲線状 ・脚台は直線的に聞く ・脚柱部不明	・径10mm4孔 ・在地牛産土器

土器番号 および 國版番号	器種	出土地点	法量 (cm)	残存状況	色調 外 内	特 徴	備 考
305	高环 I a	90-2 E底区 SR-1	器高17.0~19.0 口径不明 脚柱径3.2 脚台径不明	30% 脚柱部のみ	7.5YR8/3 浅黄橙	・脚柱芯部貫通成形 ・环底、脚柱粘土充填 ・脚柱外側ミガキ ・脚柱高9.0cm	・脚合接合部内面オサエ  ・在地生産土器
306	高环 V	90-2 SR-1	器高不明 口径不明 脚柱径3.8 脚台径不明	40% 脚柱部のみ	5Y8/2 灰白 5Y8/1 灰白	・脚柱中空 ・薄い基盤	・大久保E遺跡の 高環の中では特異である
307	高环 I a	90-2 SR-1	器高16.5~19.0 口径不明 脚柱径3.8 脚台径不明	30% 脚柱部のみ	7.5YR5/8 明褐色	・脚柱芯部貫通成形 ・环底、脚柱粘土充填 ・脚合接合部内面オサエ	・脚柱高7.2cm  ・在地生産土器
308	高环 I a	90-2 SR-1	器高13.5~15.0 口径不明 脚柱径4.2 脚台径不明	30% 脚柱部のみ	2.5YR6/6 橙	・脚柱芯部貫通成形 ・环底、脚柱粘土充填 ・脚柱外側ミガキ ・脚台卷合部は曲線状	・脚合接合部内面オサエ ・径11mm4孔  ・在地生産土器
309	施釉高环 I b	90-2 西土器部	器高不明 口径不明 脚柱径3.6 脚台径不明	20% 脚部のみ、 ただし施釉部 は欠損	7.5YR7/4 にじいろ	・外以及て開く脚台 ・脚柱2.0cm ・脚柱芯部不明 ・脚台孔不明	・在地生産土器
310	製塙土器 I a	89-1-W区 SR-1 上器部B	器高24.0~26.0 口径不明 底部径不明	70% 口縁部 及び脚台欠損	2.5Y7/3 浅黄	・器形は縱長逆円錐+脚 ・厚手の器壁 ・体部二段階成形 ・脚柱部平追	・2×2.5cm6本右上がり のタスキ ・脚面上、下ナデオサエ  ・在地生産土器
311	製塙土器 I a	89-1-W区 SR-1 上器部B	器高不明 口径不明 底部径6.2	20% 脚部のみ	5Y8/2 灰白	・器形は縱長逆円錐+脚 ・厚手の器壁 ・体部右上がりのタスキ ・脚柱面上一丁下ナデオサエ ・体部内外面にオサエ	・在地生産土器
312	製塙土器	89-1-E区	器高不明 口径10.6 底部径不明	10% 口縁部/10 程度のみ	7.5YR8/1 灰白	・器形は縱長逆円錐+脚 ・厚手の器壁 ・体部は段階成形	・体部外間に右上がり のタスキ ・2×2.5cm6本右上がり のタスキ  ・在地生産土器
313	製塙土器 I b	89-1-E区	器高不明 口径不明 底部径5.1	10% 脚部1/3 程度のみ	5YR8/3 浅橙 N5/ 灰	・器形は縱長逆円錐+脚 ・厚手の器壁 ・脚柱面上一丁下ナデオサエ ・脚底面化粧	・在地生産土器
314	製塙土器 I b	90-1 SR-1	器高不明 口径不明 底部径4.7	80% 口縁部次規 復元して完形	7.5YR7/6 橙 N3/ 灰	・器形は縱長逆円錐+脚 ・厚手の器壁 ・脚柱面上一丁下ナデオサエ ・脚底面化粧	・脚底面化粧 ・短く粗粒がりの脚 ・2×2.5cm6本右上がり のタスキ  ・在牛糞土器 ・脚柱部、脚柱部に縦溝 筋立つと化粧で飾る ことが特徴である
315	製塙土器 I a	90-1 SR-1	器高不明 口径不明 底部径5.1	10% 脚部のみ	7.5YR8/2 灰白	・器形は縱長逆円錐+脚 ・厚手の器壁 ・脚柱面上一丁下ナデオサエ ・脚底面化粧	・脚底面平追 ・体外右上がりのタスキ  ・在地生産土器
316	製塙土器 I b	90-1	器高不明 口径不明 底部径5.0	50% 口縁部欠損 復元して完形	7.5YR7/4 にじいろ N4/ 灰	・器形は縱長逆円錐+脚 ・厚手の器壁 ・脚柱面上一丁ナデオサエ ・脚底面化粧	・脚底面平追 ・短く粗粒がりの脚 ・体部高2.5cm7本右上 がりのタスキ  ・在地生産土器 ・脚柱部、脚柱部に縦溝 筋立つと化粧で飾る ことが特徴である
317	製塙土器 I b	90-1	器高不明 口径不明 底部径5.2	30% 脚部1/2のみ	5Y4/ 灰オリーブ	・器形は縱長逆円錐+脚 ・厚手の器壁 ・脚柱面上一丁ナデオサエ ・脚底面化粧	・脚底面平追 ・短く粗粒がりの脚 ・体部高2.5cm7本右上 がりのタスキ  ・在地生産土器
318	製塙土器 I b	90-1	器高不明 口径不明 底部径4.2	10% 脚部のみ	10YR8/3 浅黄橙	・器形は縱長逆円錐+脚 ・厚手の器壁 ・脚柱面上一丁ナデオサエ ・脚底面化粧	・脚柱面上一丁ナデオサエ ・短く粗粒がりの脚 ・体部四段階成形  ・在地生産土器 ・脚柱部のオサエは極めて小さい ・脚柱部上部より少し
319	製塙土器 I a	90-2 SR-1	器高24.0 口径11.6 底部径5.0	75% 復元して完形	7.5YR7/6 橙 10YR8/2 灰白	・器形は縱長逆円錐+脚 ・脚柱面上一丁ナデオサエ ・脚底面はほぼ平追 ・体部内面追は棒状器具 によって追削して成形	・2×2.5cm7本右上 がりのタスキ  ・在地生産土器
320	製塙土器 I b	90-2 西土器部	器高不明 口径不明 底部径5.0	10% 脚部のみ	10YR8/2 灰白	・器形は縱長逆円錐+脚 ・短い脚 ・脚柱面上一丁ナデオサエ ・脚底面化粧	・在地生産土器

七器番号 および 図版番号	器種	出土地点・法量 (cm)	残存状況	色 調 外 内	特 徴	備 考	
321	タコ壺	89-1-W区 II SR 1 土器部B	器高10.9 口径6.6 底部径4.0	50% 復元して完形	5YR8/4 法標	・綫長コップ形状 ・2m6本水平タスキ ・底面平坦	・在地生産土器
322	タコ壺	89-1 IV SR 1 土器部A	器高不明 口径10.8 底部还不明	20% 口縁部のみ復元	10YR8/2 灰白 2.5YR8/2 灰白	・開口部に向かって内 湾 ・開口部表面横ナデ ・内面へナダ	・在地生産土器
323	タコ壺	90-1 II SR-3	器高不明 口径不明 底部径4.3	20% 底部のみ	7.5YR7/6 橙	・綫長コップ形状 ・2m6本水平のタスキ ・底面平坦	・在地生産土器
324	タコ壺	90-1 II	器高11.4 口径6.7 底部径4.0	ほぼ完形	5YR8/4 法標	・綫長コップ形状 ・2m6本水平のタスキ ・底面平坦 ・開口部付近に径1.2cm孔	・在地生産土器
325	タコ壺	90-1 II	器高不明 口径不明 底部径4.2	40% 底部及び 全体のみ	7.5YR8/2 灰白	・綫長コップ形状 ・2m6本水平のタスキ ・底面平坦 ・全体段成形	・在地生産土器
326	タコ壺	90-2 II 西土器部	器高10.3 口径6.5 底部径4.0	50% 復元して完形	2.5Y8/2 灰白	・綫長コップ形状 ・開口部内湾 ・全体段成形 ・粘土ひび物上げ跡	・在地生産土器 ・穿孔がある可能性あり
327	タコ壺	90-2 — SR-1	器高5.3 口径6.5 底部径3.5	ほぼ完形	7.5YR5/6 明褐色	・内底面に指ナデ痕 ・底部に黒斑	・在地生産土器 ・小形の陶の可能性もある
328	鉢	89-1 Ia SR-1	器高9.05 口径15.3 底部径5.2	ほぼ完形	2.5Y8/3 灰青 2.5Y8/2 灰白	・底脚貼付時の底面オサエ ・底脚貼付時のオサエ ・2m6本石上上がりのタスキ	・在地生産土器
329	鉢	89-1-W区 Ia SR-1 土器部A	器高8.2 口径16.2 底部径5.4	ほぼ完形	2.5Y8/2 灰白	・底脚貼付時の底面オサエ ・底脚貼付時のオサエ ・2m7本石上上がりのタスキ ・内面へミカキ	・在地生産土器
330	鉢	89-1-W区 Ia SR-1 土器部A	器高不明 口径不明 底部径5.2	50% 底部のみ	10YR8/2 灰白	・底脚貼付時の底面オサエ ・底脚貼付時のオサエ ・石上りのタスキ	・在地生産土器
331	鉢	89-1 IIb SR-1 土器部C	推定高11.1 腹部最大径15.5 口径17.1 底部径3.6	40% 復元して完形	2.5Y8/2 灰白	・内湾して立上る体部に外腹す心型い口縁が行く ・底脚貼付後タスキを後オサエ ・厚手の器壁	・在地生産土器
332	鉢	89-1 III SR-1 土器部C	器高9.1 口径22.3 底部径4.1	90% 口縁部1/3 欠損 復元して完形	5YR8/3 淡青	・体部は縦やかに内湾 ・特に口縁部で作出して ・二次焼成なし ・タスキを後底脚付タネ	・在地生産土器
333	鉢	90-1 Ib SR-1	器高8.6 口径10.4 底部径4.7	ほぼ完形	2.5Y7/2 灰青	・大きく述べて立上る体部 ・底脚貼付時のオサエ ・内面板状工具ナデ	・在地生産土器
334	鉢	90-1 Ia	器高7.7 口径13.2 底部径3.5	80% 復元して完形	2.5Y8/2 灰白 10YR6/1 灰白	・体部に粘土ひび一本 ・分枝の縦筋部を付け ・加えている ・右上がりの粗いタスキ	・在地生産土器 ・体部は變土体部と同様のものか
335	鉢	90-1 Ia	器高7.3 口径16.4 底部径5.2	50% 復元して完形	2.5YR6/4 にぼい黄褐色 5YR6/8 橙	・縦やかに内湾して立上る体部 ・底脚貼付時の底面オサエ ・底脚貼付時のオサエ	・在地生産土器
336	鉢	90-1 Ia SR-1	器高不明 口径不明 底部径3.4	60% 底部のみ	2.5Y7/2 灰青	・大きく述べて立上る体部 ・底脚貼付時のオサエ ・内面板状工具ナデ	・在地生産土器

土器番号 および 国版番号	器種	出土地点	法量 (cm)	残存状況	色調 外 内	特 徴	備 考
337	鉢	90-1 SR-1 土器窓	器高不明 口径不明 底部径5.7	50% 底部のみ	7.5YR7/8 黄橙	・縁やかに内溝して立上がる体部 ・底脚貼付時の底面オサエ ・底脚貼付時のオサエ	・在地生産土器
338	鉢	90-1 I a	器高不明 口径不明 底部径5.7	20% 底部のみ	7.5YR8/3 浅黄橙	・底脚貼付時の底面オサエ ・底脚貼付時のオサエ ・体部は不明	・在地生産土器
339	鉢	90-1 I a	器高不明 口径不明 底部径4.6	10% 底部のみ	5Y8/1 灰白	・縁やかに内溝して立上がる体部 ・底脚貼付時の底面オサエ ・底脚貼付時のオサエ	・在地生産土器
340	鉢	90-1 —	器高不明 口径不明 底部径4.5	10% 底部のみ	7.5YR6/8 橙	・高台貼付時の底面オサエ ・高台貼付時のナデ ・体部は不明	・製壇土器の 可能性
341	鉢	90-1 II a SR 1	器高6.8 口径10.8 底部径3.9	ほぼ完形	10YR8/2 灰白	・体部は内溝して立上がるが端部をわずかに外反させる ・高台状の底脚貼付 ・内面板状工具によるナデ	・在地生産土器
342	鉢	90-1 III	器高5.8 口径9.5 底部径3.3	50% 復元して完形 にびい黄橙	10YR8/3 灰白 10YR7/4 にびい黄橙	・体部は内溝して立上がる ・特に口縁を作出していない ・底脚貼付オサエ ・外面ナデ	・在地生産土器
343	鉢	90-1 II a SR 3	器高5.7 口径10.7 底部径3.7	70% 復元して完形 にびい黄橙	10YR7/2 にびい黄橙 10YR7/3 にびい黄橙	・体部は内溝して立上がるが端部をわずかに外反させる ・底脚貼付オサエ ・内面板状工具によるナデ	・在地生産土器
344	鉢	90-1 III	器高7.2 口径9.1 底部径3.4	完形	2.5Y8/2 灰白	・体部は内溝して立上がる ・体部は膨長 ・特に口縁を作出していない ・底脚貼付オサエ ・外面ナデ	・在地生産土器
345	鉢	90-1 III 土器窓B	器高10.35 口径17.0 底部径3.8	ほぼ完形	2.5Y7/2 灰黄 2.5Y8/2 灰白	・体部は内溝して立上がる ・特に口縁を作出していない ・体部は膨長 ・底脚貼付オサエ	・在地生産土器
346	鉢	90-2 I a SR-1	器高不明 口径不明 底部径4.5	10% 底部約 1/3のみ	10YR8/1 灰白	・縁やかに内溝して立上がる体部 ・底脚貼付時の底面オサエ ・底脚貼付時のオサエ	・在地生産土器
347	鉢	90-2 III	器高5.2 口径10.2 底部径3.4	95% 口縁部・部 欠損 復元して完形	10YR8/1 灰白 10YR8/2 灰白	・体部は内溝して立上がる ・特に口縁を作出していない ・底脚貼付オサエ後タタキ	・2cm本右上がりのタタキ ・二次焼成なし ・在地生産土器
348	こしき	89-1-W区 SR-1	器高10.45 口径15.8 底部径5.0	80% 復元して完形	2.5Y8/2 灰白 7.5Y8/2 灰白	・体部に複雑な形 ・底部に径12mmの穿孔 ・底脚貼付オサエ後タタキ後穿孔 ・2.5cm本右上がりのタタキ	・在地生産土器
349	こしき	90-1 SR-1	器高12.8 口径17.7 底部径4.2	40% 復元して完形	2.5Y8/2 灰白	・底部に径12mmの穿孔 ・底脚貼付オサエ後タタキ後穿孔 ・2.5cm本右上がりのタタキ	・在地生産土器
350	不明	90-1 SR 1	器高不明 口径不明 底部径4.7	10% 底部のみ	2.5Y7/2 灰黃	・内面にケズリ成形痕 ・外向に指印サエ	・在地生産土器 ・器種など不明な点が多い
351	鉢	90-1	器高3.7 口径9.1	80% 口縁部約 1/2欠損	2.5Y8/2 灰白	・内溝して立上がる浅い体部 ・丸底 ・内外面にフミガキ	・粘土は非常に緻密

# 図 版

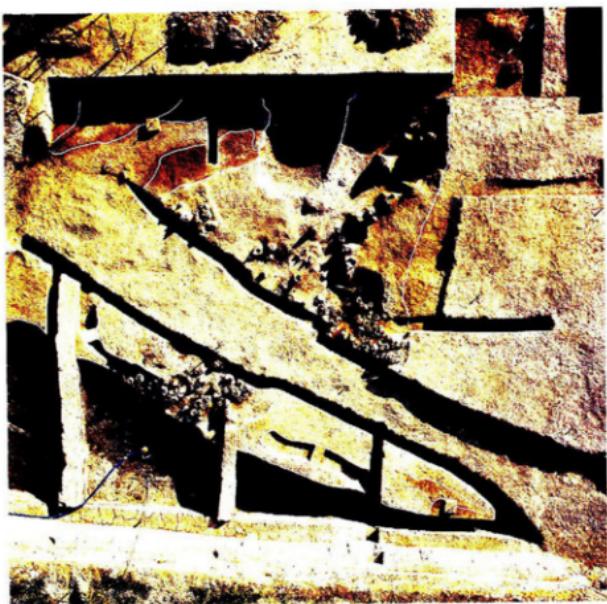
図版第1 全景



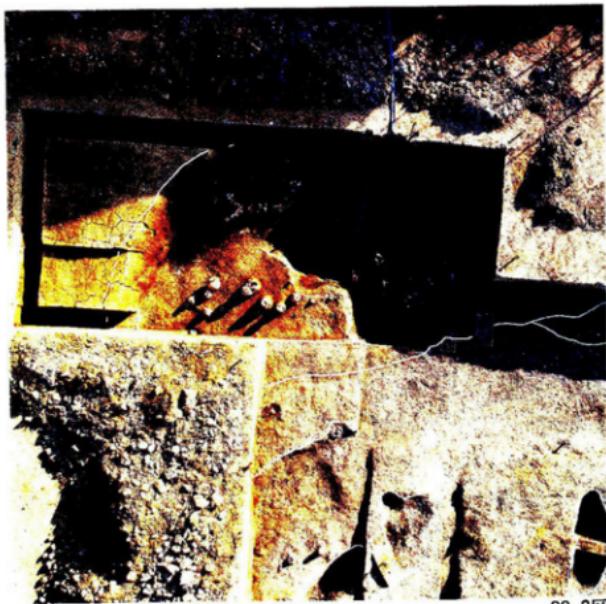
調査区全景（北西から）



89-1-W区全景（北から）



90-1区（北東部分）



90-2区



89-1-W区SR1と壁面（東から）



90-1区北西部壁面（北東から）

図版第4  
遺構



90-1区北東部SR1付近

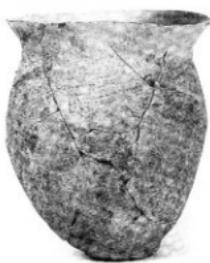


90-2区流路状況（南東から）

図版第5 遺物



1



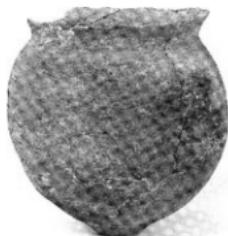
3



4



11



12



20



21



22

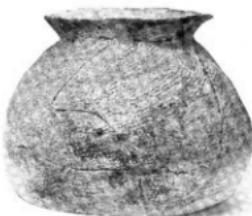
図版第6 遺物



23



24



25



29



31



32



33



34

図版第7 遺物



36



40



42



43



46



47



59



60

図版第8 遺物



61



67



68



69



77



78



79



80

図版第9 遺物



81



84



86



87



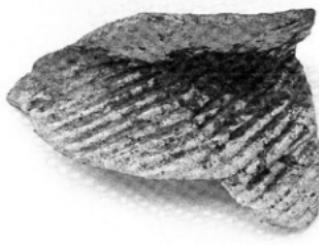
88



90



104

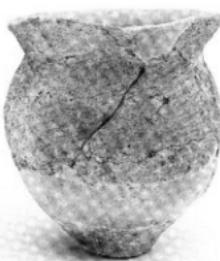


106

図版第10 遺物



111



113



115



116



117



118



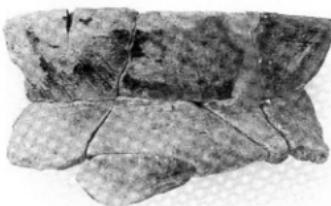
119



120



121



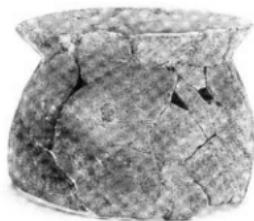
122



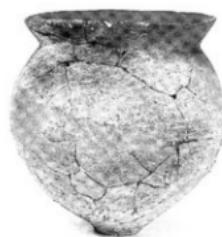
128



129



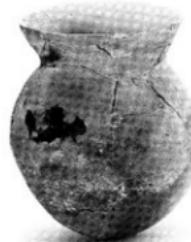
131



132



133



134

図版第12 遺物



135



136



137



138



139



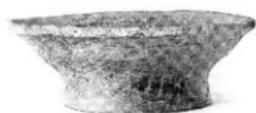
140



141



144



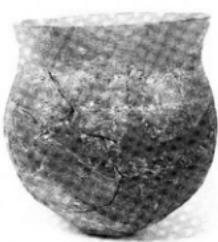
151



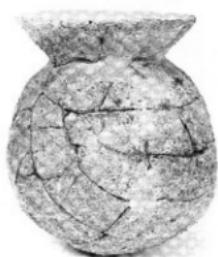
152



154



155



156



157

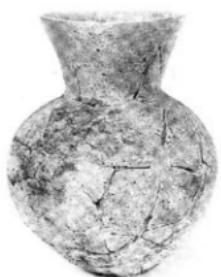


158



159

図版第14 遺物



160



161



162



163



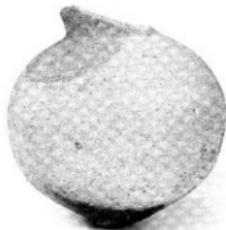
164



166



173



174

図版第15  
遺物



175



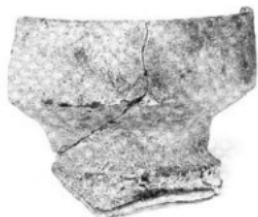
178



179



180



184



185



189



190

図版第16 遺物



191



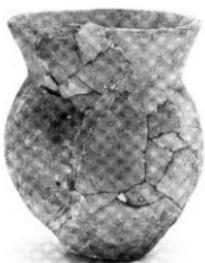
192



197



198



199



200



204



205

図版第  
17 遺物



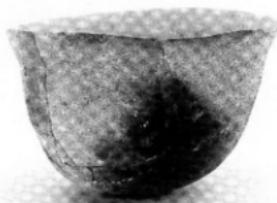
207



208



209



210



211



212



213



214

図版第18  
遺物



223



224



225



228



229



230



231



233



234



235



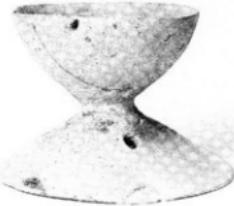
242



250



251



252



253

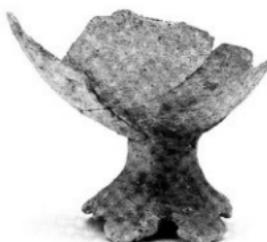


260

図版第20  
遺物



263



267



280



283



284



285



287



289



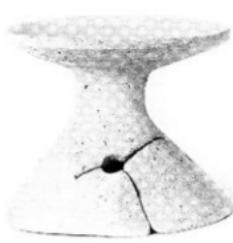
290



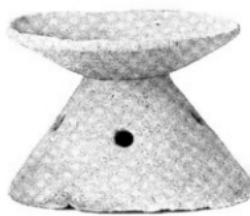
291



292



293



294



297



300



302

図版第22 遺物



306



310



314



316



319



321



322



324



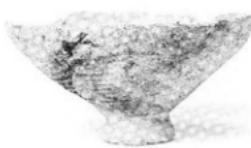
326



327



328



329



331



332



333

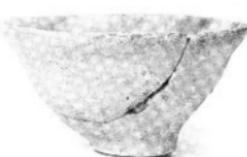


335

図版第24  
遺物



341



343



344



345



346



347



348



351

## 報告書抄録

ふりがな	おおくぼEいせきはっくつちょうさかいようほうこくしょ							
書名	大久保E遺跡発掘調査概要報告書							
副書名								
卷次	I							
シリーズ名	熊取町文化財調査報告							
シリーズ番号	第27集							
編著者名	前川 淳							
編集機関	熊取町教育委員会							
所在地	〒590-04 大阪府泉州郡熊取町大字野田2244 TEL0724-52 1001							
発行年月日	1997年3月							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東緯	調査期間	調査面積	調査原因
所取遺跡	所在地	市町村	遺跡番号				m <sup>2</sup>	
おおくぼEいせき 大久保E遺跡	おおさかふ せんなんぐん くまとりちょう おおくぼ 大阪府泉州郡 熊取町大久保 127-1他4筆	27361	89-1	34°20'45"	135°20'45"	89-1区 19890701 ~19890930	507	仮排水用 雨水管設 置工事
			90-1			90-1区 19900801 ~19910301	517.5	道路建設 工事
			90-2			90-2区 19900801 ~19910301	400	宅地開発 工事
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
大久保E遺跡	集落遺跡	弥生時代～ 古墳時代	自然流路3 溝 1	土師器破片数6468点 (実測可能数402点)	弥生時代から近世までの 複合遺跡			
		中世	包含層					

熊取町埋蔵文化財報告第27集

## 大久保E遺跡発掘調査概要報告書 I

98-1区・90-1区・90-2区

発行日 平成9年3月31日

編集発行 熊取町教育委員会

大阪府泉南郡熊取町大字野田2444番地

印 刷 摂河泉文庫